

授 業 科 目 名	心理学		
担 当 者 名	永野 勇二	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000001	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択必修
ナンバリング	DP1-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	心理学は、学ぶ前の学生には最も大きな期待を、学んだ学生には最も大きな失望を与える学問だと言った人がいる。一般の人が心理学に期待することは、カウンセリングなどの臨床心理学、性格判断や心理テスト、犯罪の心理学的捜査などが多いです。心理学は、その発展途上で、科学にすることを目指してきました。研究者たちは、学問として確固たるものにするために、その必要があったのです。臨床心理士や公認心理士の影響もあり、その道を進む人もいますが、心理学は実験心理学として、その地位を築いてきたのです。したがって種々の項目を網羅的に学んで行く必要があります。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	受講生は、心理学の基礎から応用までを説明できるようになることを目的としている。しかしサブタイトルにもあるように、心理学は面白い学問だということも知ることができるようになることを目的としている。いわゆる実験心理学も臨床心理学等も深く学ぶことができるようになる。		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	心理学のテーマは無限ー心理学って何だ？	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分） ※詳細は下の補足説明欄を参照（以下同じ）。	
2.	悩みを抱える人を助けるー臨床心理学	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
3.	精神分析、人間性心理学	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
4.	性格は変えられるかー性格と個人差の心理学	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
5.	社会的行動の心理学	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
6.	人を好きになるのはなぜ？	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
7.	人が生まれてから死ぬまでー発達心理学	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
8.	人生は悩むことー思春期・青年期	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
9.	心を測るー心理学的アセスメント	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
10.	発達のアセスメント、性格のアセスメント	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
11.	世界をどうとらえるかー知覚・認知・記憶の心理学	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	

12.	知覚とアフォーダンス	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）
13.	行動と学習の心理学	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）
14.	心はどう探求されてきたかー心理学の歴史	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）
15.	心理学の未来	事前：テキストの指定範囲の予習（90分） 事後：授業内容の復習（90分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
毎週4コマ分、全体で60コマ分を目標に学修してください。学修内容は、教科書を基にして予習をしてください。また授業後の復習もしっかり頭に残るように、ノートを整理しておいてください。		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験		
100%		
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
『心理学・入門』改訂版、2019	サトウタツヤ・渡邊芳之	有斐閣
<b>参考書又は参考資料等</b>		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。授業中の無駄話や必要もないのに席を立つ行為は厳に慎むこと。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	

授 業 科 目 名	美術		
担 当 者 名	都 留 守	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2000002	授 業 形 態	講義
学 年	後期	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択必修
ナンバリング	DP1-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「対話による美術鑑賞」と「表現活動」を一体化した授業です。この演習では、公立学校教諭・北九州市教育委員会指導主事としての職務経験を有する教員が、公立学校での指導経験・研修歴を生かして授業を実施する。『見つめる感じる考える Watch Feel Think』の活動から生まれた各自の意見を交流し合うことで、芸術作品のテーマや作者の思いに迫り、自己の価値観を高め・深め・広げる鑑賞を行います。意見の交流を通して、自己の相対比や他者理解が促されます。学習者が発見し関心をもった課題を全員で考え、共同で知識を構成していく授業です。そして、鑑賞活動を通して得た感動や学びをもとに自由に自己表現します。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>「美術を通して豊かな感性をもつ人間形成」を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品鑑賞を通して、見つめる力・感じる力・考える力を養う。</li> <li>2. 芸術作品と出会って、見つけた課題を自分の言葉で表現する力を養う。</li> <li>3. 他者の意見を受け入れ、自分の見方・感じ方・考え方を高め・深め・広げる。</li> <li>4. 鑑賞を通して得た感動や学びをもとに、自己表現をする力を養う。</li> </ol>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1.	オリエンテーション 色々な見方、感じ方、表し方に出会う。	事前：「色々な見方、感じ方」について調べる（90分） 事後：「色々な作品」を観た感想を「振り返り」にまとめる（90分）	
2.	デューラーの作品「祈りの手」を鑑賞し、作品に込めた思いに触れ、鉛筆で「祈りの手」を描こう。	事前：「デューラー」について調べる（90分） 事後：「デューラー」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）	
3.	古賀春江の作品「無題」を鑑賞し、思い付いたお話をもとに次の場面を想像して描こう。	事前：「古賀春江」について調べる（90分） 事後：「古賀春江」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）	
4.	ゴッホが「ひまわり」に込めた思い・願いを受け止め、「私のひまわり」をオイルパステルで描こう。	事前：「ゴッホ」について調べる（90分） 事後：「ゴッホ」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）	
5.	マティスの作品「ジャズ」を鑑賞し、コラージュの技法で表現しよう。	事前：「マティス」について調べる（90分） 事後：「マティス」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）	
6.	ドガの作品「マネとマネ夫人像」を鑑賞し、作品の切り取られた部分を想像してパステルで表現しよう。	事前：「ドガ」について調べる（90分） 事後：「ドガ」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）	
7.	田中敦子の作品を鑑賞し、丸と線で表現をしよう	事前：「田中敦子」について調べる（90分） 事後：「田中敦子」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）	

8.	白髪一雄の作品を鑑賞し、絵の具と紙粘土で表現しよう。	事前：「白髪一雄」について調べる（90分） 事後：「白髪一雄」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
9.	糸園和三郎の作品「老婦と子ども」を鑑賞し、「過去・現在・未来」をモノトーンで表現しよう。	事前：「糸園和三郎」について調べる（90分） 事後：「糸園和三郎」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
10.	一原有徳の作品を鑑賞し、モノプリントで表現しよう。	事前：「一原有徳」について調べる（90分） 事後：「一原有徳」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
11.	ピカソの作品を鑑賞し、オイルパステルで「自画像」を表現しよう。	事前：「ピカソ」について調べる（90分） 事後：「ピカソ」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
12.	北九州市立美術館の企画展を鑑賞する校外研修の事前研修を行い、研修計画をたてる。	事前：「北九州市立美術館」について調べる（90分） 事後：「北九州市立美術館」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
13.	北九州市立美術館の企画展を鑑賞する（校外研修）	事前：「企画展」について調べる（90分） 事後：「企画展」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
14.	北九州市立美術館の企画展を鑑賞する（校外研修）	事前：「企画展」について調べる（90分） 事後：「企画展」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）
15.	木下晋「103年の闘争 3 2003」に描かれたものを感じ取ろう。「美術」のまとめと評価をしよう。	事前：「木下晋」について調べる（90分） 事後：「木下晋」について学んだことを「振り返り」にまとめる（90分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・毎時間の授業の「振り返り」と「作品の写真」を Web メールで送信する。
- ・「振り返り」は、毎時間の講義後に提出を求めます。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

授業中の取り組む姿勢から「意欲・関心・態度」を評価する	Web メールで送信する「振り返り」から「発想・構想の能力」「鑑賞の能力」を評価する	毎時間制作する作品から「創造的な技能」を評価する	授業以外の自主的な活動を評価する
30%	40%	30%	+α%

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
使用しません		

**参考書又は参考資料等**

- 1.『見つめる 感じる 考える Watch Feel Think』＝鑑賞学習資料：北九州市立美術館を活用した学習プログラム
- 2.『見つめる 感じる 考える Watch Feel Think』＝平成 21-23 年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究課題「対話による意味生成的な美術鑑賞教育の地域カリキュラム開発」報告書

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ・授業で学んだ芸術家について、本学の図書館や北九州市立美術館などの美術館に各自で行って調べる。

- ・授業中に疑問に思ったことやもっと知りたいと思ったことを各自で研究する。
- ※授業後、鑑賞した作家や作品について自主的に調べたり、展覧会に行つて鑑賞したりしたことをレポートで提出したものについては、重く評価する。
- ・Web メールで「振り返り」を毎時間提出します。
- ・「作品鑑賞カード」「ワークシート」は、必要に応じて配布します。
- ・「鑑賞資料」は、必要に応じて配布します。
- ・画用紙などの材料は、基本的に本学の備品を共同で使用します。
- ・作業がしやすい服装で参加してください。
- ・絵の具セット、小道具セット（はさみ、のり、カッター、定規など）、硬筆材（サクラクレパス 12色セット）を各自で用意すると授業に取り組みやすくなります。

担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他
tsuru@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	国語		
担 当 者 名	増田 夏彦	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000003	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択必修
ナンバリング	DP1-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>漢字は国語を表記する上で重要な文字である。漢字の読み書きは、社会人としては必須であろう。本講義では、まず漢字の構造について部首を中心に実践的に学び、次に熟語は二字熟語の構造で基礎を学んだ上で、特に四字熟語の読み書きと意味について実践問題を解くことによって使えるようになることを目指す。</p> <p>後半は、常用漢字表にないが社会人として知っておきたい漢字を含む熟語の読み方と意味を学び、実践問題を解きながら身に付けていく。最後に、日本語の乱れとしてよく指摘されている敬語や「ら抜き言葉」などを学び、日本語を正しく効果的に使うすべを実践する。</p> <p>大学生として必要な日本語表現について問題を解きながら学び、一般常識を身に付け、資格試験や就職試験に資することが本講義の目的である。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1) 漢字の構造を理解し、正確に読み書きできるようになる。</p> <p>2) 熟語の構造を理解して正確に読み書きでき、意味を知って使えるようになる。</p> <p>3) 常用漢字表にない漢字を含む熟語の読み方と意味を習得する。</p> <p>4) 敬語の概念や言葉の乱れを理解し、正確に使えるようになる。</p>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1.	オリエンテーション……授業の説明・計画。漢字の読み方・書き取り	事前：テキスト①を調べる(90分) 事後：ノートをまとめ、実践問題①を解く(90分)	
2.	漢字の学習……漢字の構造(六書)	事前：漢字の構造について調べる(90分) 事後：ノートを整理しながら講義を復習する(90分)	
3.	漢字の学習……漢字の部首(部首名「偏」)	事前：漢字の部首名(偏)を調べる(90分) 事後：漢字の部首名プリント(偏)を埋める(90分)	
4.	漢字の学習……漢字の部首(部首名「偏」以外)	事前：漢字の部首名(偏以外)を調べる(90分) 事後：漢字の部首名プリント(偏以外)を埋める(90分)	
5.	漢字の学習……漢字の部首(「偏」を含む漢字)	事前：「偏」を含む漢字を調べる(90分) 事後：漢字の部首プリント(偏)を埋める(90分)	
6.	漢字の学習……漢字の部首(「偏」以外の部首を含む漢字)	事前：「偏」以外の部首を含む漢字を調べる(90分) 事後：漢字の部首プリント(偏以外)を埋める(90分)	
7.	熟語の学習……熟語の構造、二字・三字熟語	事前：熟語の構造について調べる(90分) 事後：ノートをまとめ、実践問題②を解く(90分)	
8.	熟語の学習……四字熟語(ア行～)	事前：四字熟語について調べる(90分) 事後：ノートをまとめ、実践問題②⑦を解く(90分)	
9.	熟語の学習……四字熟語(ナ行～)	事前：四字熟語について調べる(90分) 事後：ノートをまとめ、実践問題⑧を解く(90分)	
10.	一般常識トレーニング……常用漢字表にない漢字の読み方と意味(ア行～)	事前：常用漢字表にない漢字について調べる(90分) 事後：ノートを整理しながら講義を復習する(90分)	

11.	一般常識トレーニング……常用漢字表にない漢字の読み方と意味（カ行～）	事前：常用漢字表にない漢字について調べる(90分) 事後：ノートをまとめ、実践問題⑮を解く(90分)
12.	一般常識トレーニング……常用漢字表にない漢字の読み方と意味（サ行～）	事前：常用漢字表にない漢字について調べる(90分) 事後：ノートをまとめ、実践問題⑯を解く(90分)
13.	一般常識トレーニング……常用漢字表にない漢字の読み方と意味（ハ行～）	事前：常用漢字表にない漢字について調べる(90分) 事後：ノートをまとめ、実践問題⑰を解く(90分)
14.	一般常識トレーニング……敬語のきまり	事前：テキスト指定範囲を通読し、不明な箇所を調べる(90分) 事後：ノートをまとめ、実践問題⑳を解く(90分)
15.	一般常識トレーニング……言葉の乱れ	事前：言葉の乱れについて調べる(90分) 事後：実践問題やノートを活用し、講義全体を復習する(90分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・漢字のプリントとノートは、第6回の講義後に提出を求めます。(第7回の講義時に返却します)
- ・テキストとノートは、第13回の講義後に提出を求めます。(第14回の講義時に返却します)

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	授業への取組み姿勢・提出物	
70%	30%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
三訂版 国語の常識 plus		明治書院

**参考書又は参考資料等**

- ・講義の中で、適宜紹介していきます。

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ※成績評価については、定期試験を行い、授業への取組み姿勢や提出物などを加味して、総合的に評価する。
- ・とにかく社会人になって損をしない、恥をかかない国語力だけは身に付けてください。
  - ・テキストは必ず購入してください。数回終了後、テキストを持っていない者（なくした者を含む）には単位を出せません。
  - ・提出された課題は、細かくチェックします。定期試験に向けて必ず確認してください。
  - ・テキスト以外にもプリントを配布します。各自ファイルを用意すること。
  - ・講義中の私語は、他の受講生の迷惑となります。ひどいときには、退室を申し渡す場合があります。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
非公開とする。	講義の前後10分間は、2号館4階非常勤講師室にて質問等対応可。

授 業 科 目 名	文学		
担 当 者 名	増田 夏彦	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000004	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	選択必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>文学は精神の発露である。文学史をひもとくことは、精神史をひもとくことにほかならない。本講義では、文学史と有名作品の冒頭および内容から日本文学を概観し、日本人の精神史を考究する。</p> <p>具体的には、時代によって上代・中古・中世・近世・近代・現代の六期に分け、それぞれにおいて韻文学・散文学・劇文学の三種に分類した上で、その流れを探究していく。</p> <p>また、韻文学である詩歌は、言葉の芸術の精華であろう。最後にその詩歌の鑑賞を実践し、ひいては日本人の精神世界に触れていくことによって、日本文化への理解をより一層深めることを目指す。</p> <p>大学生として必要な一般常識を、問題を解きながら身に付け、来たるべき就職試験の一助となることも本講義の目的である。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1) 日本文学の概要を、文学史や有名作品から知る。</p> <p>2) 日本人の精神史を理解する。</p> <p>3) 詩歌を解釈することによって鑑賞できるようになり、日本文化への理解を深める。</p>		
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	オリエンテーション……授業の説明・計画, 日本文学史の時代区分と分類	事前：政治的な時代区分等を調べる (90分)	事後：ノートを整理し、次回に備える (90分)
2.	上代の文学……文学史と作品	事前：上代の時代背景や作品を調べる (90分)	事後：ノートをまとめ、演習問題を解く (90分)
3.	中古の文学……文学史と作品 (韻文学)	事前：中古の時代背景や作品を調べる (90分)	事後：ノートをまとめ、演習問題を解く (90分)
4.	中古の文学……文学史と作品 (散文学)	事前：中古の散文学の作品を調べる (90分)	事後：ノートをまとめ、演習問題を解く (90分)
5.	中世の文学……文学史と作品	事前：中世の時代背景や作品を調べる (90分)	事後：ノートをまとめ、演習問題を解く (90分)
6.	近世の文学……文学史と作品 (散文学)	事前：近世の時代背景や作品を調べる (90分)	事後：ノートをまとめ、演習問題を解く (90分)
7.	近世の文学……文学史と作品 (韻文学・劇文学)	事前：近世の韻文学等の作品を調べる (90分)	事後：ノートをまとめ、演習問題を解く (90分)
8.	近代の文学……文学史と作品	事前：近代の時代背景や作品を調べる (90分)	事後：ノートをまとめ、演習問題を解く (90分)
9.	現代の文学……文学史と作品	事前：現代の時代背景や作品を調べる (90分)	事後：ノートをまとめ、演習問題を解く (90分)
10.	詩歌……詩集・歌集など	事前：詩・短歌・俳句の作品を調べる (90分)	事後：ノートをまとめ、演習問題を解く (90分)
11.	外国の文学……作家と作品	事前：外国の文学の作品を国別に調べる (90分)	事後：ノートをまとめ、演習問題を解く (90分)



12.	日本文学冒頭文……古文・現代文	事前：テキスト所載の作品の解釈をする（90分） 事後：ノートをまとめ、演習問題を解く（90分）
13.	詩歌……和歌・短歌の鑑賞	事前：テキスト所載の作品の解釈をする（90分） 事後：ノートをまとめ、演習問題を解く（90分）
14.	詩歌……俳諧・俳句の鑑賞	事前：テキスト所載の作品の解釈をする（90分） 事後：ノートをまとめ、演習問題を解く（90分）
15.	まとめ……今一度文学の全体の流れを確認する	事前：プリントに従って文学の流れをまとめる(90分) 事後：演習問題やノートを活用し、講義全体を復習する(90分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・講義に出てきた作品は、図書館で探して手に取ってみること。
- ・テキストとノートは、第13回の講義後に提出を求めます。（第14回の講義時に返却します）

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	授業への取り組み姿勢・提出物	
70%	30%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
新版二訂 必携国語	第一学習社編集部編	第一学習社

**参考書又は参考資料等**

- ・講義の中で、適宜紹介していきます。

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ※成績評価については、定期試験を行い、授業への取り組み姿勢や提出物などを加味して、総合的に評価する。
- ・日本文学の歴史を学ぶことにより、一般常識と精神的な豊かさを身に付けてください。また、講義の中で興味のない作品は、是非とも通読してみてください。
  - ・テキストは必ず購入してください。数回終了後、テキストを持っていない者（なくした者を含む）には単位を出せません。
  - ・提出されたテキストは、細かくチェックします。定期試験に向けて必ず確認してください。
  - ・テキスト以外にもプリントを配布します。各自ファイルを用意すること。
  - ・講義中の私語は、他の受講生の迷惑となります。ひどいときには、退室を申し渡す場合があります。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
非公開とする。	講義の前後10分間は、2号館4階非常勤講師室にて質問等対応可。

授 業 科 目 名	日本国憲法		
担 当 者 名	水野 陽一	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000005	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択必修 栄養教諭必修
ナンバリング	DP1-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	私たちは日本というひとつの国をつくり、様々なルール、すなわち法律を決めて日々暮らしています。一人ひとりの自由や平等、国を運営していくしくみを定めた法律が日本国憲法です。この授業では、なるべく身近な話題から、憲法の持つ意味や、憲法をめぐる様々な議論を考えていきましょう。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 人権や政治に関する用語を適切に理解する。 2. 人権や政治に関する新聞記事やニュース番組に関心を持つ。 3. 人権や政治に関する様々な議論について、自身の考えを深める。		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	法とは何か	事前：初回は事前学習不要 事後：講義中の内容を復習（180分）	
2.	法の解釈・適用	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
3.	憲法の基本原理	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
4.	国会	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
5.	裁判	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
6.	財産権：お金を借りるということ	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
7.	教育を受ける権利：奨学金を例に	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
8.	生存権：生活保護	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
9.	身体的自由：刑事手続	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
10.	刑法：適正手続の保障	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
11.	刑法：罪刑法定主義	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
12.	刑事裁判制度	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
13.	個人の尊重と AI	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	
14.	労働者の権利	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）	

15.	労働の基準	事前：予告した内容の予習（90分） 事後：講義中の内容を復習（90分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
・各回の講義にて、事後学習等について連絡をします。		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験（筆記試験）		
100%		
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
使用しない ※各会資料配布		
<b>参考書又は参考資料等</b>		
・必要に応じて講義中に紹介します。		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
・講義中の私語には厳しく注意します。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
	配布資料記載のリンクから質問可能	

授 業 科 目 名		情報処理学	
担 当 者 名		林 勝裕	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2000008	授 業 形 態
学 年		2	講 義
単 位 数		2	開 講 期
ナンバリング		DP1-2-B	後期
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		情報処理学は教職および栄養士の職についての場合に必要な情報処理能力の学習を中心に構成しています。教育活動、栄養指導活動で利用が予測されるアプリケーションソフトウェアの実践的活用が出来ることを目標とします。	
授業の到達目標 〔学習成果〕		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Windows の基本操作ができ、ネットワーク端末としてのコンピュータを利用し、電子メールの基礎的使用方法、Web 検索の簡単な方法など、インターネットを使用した正しい情報の収集及び加工ができる。</li> <li>・ Word を使用して文書整形や文章入力、文字の装飾、ページレイアウト、作表、図形挿入ができる。</li> <li>・ Excel を使用して数値データ処理、表整形、関数の使用、グラフ作成ができる。</li> <li>・ Power point を使用してプレゼンテーション資料の作成ができる。</li> </ul>	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	コンピュータの基礎： コンピュータの仕組み、ファイルとフォルダ、 ファイル操作、情報の記憶単位	事前：次回の講義までに、キーワードとなる用語を十分に理解できるように予習しておく（90分） 事後：講義後は配布資料（添付ファイル）を読み返し、キーワードとなる用語を十分に理解できるように復習をする（90分）	
2.	インターネットの有効活用： 正しい情報の検索・加工、利用上の注意	事前：次回の講義までに、前回の配布資料を見直し予習しておく（90分） 事後：講義後は配布資料を読み返し、キーワードとなる用語を十分に理解できるように学校のパソコンなどで練習する（90分）。	
3.	電子メール演習：ビジネス様式の電子メール演習	事前：次回の講義までに、前回の配布資料を見直し予習しておく（90分） 事後：講義後は配布資料を読み返し、キーワードとなる用語を十分に理解できるように内容をしっかりと復習する（90分）	
4.	(Word)基本操作演習： テキストボックス、特殊効果文字、 クリップアート、イラスト、表	事前：講義前に前回の配布資料を見直し、Word 基本操作 ができるように予習しておく（90分） 事後：講義後は配布資料を読み返し、操作ができるように学校のパソコンなどで練習しておく（90分）	
5.	(Word)課題作成 1：「給食だより」課題作成 1 ペイントの基本操作	事前：前回の講義中に提示された課題については、提出要件をよく確認し、Word 基本操作を予習しておく （90分） 事後：講義後は、授業で扱った内容をしっかりと復習して課題を作成する（90分）	
6.	(Word)課題作成 2：「給食だより」課題作成 2 課題提出	事前：講義前に、Word 基本操作ができるように学校のパソコンなどで練習しておく（90分） 事後：次回の講義までに課題を完成させ、提出できるようにすること（90分）	

7.	(Power point)基本操作 1 : プレゼンテーションの基礎、図形挿入、 アニメーションの設定、「給食だより」の素材 (データ) を使って課題作成	事前：講義前に前回の配布資料を見直し、Power point 基本操作ができるように学校のパソコンなどで練 習しておくこと (90 分) 事後：講義後は、授業で扱った内容をしっかりと復習し て課題を作成すること (90 分)
8.	(Power point)基本操作 2 : プレゼンテーションの基礎、図形挿入、 アニメーションの設定、画面切り替え、 「給食だより」の素材 (データ) を使って課題 提出	事前：講義前に、Power point 基本操作ができるように 学校のパソコンなどで練習しておくこと (90 分) 事後：次回の講義までに課題を完成させ、提出できるよ うにすること (90 分)
9.	(Excel)基本操作演習 1 : データ入力の基礎、計算式、書式の変更、 Word に Excel の表を貼り付け	事前：講義前に前回の配布資料を見直し、Excel 基本操 作ができるように予習しておく (90 分) 事後：講義後は配布資料を読み返し、操作ができるよう に学校のパソコンなどで練習しておく (90 分)
10.	(Excel)基本操作演習 2 : 条件分岐、オートフィル、基本的関数、罫線、 グラフ	事前：講義前に Excel 基本操作を確認し、操作ができる ように予習しておく (90 分) 事後：講義後は配布資料を読み返し、操作ができるよう に学校のパソコンなどで練習しておく (90 分)
11.	(Excel)実技試験	事前：講義前に Excel 基本操作を確認し、操作ができる ように予習しておく (90 分) 事後：Excel 実技試験後は、配布資料を読み返し、十分 に理解できるように復習をする (90 分)
12.	(Excel)課題作成 1 : 「献立表」の作成 1 (ケースの多い条件分岐)	事前：講義前に、前回の配布資料に「献立表」に必要な 成分表を作成しておく (90 分) 事後：講義後は配布資料 (添付ファイル) を読み返し、 十分に理解できるように復習をする (90 分)
13.	(Excel)課題作成 2 : 「献立表」の作成 2 (複数シートの処理)	事前：講義前に、前回の配布資料に「献立表」に必要な 食材を作成しておく (90 分) 事後：講義後は配布資料を読み返し、十分に理解できる ように学校のパソコンなどで復習をする (90 分)
14.	(Excel)課題作成 3 : 「献立表」の作成 3 (データ入力)	事前：講義前に、前回の配布資料に「献立表」に必要な 食材を作成しておく (90 分) 事後：次回の講義までに課題を完成できるように、学校 のパソコンなどで作業を進めておく (90 分)
15.	(Excel)課題提出 4 : 「献立表」の課題作成、提出	事前：講義前に、「献立表」作成に必要な Excel 関数の設 定ができるように予習しておく (90 分) 事後：これまで講義で学んできた基本操作や各アプリケ ーションソフトウェアを活用ができるか再確認 (復習) をする (90 分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

基礎から応用まで幅広い内容となっていますので、毎回の講義の復習は必須です。

**成績評価の方法 [評価項目と割合]**

定期試験	Word・Excel の課題	Word・Excel の小テスト	Power point の課題
40%	30%	20%	10%

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
講義中に適宜資料を配布する。		

**参考書又は参考資料等**

特になし

**その他 [受講に際しての注意点、課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて]**

授業の後半になると課題作成が多くなりますので、提出期限に遅れないようにすること。

担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡します。	講義終了後の質問等対応可。

授 業 科 目 名	生物学		
担 当 者 名	安保 康治	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300001	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	選択必修 医療秘書必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	生物学はヒトを含む生物を科学的に解明する学問である。生物を構成する細胞および構成する物質の役割、体タンパク質の合成に関与する遺伝子(DNA,RNA)の働き、生体に必要なエネルギー(ATP)の産生について学び、さらに、生態系と環境の関わりについても学ぶ。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 社会人の教養として、われわれの体について、細胞及び遺伝子レベルで理解できる。 2) 医療に関わる職業人として、ヒトの体の成り立ちが理解でき、説明できるようになる。		
授 業 計 画	準備学習（事前・事後 等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション(講義の概要)・生物学(分子生物学)とは	事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (180分)	
2.	細胞の構造と生命誕生①(細胞の構造と機能)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
3.	細胞の構造と生命誕生② (多細胞生物、細胞間結合)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
4.	生命体を構成する物質① (アミノ酸とタンパク質、糖質)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
5.	生命体を構成する物質② (脂質、核酸、ビタミンとミネラル)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
6.	遺伝子の構造と機能① (DNA の構造、DNA の複製)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
7.	遺伝子の構造と機能② (遺伝子の転写と RNA の翻訳)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
8.	前半(細胞、生体成分、遺伝子)のまとめと 練習問題	事後：練習問題を再度実施し理解を深めること (180分)	
9.	生体と ATP①(酵素と代謝、ATP)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
10.	生体と ATP②(解糖系、TCA 回路、電子伝達系)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
11.	光合成と窒素同化①(光合成)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
12.	光合成と窒素同化②(窒素同化)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
13.	生命体と環境①(環境と生態系)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
14.	生命体と環境②(生態系での物質循環)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	

15.	後半(生体と ATP、光合成と窒素同化、生命体と環境) のまとめと練習問題	事後：練習問題を再度実施し理解を深めること (180 分)
<b>事前学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習として、テキストの授業計画範囲を通読し、わかりづらい個所についてまとめて講義に臨むこと。</li> <li>・事後学習として、講義で指示した重要ポイントをノートにまとめることで理解を深めること。</li> </ul>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	授業への取り組み	
80%	20%	
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
やさしい基礎生物学	南雲保・今井一志 他	羊土社
<b>参考書又は参考資料等</b>		
適宜プリントを配布する。		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
まとめとして授業内で実施する練習問題は、解答と解説でフィードバックする。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
keabo@wa2.so-net.ne.jp	講義終了後 10 分間は、講義室又は 2 号館 4 階非常勤講師室にて質問等対応可。	



授 業 科 目 名	国際理解		
担 当 者 名	竹並 正宏	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000010	授 業 形 態	
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング	DP1-1-C		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>グローバル化の進む社会では、各分野のスペシャリストが、国際的感覚や視野を持つことは、大切である。このプログラムでは、海外での職務経験を有する教員が、日本が国際化の大きな波の中で、どういう立ち位置にあり、どういう方向性を持ち取り組んでいるのか。そして、そこにはどのような課題があるのか。グループディスカッションやディベートを取り入れながら考察し、課題解決策を模索していく。事前研修で、渡航先の歴史や文化を学ぶと同時に郷土・日本のそれらとを比較する。また、最低限の外国語会話スキルの取得を目指し、現地でのフィールドワークの準備をする。渡航先では、各専門分野に関係のある施設や店舗等を訪問し、その際の見聞や体験を通して、その国独特の文化や習慣に基づく多様性に気づく機会を持つ。事後研修では、社会の国際化・多様化に伴って増えてくる新しいニーズと学んだ多様性との因果関係を考察し、プレゼンテーション形式で、体験談をシェアし、課題の解決策の提案へと発展させる。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 渡航に必要な手続きについての理解（パスポート、ビザ、入国及び通関審査）を通して、国境の意義とその必要性を客観的に説明できるようにする。</li> <li>2. 国際化が進む中、発生する課題について、データを用いて分析・評価する。</li> <li>3. グローバル社会での多様な価値観や利害関係、他民族への配慮等について討議できるようになる。</li> <li>4. 具体的な事例の分析や評価をもとに、課題に向けた解決策を提案する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準 備 学 習（予 習・復 習 等）の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1.	今年度の国際理解（海外研修）に関するガイダンス	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（30分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（60分）	
2.	国際理解（海外研修）の位置づけ	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（30分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（60分）	
3.	韓国 韓国の歴史・釜山女子大学についての説明 台湾 台湾の歴史・長庚大学についての説明	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（30分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（60分）	
4.	韓国 韓国語（挨拶・自己紹介） 台湾 中国語（挨拶・自己紹介）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（30分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（60分）	
5.	韓国 韓国語（空港にて（入国審査・税関）） 台湾 中国語（空港にて（入国審査・税関））	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（30分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（60分）	
6.	韓国 韓国語（交通機関の使い方） 台湾 中国語（交通機関の使い方）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（30分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（60分）	
7.	韓国 韓国語（宿泊先でのチェックイン） 台湾 中国語（宿泊先でのチェックイン）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（30分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（60分）	
8.	韓国 韓国語（買い物時の尋ね方） 台湾 中国語（買い物時の尋ね方）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（30分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（60分）	
9.	韓国 海外渡航手続きについての説明 台湾 海外渡航手続きについての説明	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（30分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（60分）	

10.	韓国 韓国語 (レストランでの注文や支払い) 台湾 中国語 (レストランでの注文や支払い)	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(60分)
11.	韓国 折紙作り (園児との交流会での贈物) 台湾 折紙作り (園児との交流会での贈物)	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(60分)
12.	韓国 韓国語 (道の聞き方・伝え方) 中国 中国語 (道の聞き方・伝え方)	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(60分)
13.	韓国 結団式 台湾 結団式	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(60分)
14.	韓国 現地学生との交流と料理作りや茶道、 幼稚園視察 台湾 現地学生との交流と市場や幼稚園視察	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(60分)
15.	ディスカッション：体験報告・課題討論	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(60分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

「アイデアノート」用 A4 ノートを準備してください。PC で作成しても構いません。プログラム終了時、提出してもらいます。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

研修中の姿勢	授業への取組み姿勢	アイデアノート	
50%	25%	25%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
使用しない (都度資料を配布)		

**参考書又は参考資料等**

視聴覚教材を使いながら具体的にわかりやすく韓国語を学ぶ。

**その他〔受講に際しての注意点、課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて〕**

成績評価については、担当教員が、事前学習の受講姿勢、研修中の状況及び研修終了後の報告書(レポート)を総合的に評価する。

①授業の進め方：教科担任及び JTB 担当者が連携を取りながら、海外研修に関する事前学習、渡航手続き、交流会の準備を行い研修の充実を期す。

②事前・事後学修：台湾について中国語について事前学習を行い、旅行中はメモを取り、速やかに報告書をまとめる。交流会においては、積極的に交流を進める。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
takenami@knwu.ac.jp	

授 業 科 目 名	国際理解		
担 当 者 名	梅崎 義雄	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2000010	授 業 形 態	
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング	DP4-1-C		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	グローバル化の進む社会では、各分野のスペシャリストが、国際的感覚や視野を持つことは、大切である。このプログラムでは、海外での職務経験を有する教員が、日本が国際化の大きな波の中で、どういう立ち位置にあり、どういう方向性を持ち取り組んでいるのか。そして、そこにはどのような課題があるのか。グループディスカッションやディベートを取り入れながら考察し、課題解決策を模索していく。事前研修で、渡航先の歴史や文化を学ぶと同時に郷土・日本のそれらとを比較する。また、最低限の外国語会話スキルの取得を目指し、現地でのフィールドワークの準備をする。渡航先では、各専門分野に関係のある施設や店舗等を訪問し、その際の見聞や体験を通して、その国独特の文化や習慣に基づく多様性に気づく機会を持つ。事後研修では、社会の国際化・多様化に伴って増えてくる新しいニーズと学んだ多様性との因果関係を考察し、プレゼンテーション形式で、体験談をシェアし、課題の解決策の提案へと発展させる。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 渡航に必要な手続きについての理解（パスポート、ビザ、入国及び通関審査）を通して、国境の意義とその必要性を客観的に説明できるようにする。</li> <li>2. 国際化が進む中、発生する課題について、データを用いて分析・評価する。</li> <li>3. グローバル社会での多様な価値観や利害関係、他民族への配慮等について討議できるようになる。</li> <li>4. 具体的な事例の分析や評価をもとに、課題に向けた解決策を提案する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準 備 学 習（予 習・復 習 等）の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1.	オリエンテーション（パスポートやビザ）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）	
2.	訪問国の基本的知識の習得（歴史と文化）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）	
3.	サバイバル英会話①挨拶・自己紹介	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）	
4.	サバイバル英会話②空港にて（入国審査・税関）	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）	
5.	サバイバル英会話③交通機関の使い方	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）	
6.	サバイバル英会話④宿泊先でのチェックイン	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）	
7.	サバイバル英会話⑤買い物時の尋ね方	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）	
8.	サバイバル英会話⑥レストランでの注文や支払い	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）	
9.	サバイバル英会話⑦道の聞き方・伝え方	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。（45分） 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。（45分）	

10.	サバイバル英会話⑧電話での対応の仕方	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(45分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
11.	サバイバル会話⑨お礼・別れの言い方	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(45分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
12.	結団式・壮行会	事前：UNIPA で通知した配布資料を通読しておくこと。(45分) 事後：結団式を終え、海外渡航への期待や不安、意気込みをアイデアノートにまとめる。(45分)
13.	現地在住日本人や外国人との交流とビジネス視察	事前：会話内容や質問事項を検討する。(45分) 事後：交流や視察で得たものをアイデアノートにまとめる。(45分)
14.	ディスカッション：体験報告・課題討論	事前：アイデアノートを使ってディスカッションの準備をする。(45分) 事後：ディスカッションからのフィードバックをアイデアノートにまとめる。(45分)
15.	プレゼンテーション： ディスカッション内容の発表	事前：ディスカッションの内容を発表用に整理する。(45分) 事後：プレゼン時に得たフィードバックをアイデアノートにまとめ提出する。(45分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

「アイデアノート」用 A4 ノートを準備してください。PC で作成しても構いません。プログラム終了時、提出してもらいます。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

研修への取り組み	授業への取り組み姿勢	アイデアノート	
50%	25%	25%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）		

**参考書又は参考資料等**

適時指示する。

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

アイデアノートの作成を課します。クリエイティビティ（図表やイラストなど）や独創性も評価します。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
授業開始後改めて連絡します。	

授 業 科 目 名	英語 I		
担 当 者 名	梅崎 義雄	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2000017	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	必修 栄養教諭必修 栄養士必修 医療秘書必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	グローバル化の進む日本社会は、英語の基礎的なコミュニケーション能力をもつ食のスペシャリストを求めている。この講義では、海外での職務経験を有する教員が、多様化する現代の食と栄養をテーマにして、受講者の英語脳を育てていく。英語の一区切りの文は、基本的には、わずか3つの品詞（名詞、動詞、形容詞）を使った5種類の文で構成されている。複雑に見える文も、これらに副詞や前置詞句を足す事によってできている。英語のコミュニケーションで大切なのは、動詞によって決まるこれら5つの文型を順序よく、正しい発音で発話し、文章化するスキルである。本講義では、日本語にはない英語独特の音を口の形と舌の位置で正しく発音することにより自然とリスニング力も高まることを体験する。また、英語の音とスペル(つづり)の関係性を学び、1つの基本単語から派生する単語を学び、語彙力もあげていく。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語独特の音を出せるようになり、その音に対するリスニング力をあげる。</li> <li>2. 英語の音とスペル（つづり）の関係性を学ぶ。</li> <li>3. 基本単語とその派生語の関係性を学ぶ。</li> <li>4. 動詞によって決まる5つの文型を書き、発話できるようになる。</li> <li>5. 5つの文型を更に、副詞や前置詞句を使って発展させる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習 等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	Get to Know Each Other : 文法、発音、会話	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
2.	Kitchen : 文法、発音、会話	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
3.	Nutrition for Helath : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
4.	Likes and Dislikes : 文法、発音、会話	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
5.	Carbohydrates : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
6.	Ordering Food : 文法、発音、会話	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
7.	Fats and Proteins : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
8.	At a Restaurant : 文法、発音、会話	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
9.	Vitamins and Minerals : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	

10.	Cooking : 文法、発音、会話	事前 : UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後 : キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)
11.	The Importance of Balance : 語彙強化、読解、聴解	事前 : UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後 : キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)
12.	Recipes : 文法、発音、会話	事前 : UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後 : キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)
13.	Diets : 語彙強化、読解、聴解	事前 : UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後 : キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)
14.	Giving Dietary Advice : 文法、発音、会話	事前 : UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後 : キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)
15.	Unbalanced Diet : 語彙強化、読解、聴解	事前 : UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後 : キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

「アイデアノート」用 A4 ノートを準備してください。PC で作成しても構いません。半期終了時、提出してもらいます。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	授業への取組み姿勢	アイデアノート	
50%	25%	25%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
使用しない(都度資料を配布)		

**参考書又は参考資料等**

--

**その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕**

アイデアノートの作成を課します。クリエイティビティ(図表やイラストなど)や独創性も評価します。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
realfoods@knwu.ac.jp	

授 業 科 目 名	英語Ⅱ		
担 当 者 名	梅崎 義雄	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2000018	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	必修 栄養教諭必修 栄養士必修 医療秘書必修
ナンバリング	DP1-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	英語Ⅰに引き続き、海外での職務経験を有する教員が、多様化する現代の食と栄養をについて、テーマを変えて、受講者の英語脳をさらに育てていく。この講義では、英語のコミュニケーションに幅や奥深さをつけるために必要な品詞について学ぶ。これらの品詞は、それぞれに役割があり、文型や他の品詞との関係で置く場所が決まる。これは、会話や文を書く際に、大切である。前期でマスターした5つの文型にこの知識を加えることにより、英語力の幅や奥深さが育つ。さらに、発話の際のリズムやアクセントを学ぶことにより、より自然な会話が楽しめるようになる。本講義では、英語Ⅰでカバーできなかった英語独特の音の数を増やして、さらに学ぶ。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語独特の音を出せるようになり、その音に対するリスニング力をあげる。</li> <li>2. 英語の音とスペル（つづり）の関係性を学ぶ。</li> <li>3. 基本単語とその派生語の関係性を学ぶ。</li> <li>4. 動詞によって決まる5つの文型を書き、発話できるようになる。</li> <li>5. 5つの文型を更に、副詞や前置詞句を使って発展させる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	Talking about Diets (1) : 文法、発音、会話	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
2.	Body Weight : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
3.	Diet Information : 文法、発音、会話	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
4.	Food Choices : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
5.	Dietitian : 文法、発音、会話	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
6.	Eating Disorders : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
7.	Talking about Diets (2) : 文法、発音、会話	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
8.	Foods that Make People Sick : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
9.	Special Dietary Needs : 文法、発音、会話	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	
10.	Safe Food Preparation : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)	

11.	Sharing Experiences : 文法、発音、会話	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)
12.	Beverages : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)
13.	Japanese Diet : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)
14.	Work of Dietitians : 語彙強化、読解、聴解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)
15.	Crossword Puzzle : 語彙強化、読解	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(30分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(30分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

「アイデアノート」用 A4 ノートを準備してください。PC で作成しても構いません。半期終了時、提出してもらいます。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	授業への取り組み姿勢	アイデアノート	
50%	25%	25%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）		

**参考書又は参考資料等**

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

アイデアノートの作成を課します。クリエイティビティ（図表やイラストなど）や独創性も評価します。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
realfoods@knwu.ac.jp	



授 業 科 目 名	スポーツ健康科学 I		
担 当 者 名	石原 勇次郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000019	授 業 形 態	講義・実技
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	必修 栄養教諭必修 栄養士必修 医療秘書必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	講義においては、健康の維持・増進や生活習慣病の予防、精神の安定（ストレスマネジメント）、文化としてのスポーツの意味合い等を理解し、多角的にスポーツを捉えることで、健康的な生活をおくる為の知識を習得する。特に「スポーツ健康科学 I」では自身の身体の状態を把握・理解することに注力する。また、実技においては、講義にて得られた知識をもとに、生涯にわたり継続可能なスポーツ種目に親しむことのできる能力獲得を目標にし、自らが主体的な姿勢で取り組み、各種スポーツのルールを理解と実践、身体を動かす楽しさや重要性を理解する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の身体の状態を客観的に把握・理解できるようになる</li> <li>2. 健康の維持・増進の為の知識を習得し、私生活に運動を取り入れることができるようになる。</li> <li>3. 様々な角度からスポーツを捉え、文化としてのスポーツの意味を理解する。</li> <li>4. 自ら進んで行動し、主体的な姿勢と態度で取り組むことができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション レクスポ大会練習①	復習：レポート作成（10分）	
2.	レクスポ大会練習②	復習：レポート作成（10分）	
3.	形態及び身体組成と体力・運動能力測定①	復習：レポート作成（10分）	
4.	形態及び身体組成と体力・運動能力測定②	復習：レポート作成（10分）	
5.	ニュースポーツ① （ルールと基本テクニックの理解・習得）	復習：レポート作成（10分）	
6.	ニュースポーツ②（試合）	復習：レポート作成（10分）	
7.	バドミントン① （ルールと基本テクニックの理解・習得）	復習：レポート作成（10分）	
8.	バドミントン②（基本テクニックと基礎練習）	復習：レポート作成（10分）	
9.	バレーボール① （ルールと基本テクニックの理解・習得）	復習：レポート作成（10分）	
10.	バレーボール②（基本テクニックと基礎練習）	復習：レポート作成（10分）	
11.	バスケットボール① （ルールと基本テクニックの理解・習得）	復習：レポート作成（10分）	
12.	バスケットボール②（基本テクニックと基礎練習）	復習：レポート作成（10分）	
13.	選択種目（クラスで最大2種目を選択）	復習：レポート作成（10分）	
14.	運動やスポーツの魅力（必要性和楽しさの仕組み）	復習：レポート作成（10分）	
15.	心身の発育発達 （発育発達に必要な運動の理解と前期のまとめ）	予習：講義資料の確認（30分） 復習：レポート作成（10分）、理解度確認テスト（40分）	

準備学習・事後学習等についての補足説明			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成は、原則 Google フォームにて提出。</li> <li>・前期最後の講義にて理解度確認テストを実施するので、講義で配られた資料を各自まとめておくこと。</li> <li>・新聞等を読み、日頃からスポーツ・健康に関する情報を収集するよう努めること。</li> </ul>			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
授業への取組み姿勢	講義毎の小レポート	理解度確認テスト	
50%	30%	20%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
講義中に適宜、資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕			
<p>評価の 50%は、レポートあるいは理解度確認テストにおいて行うため真剣に取り組むこと。なお、レポートあるいは理解度確認テスト評価は、とても良い、普通、不十分、評価不能の 4 段階で評価し、レポートは 15 回分、理解度確認テストは 1 回分にて最終評価を行う。</p> <p>講義は、教室及び注意事項等、講義前に掲示します。各自確認すること。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
ishiharay@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	スポーツ健康科学Ⅱ		
担 当 者 名	石原 勇次郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000200	授 業 形 態	講義・実技
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修	必修 栄養教諭必修 栄養士必修 医療秘書必修
ナンバリング	DP1-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「スポーツ健康科学Ⅱ」では、原則的に「スポーツ健康科学Ⅰ」を習得してから履修するものとする。講義においては、「スポーツ健康科学Ⅰ」に引き続き、健康の維持・増進や生活習慣病の予防、精神の安定（ストレスマネジメント）、文化としてのスポーツの意味合い等を理解し、多角的にスポーツを捉えることで、健康的な生活をおくる為の知識を習得する。また、実技では、講義にて得られた知識をもとに、生涯にわたり継続可能なスポーツ種目に親しむことのできる能力獲得を目標にし、各種スポーツのルールを理解と実践、身体を動かす楽しさや重要性を理解し、自らが主体的な姿勢で実践する。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の身体の状態を客観的に理解し、自身に見合った運動強度を把握できるようになる。</li> <li>2. 健康の維持・増進の為の知識を習得し、私生活に運動を取り入れることができるようになる。</li> <li>3. 様々な角度からスポーツを捉え、文化としてのスポーツの意味を理解する。</li> <li>4. 自ら進んで行動し、主体的な姿勢と態度で取り組むことができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション	復習：レポート作成（10分）	
2.	バレーボール① （基礎練習とチーム練習の知識と理解）	復習：レポート作成（10分）	
3.	バレーボール②（チーム練習と試合）	復習：レポート作成（10分）	
4.	バレーボール③（チーム練習と試合）	復習：レポート作成（10分）	
5.	バスケットボール① （基礎練習とチーム練習の知識と理解）	復習：レポート作成（10分）	
6.	バスケットボール②（チーム練習と試合）	復習：レポート作成（10分）	
7.	バスケットボール③（チーム練習と試合）	復習：レポート作成（10分）	
8.	卓球①（ルールと基本テクニックの理解・習得）	復習：レポート作成（10分）	
9.	卓球②（試合：シングルス）	復習：レポート作成（10分）	
10.	卓球③（試合：ダブルス）	復習：レポート作成（10分）	
11.	選択種目①（クラスで最大2種目を選択）	復習：レポート作成（10分）	
12.	選択種目②（クラスで最大2種目を選択）	復習：レポート作成（10分）	
13.	選択種目③（クラスで最大2種目を選択）	復習：レポート作成（10分）	
14.	運動やスポーツの魅力（必要性和楽しさの仕組み）	復習：レポート作成（10分）	
15.	心身の発育発達 （発育発達に必要な運動の理解と前期のまとめ）	予習：講義資料の確認（30分） 復習：レポート作成（10分）、理解度確認テスト（40分）	

準備学習・事後学習等についての補足説明			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成は、原則 Google フォームにて提出。</li> <li>・前期最後の講義にて理解度確認テストを実施するため、講義で配られた資料を各自まとめておくこと。</li> <li>・新聞等を読み、日頃からスポーツ・健康に関する情報を収集するよう努めること。</li> </ul>			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
授業への取り組み姿勢	講義毎の小レポート	理解度確認テスト	
50%	30%	20%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
講義中に適宜、資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕			
<p>評価の 50%は、レポートあるいは理解度確認テストにおいて行うため真剣に取り組むこと。なお、レポートあるいは理解度確認テスト評価は、とても良い、普通、不十分、評価不能の 4 段階で評価し、レポートは 15 回分、理解度確認テストは 1 回分にて最終評価を行う。</p> <p>講義は、教室及び注意事項等、講義前に掲示します。各自確認すること。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
ishiharay@hcc.ac.jp			

授 業 科 目 名	児童・生徒の栄養指導		
担 当 者 名	土谷 政代	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300010	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>朝食欠食や生活習慣病の低年齢化等、児童生徒を取り巻く食の課題の増加に伴い、児童生徒が望ましい食習慣を身につける等、食育の推進を目的に栄養教諭制度が創設された。</p> <p>本授業では、食に関する現状、栄養教諭の役割、食に関する指導の目的、推進方策を理解するとともに、教科や特別活動における食に関する指導に係る学習指導案の立案について、学習指導要領を踏まえながら理解を深める。さらに、学校給食を生きた教材として活用する食に関する指導や食物アレルギー対応についても学習を深める。</p> <p>この講義では、栄養教諭としての実務経験および栄養教諭創設時に県教育委員会の指導主事として指導的立場での実務経験を有する教員が、栄養教諭制度全般に関して、ワークショップや KJ 法、グループディスカッション等を取り入れながら、ポイントを押さえ、分かりやすく指導を行う。</p> <p>講義の序盤では、栄養教諭制度導入時に県教育委員会に勤務した経験を活かし、栄養教諭創設の経緯やその背景にあるもの、栄養教諭創設に関する法令、栄養教諭に求められるもの子どもの食生活や学校給食も含めた食に関する現状について、栄養教諭制度全般について、学生が理解を深められるよう講義を行う。</p> <p>講義の中盤では、学校における食育を中核的に担う栄養教諭としての役割について理解を深める。具体的には、食育推進に係る全体計画の作成や学習指導要領について理解を深め、更に各教科・領域における食に関する指導の進め方についても理解を深める。</p> <p>講義の終盤では、各教科や特別活動（学級活動）における学習指導案の作成について、指導教員の栄養教諭としての実務経験を生かして演習を行い、児童生徒の発達段階を考慮した学習指導案を立案できることを目指す。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養教諭制度の創設の経緯と食に関する現状・課題について理解する。</li> <li>2. 栄養教諭及び食に関する指導に係る法律について理解する。 (食育基本法、学校教育法、学校給食法等)</li> <li>3. 栄養教諭の職務内容、使命、求められる役割について理解する。</li> <li>4. 学習指導要領及び教育過程、食に関する指導の推進方策(全体計画等)を理解する。</li> <li>5. 教科及び特別活動における食に関する指導の学習指導案を作成できる。</li> <li>6. 給食の時間における食に関する指導及びその方策について理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習 等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション(教育課程の概要、 教職課程履修の手引について)	<p>事前：参考資料「食育基本法」について情報収集し、その内容を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：「教職課程履修の手引」のポイントをまとめ、キーワードノートを作成する（90分）</p>	

2.	栄養教諭の制度と役割	<p>事前：配布資料（1回目の授業で配布）を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：文部科学省ホームページでも栄養教諭制度に関する情報収集を行い、キーワードノートにまとめる（90分）</p>
3.	栄養教諭及び食に関する指導関係法令、学校給食の教育的意義と役割	<p>事前：テキスト「食に関する指導の手引」（第2節：食育基本法の施行及び食育推進基本計画）を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：栄養教諭制度に関する法律や食育推進計画等についてまとめ、キーワードノートを作成する（90分）</p>
4.	学校給食の歴史と食文化の変遷	<p>事前：テキスト「食に関する指導の手引」（学校給食とは）を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：食文化の変遷を踏まえて学校給食についてまとめ、キーワードノートを作成する（90分）</p>
5.	子どもの発達と食生活	<p>事前：テキスト「食に関する指導の手引」（児童生徒の食生活を取り巻く現状）を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：子どもの食生活やその背景等についてまとめ、食育白書等の関連書籍や指定のメディアからの情報収集を行うこと（90分）</p>
6.	食に関する指導の展開とその方策（全体計画等）	<p>事前：テキスト「食に関する指導の手引」（学校・家庭・地域が連携した食育の推進）を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：食に関する指導の全体計画の必要性や全体計画に盛り込まれるべき内容についてまとめ、キーワードノートを作成する（90分）</p>
7.	学級活動（給食の時間）における食に関する指導	<p>事前：テキスト「食に関する指導の手引」（給食の時間における食に関する指導）を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：学習指導要領解説（特別活動）の「学校給食」について関連用語を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）</p>
8.	個別指導 「食物アレルギー、やせ、肥満、スポーツ栄養」	<p>事前：テキスト「食に関する指導の手引」（個別的な指導方法）を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：食物アレルギー等について、文部科学省ホームページ等で学習内容に関する情報収集を行うこと（90分）</p>
9.	教科における食に関する指導 「家庭、技術・家庭」「体育・保健体育」	<p>事前：テキスト「食に関する指導の手引」（家庭・体育等）を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：学習指導要領解説（家庭、体育等）について関連用語を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）</p>

10.	教科における食に関する指導 「生活、道徳、総合的な学習の時間」	事前：テキスト「食に関する指導の手引」（生活・道徳等）を通読しておくこと（90分） 事後：学習指導要領解説（生活、道徳、総合的な学習の時間）について関連用語を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
11.	学習指導案作成 （学習指導案の目的・ねらい・作成手順等）	事前：テキスト「学習指導要領総則」「食に関する指導の手引」（学習指導要領の改訂）を通読しておくこと（90分） 事後：食生活学習教材等で学習指導案作成について理解を深め、作成手順について復習を行う（90分）
12.	学習指導案作成演習	事前：テキスト「食に関する指導の手引」（各教科等における食に関する指導）を通読しておくこと（90分） 事後：学習指導案作成について理解を深め、作成手順について復習を行うこと（90分）
13.	学習指導案作成演習・発表、 グループディスカッション （教科における食に関する指導について）	事前：テキスト「食に関する指導の手引」（各教科等における食に関する指導）を通読しておくこと（90分） 事後：学習指導案作成について理解を深め、特に教科における指導の在り方について復習を行うこと（90分）
14.	学習指導案作成演習・発表、 グループディスカッション （学級活動における食に関する指導について）	事前：テキスト「食に関する指導の手引」（各教科等における食に関する指導）を通読しておくこと（90分） 事後：学習指導案作成について理解を深め、特に学級活動教科における指導の在り方について復習を行うこと（90分）
15.	栄養教諭の職務の在り方： 学校給食の管理と食に関する指導の観点から、 望ましい栄養教諭像についてグループ討議を行う	事前：グループ討議に向けて、これまで学習した内容について理解を深め、自分なりの考えをもって授業に臨むこと（90分） 事後：栄養教諭が行う職務について、講義全体を振り返り次年度の栄養教育実習に向けて、更に理解を深めておくこと（90分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・「食育基本法」や「食育推進計画」「食育の取組」について情報収集をしておくことが大切です。
- ・「キーワードノート」については、指定のノートで作成すること。
- ・「キーワードノート」は第14回の講義後に提出を求めます。（第15回の講義時に返却します）

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	課題等提出（指導案含む）	
80%	20%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
食に関する指導の手引き―第2次改訂版―	文部科学省	
小学校学習指導要領	文部科学省	
小学校学習指導要領解説（特別活動編・家庭編）	文部科学省	
栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート	芦川 修貳	

<b>参考書又は参考資料等</b>	
食育白書	
<b>その他</b> [受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて]	
・児童生徒の食生活の実態、学校給食の現状等を把握して授業に望むことが大切です ・授業予定の該当する教科書の箇所に通しておいてください。	
<b>担当教員の連絡先等</b>	
担当教員 E-mail	その他
tsuchiya-m@hcc.ac.jp (土谷)	



授 業 科 目 名	教育原理		
担 当 者 名	吉田 浩一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2000014	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>・本授業は、教育に関する基本的概念や教育の歴史や教育史上の人物の思想、教育制度の歴史や教育行政、今日の教育課題など幅広く扱い、教育に関する知見を身に付け、自分なりの教育観を確立するための基礎を養成することを目指している。本授業にあたっては、小学校現場で教育実践研究を深め、管理職経験のある実務家教員が担当し、グループ協議やグループでのプレゼンテーションの作成、調べた内容の発表などを取り入れ、主体的能動的な学習を仕組む。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の基本的概念や構成要因等を理解し、説明できる。</li> <li>2. 教育の歴史的知識を身に付け、教育の歴史上の人物とその思想、教育的諸理念との関係、教育及び学校の歴史的変遷を調べ、発表する。</li> <li>3. 様々な教育思想の理解のもと、多様な教育理念や実際の教育及び学校との関係を理解し、説明できる。</li> <li>4. 現代の学校教育に関する現状・制度・課題、社会教育と生涯学習についての基礎的知識、学校と地域の連携、学校安全の対応の基礎知識を身に付け、説明できる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1.	教育の概説	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
2.	教育の意義と目的	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
3.	西洋教育史上の人物・思想・制度の理解 ～プラトン・コメニウス・ルソー・ペスタロッチ等～	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
4.	西洋教育史上の人物・思想の理解 ～フレーベル・ヘルバルト・デューイ・ヴィゴツキー等～	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
5.	日本教育史上の人物・思想・制度の理解 ～貝原益軒・吉田松陰・昌平坂学問所・藩校等～	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
6.	日本教育史上の人物・思想・制度の理解 ～大正自由教育・学制・小学校令・教育勅語等～	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
7.	教育とジェンダー問題	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
8.	人権教育	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
9.	公教育の理念	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
10.	教育行政の理念と仕組み・教育制度	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	

11.	教育の現代的課題～いじめ・不登校・虐待	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをもとめる。(25分)
12.	教育と社会～PTA・地域との連携と人間関係構築 ※「教育原理のまとめ」レポートの提出	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをもとめる。(25分)
13.	子どもと教育環境～貧困、ジェンダー、外国籍児童生徒への対応	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをもとめる。(25分)
14.	子どもの学びと学校安全と防災教育	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをもとめる。(25分)
15.	学校の危機管理 ※レポート返却	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをもとめる。(25分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・ 「教育原理のまとめ」(講義内容のまとめノート)については、紙ベース若しくは PC 等を使用して作成する。
  - ・ 「教育原理のまとめ」は、レポートとして第 12 回の講義後に提出を求めます。(第 15 回の講義時に返却します)
- ※ 電子データにて作成している場合は、別途出力のうえ提出してください。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	レポート	グループ発表	
50%	30%	20%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
入門・教育学	吉田 浩一	三恵社

**参考書又は参考資料等**

※講義の際に必要な参考資料を配布します。

**その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕**

- ・ 講義の際に、重要事項やまとめておいてほしいことを伝えます。講義後に「教育原理のまとめ」ノートを PC または手書きで作成してください。その様式は、講義の際に伝えます。第 12 回の講義の時に提出します。第 15 回の講義の際に返却します。その際にフィードバック資料を配布します。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
k.yoshida@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	教職概論		
担 当 者 名	吉田 浩一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300068	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修	栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は、現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解することを目指している。授業にあたっては、小学校現場で管理職経験のある実務者教員が担当し、グループの協議や発表など主体的な学習活動を位置づけ、栄養教諭としての具体的な役割や職務の認識を深め今日的な社会における教師としての職業意識の醸成を図る。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義、教職の職業的特徴を理解し説明することができる。</li> <li>2. 教職観の変遷を踏まえ、今日求められる教員の資質能力、服務上・身分上の義務等について理解を深め、発表できる。</li> <li>3. チーム組織の一員としての栄養教諭の職務と役割について理解し、栄養教諭像を描き、職務に関する技能の基礎を身に付ける。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	教師についての概括理解	事前・テキストの関連内容を読んでおく。（45分） 事後・講義ノートにまとめる。（45分）	
2.	学校教育の教員、教職員、教師の概念	事前・テキストの関連内容を読んでおく。（45分） 事後・講義ノートにまとめる。（45分）	
3.	教育公務員～他の職業と比較して	事前・テキストの関連内容を読んでおく。（45分） 事後・講義ノートにまとめる。（45分）	
4.	教職の職業的特徴	事前・テキストの関連内容を読んでおく。（45分） 事後・講義ノートにまとめる。（45分）	
5.	今日求められている教師像	事前・テキストの関連内容を読んでおく。（45分） 事後・講義ノートにまとめる。（45分）	
6.	教員の適性	事前・テキストの関連内容を読んでおく。（45分） 事後・講義ノートにまとめる。（45分）	
7.	教師像の変遷～聖職者論と労働者論	事前・テキストの関連内容を読んでおく。（45分） 事後・講義ノートにまとめる。（45分）	
8.	教職論～専門職論と技術的熟達者論	事前・テキストの関連内容を読んでおく。（45分） 事後・講義ノートにまとめる。（45分）	
9.	教職員の服務	事前・テキストの関連内容を読んでおく。（45分） 事後・講義ノートにまとめる。（45分）	
10.	教職員の実態～最近の傾向	事前・テキストの関連内容を読んでおく。（45分） 事後・講義ノートにまとめる。（45分）	
11.	職務上の義務	事前・テキストの関連内容を読んでおく。（45分） 事後・講義ノートにまとめる。（45分）	

12.	身分上の義務	事前・テキストの関連内容を読んでおく。(45分) 事後・講義ノートにまとめる。(45分)
13.	教職員の権利と身分保障	事前・テキストの関連内容を読んでおく。(45分) 事後・講義ノートにまとめる。(45分)
14.	チーム組織の一員としての栄養教諭	事前・テキストの関連内容を読んでおく。(45分) 事後・講義ノートにまとめる。(45分)
15.	働き方改革	事前・テキストの関連内容を読んでおく。(45分) 事後・講義ノートにまとめる。(45分)
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
・「講義のまとめ」ノートについては、紙ベース若しくは PC などを利用して作成すること。		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	グループ協議・発表	
70%	30%	
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
『入門・教職概論』	吉田 浩一	三恵社
<b>参考書又は参考資料等</b>		
講義の際に必要な参考資料を配布します。		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
・講義の際に、重要事項やまとめてほしいことを伝えます。講義後にまとめノートを手書きか PC で作成してください。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
k.yoshida@hcc.ac.jp		

授 業 科 目 名	教育心理学		
担 当 者 名	永野 勇二	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2000016	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	栄養教諭必修
ナンバリング	DP1-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教育心理学は教育事象の解明とその研究成果の教育現場への応用を旨とする心理学分野である。教育心理学の知見は、教師や生徒だけでなく親や社会にとっても有益である。また、教育心理学は変化し発達する人間の教育に役立つ実践的なものである。すなわち教育現場の中で問題を発見し、解明・評価し、これを学問の進歩にもつなげるものである。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達の概念及び教育における発達の意義を理解している。</li> <li>2. 学習を支える動機づけ、集団作り、学習評価について、発達の特徴と関連付けて理解している。</li> <li>3. 栄養教諭として必要な生活習慣、心の健康に関する適切な指導・助言の在り方を理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	教育心理学とは何か・・・教育心理学の方法	事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（180分）	
2.	記憶力がいいとはどういうことか	事前：テキスト指定範囲（初回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
3.	学ぶことと考えるごと	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
4.	学習	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
5.	動機づけ	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
6.	人間関係	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
7.	学習指導	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
8.	教育評価	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
9.	人間の発達 遺伝と環境	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	

10.	認知発達	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
11.	人格発達	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
12.	発達障害 発達障害の特徴とアセスメント	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
13.	カウンセリング	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
14.	教育統計 平均値、分散、偏差値	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
15.	まとめ	事前：初回～14回の内容についてノートを活用し復習する（90分） 事後：ノートを活用し、講義全体を復習する（90分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キーワードノート」については、ノートに記すこと。</li> <li>・「キーワードノート」は第14回の講義後に提出を求めます。（第15回の講義時に返却します）。</li> </ul>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	授業内課題及びコメントシート	
70%	30%	
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
やさしい教育心理学	鎌原雅彦 他	有斐閣
<b>参考書又は参考資料等</b>		
講義中に、適宜紹介します。		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者全体の理解度や到達度により授業内容及び進度が若干前後することがあります。</li> <li>不明な点や質問、もっと知りたい部分があれば積極的に申し出てください。</li> </ul>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
講義開始後に改めて連絡をします。		

授 業 科 目 名	特別支援教育概論		
担 当 者 名	山田 幸代	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300066	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「発達障害」と診断された幼児・児童生徒のみならず、その疑いのある幼児・児童生徒は一般の保育現場および通常学級にもかなりの割合で在籍している。さらに「特別の支援」という概念を拡げるならば、すべての幼児・児童生徒がそれぞれ「特別な支援を必要とする子どもたち」であると考えられる。本講は、臨床心理士として、保育現場、特別支援学校等において幼児や児童生徒の全人的発達の基礎に食育が必須である事を観察し、保育士や教職員と共に食育支援プログラムを作成してきた教員が、発達心理学、対人心理学、知能心理学および食育の視点から、幼児・児童生徒の自己実現を支援する方法を講義および演習で学ぶことを目的とする。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育に関する制度や理念を理解している。</li> <li>2. 特別支援教育を要する幼児・児童生徒の発達・心理・行動特性（例えば味覚異常、極度の偏食など）を理解し、その検査法などを理解している。</li> <li>3. 特別支援教育に関する種々の視点から、その方法を理解し、例示することができる。</li> <li>4. 「生活単元学習」「自立活動学習」「食事に関する動作・マナーの獲得」などの教科課程上の位置づけと内容を理解している。</li> <li>5. 特別支援教育の対象となる幼児・児童生徒について他機関などとの連携を理解している。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	「特別の支援を要する子どもたち」とは？ 事例提示による導入。	事前：1の資料を通読しておくこと（45分） 事後：提示された事例について各自考察を深めること（45分）	
2.	生物学的存在の「ヒト」から社会的存在の「人間」へ。 3つのきょういく「胸育」「共育」「教育」と「食育」	事前：1年の「臨床栄養学」のノートを再読しておくこと（45分） 事後：提示された3つのきょういくと提示されて事例について考察を深めること（45分）	
3.	心身の発達と3つのきょういく 阻害要因と支援のあり方（1）検査法概説	事前：遠城寺式分析的乳幼児発達検査を通読しておくこと（45分） 事後：発達の大きな変化点について上記検査との関連を考察すること（45分）	
4.	心身の発達と3つのきょういく 阻害要因と支援のあり方（2）検査法との関連	事前：テキスト『生きづらいと思ったら親子で発達障害でした』を通読しておくこと（45分） 事後：テキストと検査法および発達と虐待の関連について考察を深めること（45分）	
5.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ （1）知的障害（講義）	事前：知的障害について各自検索しておくこと（45分） 事後：講義で示した新たな「知能」「知的障害」について考察を深めること（45分）	
6.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ （2）肢体不自由（講義）	事前：肢体不自由について各自検索しておくこと。摂食における困難性について考えること（45分） 事後：講義内容について考察を深めること（45分）	
7.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ （3）視覚・聴覚障害（講義）	事前：視覚・聴覚障害について各自検索しておくこと。視覚・聴覚障害での摂食における課題を考えておくこと（45分） 事後：講義内容について考察を深めること（45分）	

8.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ (4) 発達障害 ADHD (グループワーク、レポート作成)	事前：ADHDについて各自検索しておくこと（45分） 事後：グループワーク（討議）に従いレポートを完成させること（90分）
9.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ (5) 発達障害 ASD (グループワーク、レポート作成)	事前：ASDについて各自検索しておくこと（45分） 事後：グループワーク（討議）に従いレポートを完成させること（90分）
10.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ (6) 発達障害 DCD（グループワーク、レポート作成）	事前：DCD（発達性協調運動障害）について各自検索しておくこと（45分） 事後：グループワーク（討議）に従いレポートを完成させること（90分）
11.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ (7) 精神疾患、若年性うつ、統合失調症（講義）	事前：幼児・児童生徒、保護者の精神疾患について各自検索しておくこと（45分） 事後：講義内容について考察を深めること（45分）
12.	特別支援教育の対象と学習や生活上の困難を学ぶ (8) 家庭の問題・虐待について（講義）	事前：虐待について各自検索しておくこと。被虐待児と食事との関連を考慮しておくこと（45分） 事後：講義内容について考察を深めること（45分）
13.	特別支援教育のプログラム作成 提示された事例について対応を考える (グループワーク)	事前：テキスト『生きづらいと思ったら親子で発達障害でした』を再読しておくこと（45分） 事後：グループで討議した内容の考察を深めること（45分）
14.	特別支援教育のプログラム作成 提示された事例について対応を考える（全体討議）	事前：前回のグループ討議の内容を各自考察すること（45分） 事後：全体討議の内容の考察を深めること（45分）
15.	受講者各自にとっての「特別支援教育とは何か」を考える（講義）	事前：講義、グループワークを通してノートを再読しておくこと（90分） 事後：各自ノートの再読と整理を行うこと（90分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・可能な範囲で次回の講義やグループワークの事前学習をしてください。また、やむを得ず欠席の場合（病欠など）はノートを整備してください。
- ・なおレポート提出は翌週までとします。レポート作成にあたっては必ずグループ全員で討議し、作成者は交替してください。また「食育」の観点にも言及してください。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	グループワーク・レポート作成	
70%	30%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
生きづらいと思ったら親子で発達障害でした	モンズースー	KADOKAWA

**参考書又は参考資料等**

1. 北九州市立特別支援教育相談センター編「てをつなごうーお子様のすこやかな成長のためにー」
2. 文部科学省編「特別支援教育の現状と課題」(H27.4)

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

講義および演習（グループワーク）に真摯に臨むこと。食事は生きることの基盤です。これを念頭に、とくに何らかの障害（やその疑い）をもつ児童生徒やその保護者、他の教職員に対しての支援者であることを明確に認識し、学習してください。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
非公開とする。	講義後、講義室にしばらく待機します。



授 業 科 目 名	教育課程論		
担 当 者 名	吉田 浩一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300004	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は、教育課程の基本的概念や内容、学習指導要領の変遷、カリキュラム・マネジメントなどについて学ぶことを目標としている。本授業にあたっては、実際に小学校において教育課程を編成・実施・評価してきた実務者教員が行う。グループで協同学習に取り組んだり、調べたことを発表したりする活動を通し、自分自身で教科横断的な教育活動を構想し、作成する基礎を養う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の基本的概念、学習指導要領の変遷と特徴を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 教育課程の編成・実施・評価に関する理論と方法を理解し、説明することができる。</li> <li>3. 教育課程に関する理論をもとに、食に関する単元構成ができるようにする。</li> </ol>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1.	教育課程の基本概念と類型	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。(45分)	
2.	教育課程に係る法令（教育基本法・学校教育法等）	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。(45分)	
3.	近代日本の教育課程	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。(45分)	
4.	学習指導要領の変遷～昭和22年・26年・33年・43年 ※課題別グループ別発表を行う。	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。(45分)	
5.	学習指導要領の変遷～昭和55年・平成元・10・20年 ※課題別グループ別発表を行う。	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。(45分)	
6.	平成29年版小学校学習指導要領	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。(45分)	
7.	教育課程の思想と構造	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。(45分)	
8.	教育課程の編成	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。(45分)	
9.	カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。(45分)	

10.	社会に開かれた教育課程 ※レポートを提出する。	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。 (45分)
11.	新教育課程～ICT・外国語 ※課題別グループ別発表を行う。	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。 (45分)
12.	教科横断的教育活動～ESD、食育 ※課題別グループ別発表を行う。	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。 (45分)
13.	教科横断的な教育活動の構想と展開	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。 (45分)
14.	国際学力調査と文部科学省学力・学習状況調査	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。 (45分)
15.	海外教育課程～シュタイナー教育・イエナプラン等	事前：テキスト関連範囲を通読しておく。(45分) 事後：キーワードノートに指定された内容をまとめる。 (45分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・「キーワードノート」については、紙ベース若しくは PC 等を使用して作成すること。
  - ・「キーワードノート」は第 10 回の講義後に提出を求めます。(第 15 回の講義時に返却します)
- ※ 電子データにて作成している場合は、別途出力のうえ提出してください。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	キーワードノート	グループ発表	
50%	30%	20%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
小学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省	東洋館出版社

**参考書又は参考資料等**

- ・講義中に必要のある時は、教育課程関係資料を配布します。

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ・定期試験については、教育課程の基礎的な内容（法規面、目標面、内容事項）の理解を求めます。問われる基本的な内容事項は講義中に解説します。毎回のノートはしっかりと整理するようにしてください。
- ・キーワードノートについては、第 10 回の時に提出し、第 15 回の時に返却します。その際に、フィードバック資料を配布します。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
k.yoshida@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	道徳・総合的な学習および特別活動		
担 当 者 名	吉田 浩一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300067	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は、教育課程における道徳科、総合的な学習の時間及び特別活動に関する目標と内容、その教育実践の在り方を理解すること、各領域において求められる栄養教諭としての教育実践の指導力量の基礎を育てることを目的としている。本授業においては、小学校現場で、道徳・総合的な学習および特別活動の教育実践をしていた実務家教員が担当する。授業のロールプレイやグループでの協議、そのことで、学校現場での教育実習に生きて働くようにする。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校における道徳教育の目標や内容、道徳授業の基本的な指導過程を理解し、説明できるようにする。</li> <li>2. 総合的な学習の時間の意義や、学校での目標及び内容を定める際の考え方を理解する。教科横断的な単元構成の考え方を理解し、教育実践に必要な基礎的な能力を身に付ける。</li> <li>3. 特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学級活動や学校行事、クラブ活動などの指導の基礎を養う。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	道徳教育の目標・特別の教科道徳の目標・内容項目	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
2.	道徳性の発達段階	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
3.	道徳授業理論の史的経緯と基本的な指導過程	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
4.	特別の教科道徳の授業理論と実践例	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
5.	特別の教科道徳の指導方法・評価	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
6.	総合的な学習の時間の目標と内容	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
7.	教科横断的な単元構成と実践	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
8.	食とESDについての実践	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
9.	食と海洋教育についての実践	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
10.	総合的な学習の時間の評価	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	
11.	特別活動の目標と内容	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)	

12.	特別活動の全体計画・年間計画	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)
13.	学級活動・児童会活動の理論と実践	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)
14.	学校行事・クラブ活動の理論と実践	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)
15.	特別活動の評価	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

・生き方に関して関連のある教科・領域です。「食」を中心にした教育活動との関連付けをしながら準備学習・事後学習に取り組んでください。教育実践には、授業者のアイデアが重要です。自分ならこういう教育実践を創造したいとイメージを描きながら取り組んでほしいと思います。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	レポート	授業への取組	
70%	20%	10%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
入門・道徳教育の理論と授業方法		

**参考書又は参考資料等**

※文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』『小学校学習指導要領解説 特別活動編』『小学校学習指導要領 総合的な学習の時間編』

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

・3つの教科領域において「食」に関する指導の構想をレポートに課します。道徳、総合、特別活動のいずれかで、自分が教育実践したい内容についてまとめてください。提出の様式は、講義の際に知らせます。第10回の講義において提出し、第15回の講義の際に返却します。その時、重要事項をまとめたフィードバック資料を配布します。  
・実際に教育活動をクリエイティブにつくっていくことに関する講義です。学習指導要領解説は、これまで自分が学んできたことを想起しながら、具体的な教育実践をイメージしてください。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
k.yoshida@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	教育方法論		
担 当 者 名	吉田 浩一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300003	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は、学校現場で実際に授業ができる実践的指導力の基礎を培うことを目指し、授業成立のための学習規律や授業目標・単元構成・一単位時間の授業の在り方について、さまざまな授業理論をもとに探求し、授業観を確立していくことを目標としている。本授業に関しては、小学校現場で授業研究を積み重ね、若年教員指導についても経験のある実務者教員が担当する。授業のロールプレイングや、グループディスカッション、グループ報告などの活動をもとに、主体的・対話的で深い学びに向けての授業構想ができることを目指す。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな授業理論と評価理論、授業技術を理解し、現在求められている主体的・対話的で深い学びに向けての授業構想ができ、学習指導案を作ることができる。</li> <li>2. 学習に主体的・意欲的に取り組ませるような指導・支援について理解し模擬授業に適用することができる。</li> <li>3. ICT 活用の授業方法を理解し、ICT 活用の授業を構想することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	授業の基本と学習規律・学び方指導	事前・テキストを読んでおく。（20分） 事後・講義内容ノートをまとめる。（25分）	
2.	教育方法～学習集団形成	事前・テキストを読んでおく。（20分） 事後・講義内容ノートをまとめる。（25分）	
3.	教育方法～教師主導型と自主協働型の学習指導	事前・授業内容について検索し、読んでおく。（20分） 事後・授業内容をレポートに要約する。（25分）	
4.	授業構成と学習指導案の作成	事前・テキストを読んでおく。（20分） 事後・講義内容ノートをまとめる。（25分）	
5.	教授と学習理論・プラン	事前・テキストを読んでおく。（20分） 事後・講義内容ノートをまとめる。（25分）	
6.	授業における発問・板書構成とノート指導	事前・テキストを読んでおく。（20分） 事後・講義内容ノートをまとめる。（25分）	
7.	完全習得学習の理論と授業評価・学習評価の理論	事前・テキストを読んでおく。（20分） 事後・講義内容ノートをまとめる。（25分）	
8.	ICT 活用の学習指導	事前・テキストを読んでおく。（20分） 事後・講義内容ノートをまとめる。（25分）	
9.	授業のユニバーサルデザイン	事前・テキストを読んでおく。（20分） 事後・講義内容ノートをまとめる。（25分）	
10.	主体的・対話的で深い学び	事前・テキストを読んでおく。（20分） 事後・講義内容ノートをまとめる。（25分）	
11.	授業における言語活動の工夫	事前・テキストを読んでおく。（20分） 事後・講義内容ノートをまとめる。（25分）	

12.	人権教育・生徒指導の視点を生かした授業	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)
13.	食に関する模擬授業：Aグループ	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)
14.	食に関する模擬授業：Bグループ	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)
15.	各教科・領域で活用する教育方法・技術	事前・テキストを読んでおく。(20分) 事後・講義内容ノートをまとめる。(25分)
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<p>・現場の授業者としての基礎となる教育方法・技術の知識・技能を身に付けるため、実際の授業をイメージしながら準備学習・事後学習に取り組んでください。</p>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
レポート	グループ発表	
70%	30%	
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
入門・教育の方法と技術	吉田 浩一	三恵社
<b>参考書又は参考資料等</b>		
※教育方法、教育技術に関する資料を授業の際に配布します。		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
<p>・授業者となるためには、児童生徒に応じた話し方、対応の仕方を身に付け、適時適切な指導を臨機応変にしなければなりません。そのことを念頭において模擬授業に臨んでください。</p> <p>・レポートだけでなく食に関する模擬授業の略案の作成を課します。成績評価に関わるものですので、真剣に取り組んでください。また、提出されたレポートにはフィードバック資料を返却します。事後学習及び定期試験に向けた資料として活用してください。</p>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
k.yoshida@hcc.ac.jp		

授 業 科 目 名	生徒指導と教育相談		
担 当 者 名	永野 勇二、樋口 綾子	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300056	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は教員として生徒指導上必要な資質の基盤を形成することを目標としている。そのため、生徒指導の意義や機能、教育課程における生徒指導の位置付け、生徒指導に必要な児童生徒理解の方法、生徒指導の実施体制及び生徒指導と法、基本的なカウンセリング法、児童生徒や保護者への支援方法について講義及び演習を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導の目標や意義を理解し説明できる。</li> <li>2. 児童生徒理解の意義と方法について理解し説明できる。</li> <li>3. 生徒指導上の問題とその対応について検討・考察する。</li> <li>4. 基本的なカウンセリング法を習得する。</li> <li>5. 児童生徒、教職員、保護者に対する支援と支援方法を理解する</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習 等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	イントロダクション (講義の概要、学習の仕方、評価)	事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（180分）	
2.	生徒指導の目標・意義と機能 (各教科、特別活動等)	事前：テキスト指定範囲（初回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
3.	生徒指導の組織・体制	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
4.	生徒指導と規則・法令等	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
5.	生徒指導上の諸問題とその対応①（いじめ）	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
6.	生徒指導上の諸問題とその対応②（不登校）	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
7.	生徒指導上の諸問題とその対応③（非行）	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
8.	生徒指導上の諸問題とその対応④（児童虐待）	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	
9.	生徒指導と教育相談	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）	

10.	子どもの心の理解① 幼児期	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
11.	子どもの心の理解② 児童期	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
12.	子どもの心の理解③ 思春期青年期	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
13.	ソーシャルスキルと人間関係を育てる	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
14.	生徒指導の方法（集団指導・個別指導）	事前：テキスト指定範囲（前回の講義で通知）を通読しておくこと（90分） 事後：講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
15.	発達障害と生徒の心の問題、保護者支援 まとめ	事前：初回～14回の内容についてノートを活用し復習する（90分） 事後：ノートを活用し、講義全体を復習する（90分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キーワードノート」については、ノートに記すこと。</li> <li>・「キーワードノート」は第14回の講義後に提出を求めます。（第15回の講義時に返却します）。</li> </ul>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	授業内課題及びコメントシート	
70%	30%	
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
<b>参考書又は参考資料等</b>		
講義中に、適宜紹介します。		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者全体の理解度や到達度により授業内容及び進度が若干前後することか?あります。</li> <li>不明な点や質問、もっと知りたい部分があれば積極的に申し出てください。</li> </ul>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
講義開始後に改めて連絡をします。		



授 業 科 目 名		栄養教育実習事前・事後指導	
担 当 者 名		土谷 政代	実 務 家 教 員
			○
科 目 コ ー ド		2300011	授 業 形 態
			演習
学 年		2	開 講 期
			通年
単 位 数		1	履 修
			栄養教諭必修
ナンバリング		DP4-2-C	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての 特記事項含む〕		<p>本授業は、教員としての資質と栄養の専門性を併せ持つ栄養教諭の教育実習を効果的に行い、食に関する指導を担う教員として必要な知識技能を身につける観点から、2年生の前・後期の通年を通して行う。まず、教育実習の意義・目的、心構えについて周知する。学習指導要領の教科等の目的に沿って発達段階を考慮しながら学習指導案を作成するとともに、教材の工夫を行う。作成した指導案及び指導資料をもとに模擬授業を実施する。学生も互いに評価を行うことで資質の向上を図る。教育実習後の事後指導では、実習の流れや学びの成果・課題等をパワーポイント形式でまとめて発表し、学びの共有化を図る。</p> <p>この講義では、栄養教諭としての実務経験と県教育委員会の指導主事として指導的立場での実務経験を有する教員が、栄養教諭の実務に基づき、学校での教育実習を想定した模擬授業やその後の振り返り、グループディスカッション等を取り入れながら、栄養教育実習に向けてのポイントを押さえ、分かりやすく指導を行う。</p> <p>演習の序盤では、教員の栄養教諭としての経験を活かし、栄養教諭を想定した模擬授業のための学習指導案の作成や修正、効果的な教材作成、板書計画等について取り組み、学習指導案を作成する。</p> <p>演習の中盤では、学生が作成した学習指導案を基に、実際に模擬授業に取り組む。学習指導案の内容や指導の流れ、教材の提示の仕方、発問・声かけ、板書計画等について指導を行い、より良い学習指導案となるよう取り組む。</p> <p>演習の終盤（教育実習終了後）では、教育実習についてのまとめや振り返り、グループ討議等を行った後、教育実習のまとめをパワーポイントで作成しプレゼンテーションを行う。その中で互いに学び合い、栄養教諭の職務について更に理解を深める。</p>	
授業の到達目標 〔学習成果〕		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の意義・目的を理解し、課題や明確な意図をもって実習に望むことができる。</li> <li>2. 教科等のねらいを踏まえ、指導資料や教材を工夫するとともに発達段階を考慮した指導案作成ができる。</li> <li>3. 課題やテーマを基に教育実習で学んだ成果を簡潔にまとめ、栄養教育実習における理解を深めることができる。</li> </ol>	
授 業 計 画		準 備 学 習（予 習・復 習 等）の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	オリエンテーション (教育実習の意義・目的、実習の心構え、 学習ノート作成等)	<p>事前：1年次の「児童生徒の栄養指導」で学修した内容を通読しておくこと（15分）</p> <p>事後：栄養教育実習の意義や目的等についてまとめ、キーワードノートを作成する（30分）</p>	
2.	学習指導案の作成手順、模擬授業の例示、学習指導要領及び食に関する指導方法の認識	<p>事前：発達段階を考慮し、指導のねらいを明確にした学習指導案を作成すること（15分）</p> <p>事後：学習指導案に盛り込む内容について確認を行い、指導案の修正を行う（30分）</p>	
3.	食に関する指導演習（指導案作成、模擬授業準備）	<p>事前：食に関する指導における教材作成や板書計画を作成しておくこと（35分）</p> <p>事後：模擬授業に向けて、指導の流れや発問、資料提示のタイミング、板書等を確認しておくこと（10分）</p>	
4.	模擬授業の実施及び評価①「学級活動」 (小学校低学年)	<p>事前：テキスト「食に関する指導の手引」(学級活動)を通読しておくこと（20分）</p> <p>事後：模擬授業に向けて、指導の流れや発問、資料提示のタイミング、板書等を確認しておくこと（25分）</p>	
5.	模擬授業の実施及び評価②「学級活動」 (小学校高学年)	<p>事前：テキスト「食に関する指導の手引」(栄養教諭の関わり)を通読し、理解しておくこと（20分）</p> <p>事後：模擬授業に向けて、指導の流れや発問、資料提示のタイミング、板書等を確認しておくこと（25分）</p>	

6.	模擬授業の実施及び評価③「学級活動」(中学校)	事前：テキスト「食に関する指導の手引」(学級活動)を通読しておくこと(20分) 事後：模擬授業に向けて、指導の流れや発問、資料提示のタイミング、板書等を確認しておくこと(25分)
7.	模擬授業の実施及び評価④「家庭科」(小学校)	事前：テキスト「食に関する指導の手引」(家庭)を通読しておくこと(20分) 事後：模擬授業に向けて、指導の流れや発問、資料提示のタイミング、板書等を確認しておくこと(25分)
8.	模擬授業の実施及び評価⑤「家庭・生活」(小・中学校)	事前：テキスト「食に関する指導の手引」(家庭・生活)を通読しておくこと(20分) 事後：模擬授業後の反省点等をまとめておくこと(25分)
9.	学習指導案の修正及び提出 (模擬授業や指導を受けた内容を反映し、工夫された最終指導案提出)	事前：模擬授業で指導を受けた点や反省点を踏まえ、そのことを反映した学習指導案を作成する(30分) 事後：栄養教育実習に向けて、アンケート内容を考えておくこと(15分)
10.	教育実習に向けて： 教育実習の在り方、調査項目や注意事項等について	事前：令和2年度「栄養教育実習実施要項」を通読しておくこと(15分) 事後：栄養教育実習に向けて、事前打ち合わせ等の資料についてまとめて整理しておくこと(30分)
11.	教育実習に向けて： 教育実習事前打ち合わせ、実習ノート、実習の振り返り等についてグループ討議	事前：栄養教育実習ノートのまとめを行い、振り返りを行っておくこと(10分) 事後：栄養教育実習ノートをまとめて、グループ討議の内容等を盛り込んだ発表原稿を作成する(35分)
12.	演習：パワーポイント形式による発表原稿作成	事前：パワーポイント形式による発表原稿を作成しておく(30分) 事後：発表原稿をより良いものに修正を加え提出する(15分)
13.	実践報告会 ① 教育実習校における学校経営方針、学校教育目標、教育課程プレゼンテーション及びグループ討議	事前：栄養教育実習で学んだ内容や教育課程、学校における栄養教諭の職務についてまとめておく(30分) 事後：学校教育目標や教育課程について理解を深める(15分)
14.	実践報告会 ② 食に関する指導の全体計画・年間指導計画、学校給食年間指導計画プレゼンテーション及びグループ討議	事前：食に関する指導の全体計画の必要性や年間指導計画等についてまとめておく(30分) 事後：食に関する指導の全体計画や年間指導計画について理解を深める(15分)
15.	実践報告会 ③ 食に関する指導体制の整備・方策プレゼンテーション及びグループ討議 まとめ栄養教育実習ノート提出	事前：栄養教諭制度の基盤である「食に関する指導体制の整備」についてまとめておく(35分) 事後：栄養教諭制度の基盤である「食に関する指導体制の整備」について理解を深めるとともに、栄養教育実習全体について復習を行う(10分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

**【前期】**

・1年後期の「児童生徒の栄養指導」で学習した指導案作成手順や各教科における指導内容を復習し、教育実習に関わる準備(学習指導案立案や指導教材・教具の作成)を行うこと。

**【後期】**

・児童生徒の食生活の実態や学校給食における地産地象の取組について理解を深めておくこと。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

指導案、模擬授業内容、実践報告内容を総合して評価

100%

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート	芦川 修貳	
また必要に応じて関連資料も配布します。		
参考書又は参考資料等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「食に関する指導の手引き― 第一次改訂版」(文部科学省)</li> <li>○「小・中学校学習指導要領」(文部科学省)</li> <li>○「小学校学習指導要領解説(総則編、特別活動編、家庭編、体育編)」</li> <li>○「教育実習実施要項」(東筑紫短期大学 食物栄養学科)</li> </ul>		
その他 [受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて]		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通年1単位の為、各週1コマで授業を行ないますので自主学習が大切になります。</li> <li>・質問については、オフィスアワーの時間に限らずいつでも対応します。</li> <li>・教育実習の際に、実習校の教育内容や食に関する指導体制、学校給食の年間計画について十分理解を深め、まとめておいてください。</li> </ul>		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
tsuchiya-m@hcc.ac.jp (土谷)		

授 業 科 目 名	栄養教育実習		
担 当 者 名	土谷 政代	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300012	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養教諭必修
ナンバリング	DP4-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>本実習は北九州市内及び県外の公立小・中学校において、栄養教諭としての実務を体験する実習である。</p> <p>栄養教諭は「学校給食の管理」と「食に関する指導」を併せ持つ職務であるが、本実習では、主に「食に関する指導」について実習を行う。</p> <p>本実習の事前指導においては、栄養教諭の実務経験や県教育委員会の指導主事として指導的立場の経験を有する教員が、その経験を生かして、教育実習の目的や意義、栄養教諭に求められるもの、栄養教諭が果たすべき役割等について、ポイントを押さえながら分かりやすく指導を行う。そのことにより、学生が教育実習をスムーズに、かつ効果的に行うことができる。</p> <p>【本実習の概要】</p> <p>①実習期間：令和3年9月6日（月）～10日（金）5日間（40時間以上）</p> <p>②場 所：北九州市教育委員会より指定された小学校で実習を行う。 北九州市以外の学生については、出身地域の小学校を中心に実習を行う。</p> <p>③内 容：「栄養教育実習要領」に基づき、栄養教諭としての実務について実習を行う。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場で実際に栄養教諭としての教育実習を行うことで、教育課程や組織等学校現場の全体像を掴むことができるとともに、児童生徒と直接触れ合うことで、児童生徒理解や指導の在り方について理解し、教員としての資質を深めることができる。</li> <li>・児童の実態や発達段階、教材、板書計画等を工夫し、指導案を立案することができる。</li> <li>・児童への声かけや発問等を工夫し、学校給食を活用した食に関する指導を行うことができる。</li> </ul>		
授 業 計 画	〔学外実習の内容含む〕		
実習期間	令和3年9月6日(月)～10日(金)5日間		
【実習内容】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 栄養教育実習の意義や目的について</li> <li>2) 学校経営方針・校務分掌の理解</li> <li>3) 教科・特別活動等における食に関する指導の実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>①学級活動及び給食の時間における指導</li> <li>②教科等における教科担任等と連携した指導</li> </ol> </li> <li>4) 給食放送指導、配膳指導、後片付け指導 <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校行事、委員会活動、クラブ活動の参観・補助</li> <li>②学習指導案の立案、教科研究 等</li> <li>③教科等における研究授業、TT 活動を含む)</li> </ol> </li> </ol>		

5) 食に関する指導の連携・調整理解		
①校内における連携・調整、校内研修等の参画		
②児童への個別的な相談指導の実習		
③家庭・地域との連携方策		
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
・教育実習指導の学習内容を十分身につけること。		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
※その他欄参照		
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
食に関する指導の手引 ―第二次改訂版―	文部科学省	
小学校学習指導要領	文部科学省	
小学校学習指導要領解説（特別活動・家庭編）	文部科学省	学研書院
栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート	芦川 修貳	
<b>参考書又は参考資料等</b>		
・食生活学習教材「食生活を考えよう」（文部科学省）		
・相談等に応じて、適宜参考資料を紹介します。		
<b>その他〔実習に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
※成績評価については、「実習連絡表(評価表)」に基づき、「教育実習日誌」を考慮して行う。		
※テキストについては、「児童・生徒の栄養指導」及び「栄養教育実習事前・事後指導」と同様とする。		
・教育実習校の児童生徒に積極的に関わり、教員としての資質や栄養教諭の職務内容を十分身に付けることが大切です。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
tsuchiya-m@hcc.ac.jp		

授 業 科 目 名		教職実践演習	
担 当 者 名		土谷 政代・吉田 浩一 樋口 綾子・永野 勇二	実 務 家 教 員 ○
科 目 コ ー ド		2300009	授 業 形 態 演習
学 年		2	開 講 期 後期
単 位 数		2	履 修 栄養教諭必修
ナンバリング		DP4-2-B	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		<p>学習指導要領や栄養教諭の職務内容を理解した教育実践力を身につけるため、学生自らがテーマを設定し研究活動を行う。その結果に基づいて課題を設定し、理解を深める「研究の場」と、その内容に関する実践を行う「実践の場」を設け実践報告を行う。それらを通して、教員としての資質能力を確認するための総合的な実践及び評価を行う。</p> <p>この演習は、小中学校において、教諭や栄養教諭、管理職として教育に関する実績を有するとともに、県・市教育委員会の指導主事として指導的立場の実績を有する教員が、実際の教育現場に即した実践的な内容で演習を行う。</p> <p>演習の前半では、これまでの教職課程で学んだことを活用し、特に栄養教育実習の食に関する指導で修得した指導法（栄養教諭を目指すものとして学校給食を活用した学習指導案をもとに、発問や教材の提示のタイミング、板書計画等）の工夫を行った事例研究や、グループ討議を行ったりする。そのことを通して栄養教諭を目指すものとしての意識を深めるとともに食に関する指導における実践力を養う。</p> <p>演習の後半では、教職課程の総まとめとして、教員がオムニバス形式で、栄養教諭の職務や食に関する指導の在り方、保護者との連携の在り方や危機管理、教職の意義や教員の資質と指導力、小中学校における食育推進の意義等についてグループ討議やワークショップ、プレゼンテーション等の手法を用いながら演習を行い、教員としての総合的な力を養う。</p> <p>最後（第15回）の演習では、これまでの教職課程を振り返り、各自が目指す栄養教諭像についてレポートを作成し、総まとめとする。</p>	
授業の到達目標 〔学習成果〕		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学ぶ姿勢が身についている</li> <li>2. 倫理観と規範意識を持ち、自己の職責を果たすことができる。</li> <li>3. 児童生徒の成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。</li> <li>4. 教員としての職責や義務を自覚し、目的や状況に応じた適切な言動ができる。</li> <li>5. 教育者としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。</li> <li>6. 児童生徒との信頼関係を築き、豊かな人間関係を築くことができる。</li> <li>7. 児童生徒の抱える問題を理解し、適切な指導を行うことができる。</li> <li>8. 板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身に付けている。</li> </ol>	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	オリエンテーション、実践演習の進め方、教職の意義や教員の役割及び資質・指導力について 【樋口】【土谷】【吉田】【永野】	<p>事前：教職課程で履修した内容について、まとめノート等を通読しておくこと（45分）</p> <p>事後：教職課程で履修した内容について理解を深める（45分）</p>	
2.	実践報告 ① 学級活動における実践（小学校低学年等）グループ討議 【樋口】【土谷】【吉田】【永野】	<p>事前：本授業の実践報告に向けて資料作成等の準備や「まとめ」を行っておくこと（45分）</p> <p>事後：学級活動における食に関する指導について、「食に関する指導の手引」等で復習をする（45分）</p>	
3.	実践報告 ② 学級活動における実践（小学校低学年等）グループ討議 【樋口】【土谷】【吉田】【永野】	<p>事前：本授業の実践報告に向けて資料作成等の準備や「まとめ」を行っておくこと（45分）</p> <p>事後：学級活動における食に関する指導について、「食に関する指導の手引」等で復習をする（45分）</p>	

4.	実践報告 ③学級活動における実践 (小学校高学年等) グループ討議 【樋口】【土谷】【吉田】【永野】	事前:本授業の実践報告に向けて資料作成等の準備や「まとめ」を行っておくこと(45分) 事後:学級活動における食に関する指導について、「食に関する指導の手引」等で復習をする(45分)
5.	実践報告 ④学級活動における実践(中学校等) グループ討議 【樋口】【土谷】【吉田】【永野】	事前:本授業の実践報告に向けて資料作成等の準備や「まとめ」を行っておくこと(45分) 事後:中学校の学級活動における食に関する指導について、「食に関する指導の手引」等で復習をする(45分)
6.	実践報告 ⑤学級活動における実践(小学校家庭等) グループ討議 【樋口】【土谷】【吉田】【永野】	事前:本授業の実践報告に向けて資料作成等の準備や「まとめ」を行っておくこと(45分) 事後:家庭科における食に関する指導について、「食に関する指導の手引」等で復習をする(45分)
7.	栄養教諭としての食に関する指導の在り方(教科や特別活動等における食に関する指導の在り方について) 【土谷】	事前:1年次「児童生徒の栄養指導」で作成したキーワードノートを活用し通読しておくこと(45分) 事後:本授業の配布資料をまとめて、栄養教諭としての指導の在り方について、更に理解を深める(45分)
8.	栄養教諭としての食に関する指導の在り方(個別指導及び連携・調整の在り方について) 【土谷】	事前:1年次「児童生徒の栄養指導」で作成したキーワードノートを活用し通読しておくこと(45分) 事後:本授業の配布資料をまとめて、栄養教諭としての指導の在り方について、更に理解を深める(45分)
9.	栄養教諭の視点からの保護者理解について(学校や教員に対する保護者からの要望やクレームについての対応を中心として) 【永野】	事前:学校問題解決のための手引き(東京都教育委員会)を通読しておくこと(45分) 事後:講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
10.	食育推進の立場からの学校における危機管理について(校舎内の危険個所の点検、不審者対応等を中心として) 【永野】	事前:教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインを通読しておくこと(45分) 事後:講義で使用した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
11.	栄養教諭の立場からの教職の意義と教員の役割 【吉田】	事前:テキスト指定範囲(掲示又はUNIPAにて通知)を通読しておくこと(45分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
12.	チーム学校の一員としての教員の資質と指導力について 【吉田】	事前:テキスト指定範囲(掲示又はUNIPAにて通知)を通読しておくこと(45分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(45分)
13.	小学校運営における食育の指導の意義 【樋口】	事前:「文部科学省スーパー食育スクール」に関する資料を読み、内容をまとめておく(45分) 事後:自分が小学校で行ってみたい食育についてレポートをまとめる(45分)

14.	中学校運営における食育推進の意義 【樋口】	事前：「中学校における弁当の日の取組」に関する文献に目を通しておく（45分） 事後：小中学校における食育の意義について振り返り、実際の指導における留意点をまとめる（45分）
15.	実践演習のまとめ（教職課程を振り返って、栄養教諭の職務や指導の在り方、今後望まれる栄養教諭像についてレポートを作成する） 【樋口】【土谷】【吉田】【永野】	事前：教職課程全般及び本教職実践演習で学修した事柄についてまとめ、レポート作成の準備をしておくこと（45分） 事後：教職課程全般について復習し理解を深める（45分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程関連科目について振り返り、各自に残された課題確認を行う。</li> <li>・「キーワードノート」については、紙ベースで作成すること。</li> <li>・「キーワードノート」は第14回の講義後に提出を求めます。（第15回の講義時に返却します）</li> </ul>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
実践報告内容	レポート	
50%	50%	
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート	芦川 修貳	
<b>参考書又は参考資料等</b>		
「教職課程履修の手引き」、教職に関する各教科のテキスト 等		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
・教職課程において学んだことをすべて活かして実践演習に望むことが大切です。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
higuchi.a@knwu.ac.jp（樋口） tsuchiya-m@hcc.ac.jp（土谷） k.yoshida@hcc.ac.jp（吉田） nagano@hcc.ac.jp（永野）		



授 業 科 目 名	公衆衛生学		
担 当 者 名	植田 英一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300013	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修 医療秘書必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>保健所食品衛生監視員として、長く公衆衛生・食品衛生業務に携わってきた教員が、特に栄養指導、衛生指導等の実践現場でのスキル向上を図る。</p> <p>公衆衛生学は、健康につながる母子保健、高齢者保健、学校保健、産業保健等の幅広い分野を対象にしている。この授業では、生活習慣病、感染症、環境汚染等の公衆衛生上の様々な問題に対する理解を深める。授業は講義形式で行うが、中盤と終盤の各1回、公衆衛生上の課題をテーマに解決法を考察する。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の意味、および生活習慣病と健康寿命との関連性についての説明ができる。</li> <li>2. 感染症および疫学的手法に関し、正しく理解する。</li> <li>3. 社会福祉制度、母子保健、高齢者保健、学校保健等に関する幅広い知識を習得する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1. 健康と公衆衛生について	<p>事前：テキスト指定範囲（UNIPAにて通知）を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p>		
2. 環境と健康について	<p>事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p>		
3. 保健統計、生命表について	<p>事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p>		
4. 疫学の方法、疫学指標について	<p>事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p>		
5. 身体活動・運動と生活習慣病について	<p>事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p>		
6. 生活習慣と主要疾患について	<p>事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：指定したテーマに関する解決法のレポート作成（90分）</p>		
7. 感染症とその予防について	<p>事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p>		
8. 精神疾患について	<p>事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p>		
9. 社会保障と行政について	<p>事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p>		
10. 医療制度と医療保険制度について	<p>事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p>		
11. 社会福祉制度と地域保健について	<p>事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p>		
12. 母子保健について	<p>事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：指定したテーマに関する解決法のレポート作成（90分）</p>		

13.	成人保健と高齢者保健、介護保険制度について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）
14.	産業保健と学校保健について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分）
15.	国際保健と国際協力について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：レポートへのフィードバックと講義全体を復習する（90分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
第6回および第12回の講義終了後、公衆衛生上の問題解決に関するテーマを各1題示す。そのレポートを作成し、次の回の授業前に提出を行うこと。		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	レポートの完成度	
70%	30%	
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
公衆衛生学	中村信也	同文書院
<b>参考書又は参考資料等</b>		
特になし		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
講義の進行に併せて2回、講義内容に関するレポート作成を課します。成績評価に関わるものですので、真剣に取り組んでください。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
非公開とする	講義の前後10分間は4階非常勤講師室にて質問等対応可	

授 業 科 目 名	社会福祉概論		
担 当 者 名	竹並 正宏	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300014	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修 医療秘書必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>高齢者や障害児・者、児童、経済的困窮者などの抱える福祉課題や現状、社会福祉の制度や様々な専門職やボランティアによる活動について取り上げ、社会福祉に関する基礎的な知識を習得するとともに、生活者としてのクライアントを見る視点を形成することをテーマに講義を実施する。</p> <p>社会福祉は人々の生活に視点を置き、生活上の困難に対して様々なサービスや制度、ボランティアなど社会資源を用いてその問題を解決しようとする。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>① 人々の生活に視点を置き、生活上の困難に対し様々なサービスや制度、ボランティアなど社会資源を用いて問題を解決することを目指す姿勢が身に付いている。</p> <p>② 栄養士がクライアントを支援しようとする時、栄養や食に対してサービスの提供を中心としつつ、クライアントの食や疾病以外も含めた理解することができる。</p> <p>③ 社会福祉に関する基礎的な知識を習得するとともに生活者としてクライアントを見る視点が身に付いている。</p>		
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	福祉の意味と対象①	<p>事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分)</p> <p>事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)</p>	
2.	福祉の意味と対象②	<p>事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分)</p> <p>事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)</p>	
3.	私たちの暮らしと社会保障①	<p>事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分)</p> <p>事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)</p>	
4.	私たちの暮らしと社会保障②	<p>事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分)</p> <p>事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)</p>	
5.	公的扶助①	<p>事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分)</p> <p>事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)</p>	
6.	公的扶助②	<p>事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分)</p> <p>事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)</p>	
7.	高齢者福祉①	<p>事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分)</p> <p>事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)</p>	

8.	高齢者福祉②	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。 (90分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)
9.	高齢者福祉③	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。 (90分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)
10.	児童福祉①	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。 (90分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)
11.	児童福祉②	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。 (90分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)
12.	障害者福祉①	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。 (90分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)
13.	障害者福祉②	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。 (90分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)
14.	障害者福祉③	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。 (90分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)
15.	まとめ	事前：UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。 (90分) 事後：キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

栄養士がクライアントを支援しようとする時には、栄養や食に対してのサービスの提供を中心としつつも、そのクライアントの食や疾病以外も含めた生活全体を見渡す力を学習するため社会の諸問題に興味や関心を示す。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

授業への取り組み姿勢	レポート	定期試験	
20%	30%	50%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
福祉・栄養・看護のための社会福祉論	赤木正典他	建帛社

**参考書又は参考資料等**

毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入し参考資料としていく。  
視聴覚教育や KJ 法を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

食を通して、地域社会や地域住民の健康生活と福祉の向上に貢献することを要望する。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
takenami@knwu.ac.jp	

授 業 科 目 名	解剖生理学 I		
担 当 者 名	沖 勉	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300015	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修 医療秘書必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	人体に関する解剖学、生理学の基本的な理解をめざす。 総合体としての生命体の身体各部の相互関係に注目しつつ、生命維持機構の全体像の把握に努める。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	解剖生理学の基礎的・基本的な用語とその定義について全て説明ができるようになる。 身体各部の機能が簡単に説明できる。		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	人体の構造と機能を学ぶにあたって、人体の概観	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
2.	人体の細胞	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
3.	人体の細胞分裂、組織の分化、組織	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
4.	神経系：中枢神経	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
5.	神経系：神経細胞、神経組織	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
6.	神経系：体性神経、自律神経、中枢神経系の血液循環	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
7.	感覚器系：嗅覚、視覚、味覚、聴覚、平衡覚	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
8.	消化器系：口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
9.	消化器系：肝臓と胆嚢、膵臓	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
10.	消化器系：咀嚼・嚥下、消化管ホルモン	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
11.	消化器系：消化、吸収	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
12.	血液：血液の組成、血球の分化、赤血球	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
13.	血液：白血病血小板、血漿たんぱく質、血液型	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
14.	免疫系：免疫と生体防御、自然免疫	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	

15.	免疫系：獲得免疫、アレルギー	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
予習はシラバスのテーマに沿って、教科書で確認する。 復習のために、Google フォームでの「小テスト」を毎回実施する。		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	小テスト	授業への取組み姿勢
65%	30%	5%
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
解剖生理学	上嶋 繁・濱田 俊	南江堂
<b>参考書又は参考資料等</b>		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
講義中の私語は厳禁とします。他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合もあります。 質問があれば挙手して適宜質問すること。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
hal44980@knwu.ac.jp		

授 業 科 目 名	解剖生理学Ⅱ		
担 当 者 名	沖 勉	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300016	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	人体に関する解剖学、生理学の基本的な理解をめざす。 総合体としての生命体の身体各部の相互関係に注目しつつ、生命維持機構の全体像の把握に努める。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	解剖生理学の基礎的・基本的な用語とその定義について全て説明ができるようになる。 身体各部の機能が簡単に説明できる。		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	循環器系：心臓、血管系	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
2.	循環器系：リンパ管系、循環系の調節	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
3.	呼吸器系：呼吸器系の構成、肺の構造	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
4.	呼吸器系：呼吸器系の構成、肺の構造	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
5.	呼吸器系：ガス交換と運搬、呼吸器系の調整	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
6.	腎・泌尿器系：腎臓の形態、腎臓の働き	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
7.	腎・泌尿器系：腎臓の働き	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
8.	腎・泌尿器系：クリアランス、糖尿病性腎症	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
9.	内分泌系：内分泌腺とホルモン	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
10.	内分泌系：ホルモン各論	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
11.	内分泌系：インスリンと糖尿病	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
12.	生殖器系：男女の生殖器	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
13.	生殖器系：性周期、受精・着床・妊娠・分娩	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
14.	運動器（筋・骨格）系	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	

15.	皮膚と体温調節	予習：シラバスの確認（90分） 復習：小テスト（90分）	
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>			
予習はシラバスのテーマに沿って、教科書で確認する。 復習のために、Google フォームでの「小テスト」を毎回実施する。			
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>			
定期試験	小テスト	授業への取組み姿勢	
65%	30%	5%	
<b>使用テキスト</b>			
書籍名	著者	出版社	
解剖生理学	上嶋 繁・濱田 俊	南江堂	
<b>参考書又は参考資料等</b>			
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>			
講義中の私語は厳禁とします。他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合もあります。 質問があれば挙手して適宜質問すること。			
<b>担当教員の連絡先等</b>			
担当教員 E-mail		その他	
hal44980@knwu.ac.jp			



授 業 科 目 名	解剖生理学実験		
担 当 者 名	中岡 寛	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300017	授 業 形 態	実験
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	食物のもつ栄養（エネルギー）が、生体内でどのように利用され、利用された結果生じる老廃物をどのように排泄しているかを中心に学ぶ。また、より理解を深めるため、ラットの解剖実験を中心に各臓器、消化管のつながりを検証する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	・実験を通して、栄養士として必要な解剖生理学の基礎知識を修得する。		
授 業 計 画〔学外実習の内容含む〕			
1.	生体内の代謝の理解 ……生体内代謝の概要と基礎代謝		
2.	生体内の代謝の理解 ……基礎代謝測定		
3.	生体内の代謝の理解 ……血圧測定		
4.	消化器系の理解 ……胃のはたらきについて、ラットの飼育		
5.	消化器系の理解 ……肝臓・すい臓のはたらきについて、ラットの飼育		
6.	消化器系の理解 ……小腸・大腸のはたらきについて、ラットの飼育		
7.	消化器系の理解 ……ラットの解剖		
8.	循環器系の理解 ……心臓について		
9.	循環器系の理解 ……血管・血液について		
10.	循環器系の理解 ……血中コレステロール測定		
11.	循環器系の理解 ……血糖値測定		
12.	排泄系の理解 ……腎臓、尿の成分について		
13.	排泄系の理解 ……尿中病的成分の検査		
14.	排泄系の理解 ……尿沈渣の顕微鏡観察		
15.	解剖生理学全体についてのまとめ		
準備学習・事後学習等についての補足説明			
・授業が始まる 10 分前には、実験室に集合し、準備リストを参考に、各班、実験準備を完了しておく。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
定期試験	レポート		
80%	20%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			
参考書又は参考資料等			
○「解剖生理学テキスト」（文光堂）			

その他 [実習に際しての注意点、課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて]	
<ul style="list-style-type: none"><li>・実験書は教科担当が準備します。</li><li>・毎回使用するプリントを製本した独自のテキストを使用します。</li><li>・実験を始める前に、実験の目的、方法を説明します。</li><li>・実験終了後は実験結果と考察についてまとめます。</li></ul>	
担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他
nakaoka@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	生化学		
担 当 者 名	和辻 智郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300018	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	三大栄養素である糖質、脂質、タンパク質は消化管で消化吸収され、体内では主に肝臓、筋肉、脂肪組織によって三大栄養素が異化的・同化的に代謝される。そして、これらの代謝はホルモンによって制御されることを学ぶ。つまり、生化学では食品から摂取した栄養素を利用して生命活動が維持される仕組みを学ぶことで、栄養士に必要な栄養素の役割と体内動態の知識の習得を目指す。プロジェクターを使用し、講義形式で授業を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1)健康成人の栄養に関する代謝を説明できるようになる。 2)消化器官だけでなく、肝臓、骨格筋、脂肪組織の役割と機能を説明できるようになる。 3)血糖値の維持や窒素出納のような動的平衡について説明できるようになる。 4)糖尿病や脂質異常症などの病的症状の理解を深められるようになる。		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	糖質の消化吸収とグリコーゲンの合成・分解	α-アミラーゼは分泌酵素であり、マルターゼは膜酵素であることの利点やグリコーゲンの合成と分解の代謝経路について理解し覚えられまで復習すること（180分）	
2.	血糖値を調節するホルモン	グリコーゲンの合成にはインスリンが、分解にはグルカゴンとアドレナリンが作用することや肝臓と筋肉でグリコーゲンの代謝が異なることを理解できるまで復習すること（180分）	
3.	解糖系と乳酸発酵とペントースリン酸回路	細胞内に取り込まれたグルコースは解糖系やペントースリン酸回路で代謝されること、また、これらの経路で得られる生体エネルギーや還元力の違いについて理解できるまで復習すること（180分）	
4.	TCA サイクルと電子伝達系	ミトコンドリアに取り込まれたピルビン酸が酸素呼吸によって二酸化炭素と水になるが、ピルビン酸と酸素が直接反応しない仕組みや酸化リン酸化について理解できるまで復習すること（180分）	
5.	中性脂肪の分解と遊離脂肪酸のβ酸化	脂肪組織に蓄積した中性脂肪の分解においてホルモン感受性リパーゼが働くこと、ホルモン感受性リパーゼの活性はグルカゴンで促進されること、遊離した脂肪酸は血中のアルブミンで運搬されること、細胞内に取り込まれた脂肪酸はβ酸化で代謝され、アセチル CoA となること、アセチル CoA は TCA サイクルと電子伝達系で代謝されることを理解できるまで復習すること（180分）	
6.	脂肪酸合成とホルモン調節	肝臓では余剰のグルコースから脂肪酸が合成されること、脂肪酸合成反応がインスリンで促進されること、必須脂肪酸から合成される n-3 系及び n-6 系脂肪酸について理解し覚えられまで復習すること（180分）	
7.	中性脂肪の合成と脂質の消化吸収	肝臓で合成された中性脂肪は VLDL に取り込まれて脂肪組織に運ばれること、この過程はインスリンによって促進されること、消化吸収された脂質は小腸で中性脂肪に再合成され、カイロミクロンで運搬されることを理解できるまで復習すること（180分）	

8.	その他の脂質	複合脂質であるリン脂質の合成と分解、誘導脂質であるコレステロールの合成と分解、また、それらの脂質の生体的な役割と機能について理解できるまで復習すること (180分)
9.	体タンパク質の合成 (セントラルドグマ)	体タンパク質は遺伝情報の転写と翻訳で合成されることがや遺伝情報が半保存的に複製されることを理解できるまで復習すること (180分)
10.	体タンパク質の分解と窒素平衡	体タンパク質には半減期があり、体タンパク質はユビキチン・プロテアソーム系やオートファジーによって分解されること、体タンパク質の分解と合成は動的平衡を保っていること理解できるまで復習すること (180分)
11.	アミノ酸の異化とアミノ基の転移	主にアミノ基転移酵素によってアミノ酸から炭素骨格が生じること、炭素骨格からグルコースや脂肪酸が合成されること、アミノ酸は糖原性アミノ酸とケト原性アミノ酸に分類されること、アミノ酸の異化的代謝において肝臓と筋肉で利用されるアミノ酸が異なること、肝臓のアミノ基窒素は主にグルコース-アラニン回路で処理されること、肝臓ではグルタミン酸から尿素がつけられることを理解できるまで復習すること (180分)
12.	窒素平衡に関わるホルモンとその他の窒素化合物	窒素平衡はインスリンやグルココルチコイドで調節されていること、ステロイドホルモンが転写レベルで制御すること、セロトニン、アドレナリン、GABAなどの生理活性物質はアミノ酸から合成されること理解し覚えることができるまで復習すること (180分)
13.	食品由来のタンパク質の消化吸収と消化管ホルモン	食品由来のタンパク質は消化酵素であるペプシンやトリプシンなどで分解されること、タンパク質の消化酵素は前駆体として分泌されてから活性化すること、ガストリンやセクレチンが胃酸や消化液の分泌を促進させることを理解し覚えらるまで復習すること (180分)
14.	酵素の分類と反応	酵素には補因子を必要とするアポ酵素が存在すること、酵素には基質特異性があること、酵素には至適温度や至適 pH があること、基質親和性が高い酵素の Km 値は高いことを理解できるまで復習すること (180分)
15.	栄養学の歴史	これまでに学んだ栄養素や代謝経路と研究者の関係性について理解し覚えらるまで復習すること (180分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

配布資料や授業内で解いた確認問題を復習に用いること。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	小テスト	
80%	20%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
基礎栄養学 第6版	鈴木 和春	第一出版

**参考書又は参考資料等**

体のしくみと病気がわかる事典 (奈良信雄監修, 西東社)

**その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕**

・質問等については授業中もしくはオフィスアワーの時間帯に対応するが、その限りではない。  
不在等で直接コンタクトをとれない場合はメールでの対応も可能。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡します。	

授 業 科 目 名	生化学実験		
担 当 者 名	中岡 寛	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300019	授 業 形 態	実験
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	例えば、私達が卵を食べたとすると卵白のタンパク質は消化（分解）されてアミノ酸になり、このアミノ酸を材料として体内でまた新しいタンパク質（例えば筋肉など）が作られます（合成）。このように私達の体内では絶えず合成、分解という化学反応が行われています。生化学とは、生体内における化学反応を学ぶ学問であり、各種の反応等を実験をとおして学んでいきます。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	・実験を通して、栄養士として必要な生化学の基礎知識を修得する。		
授 業 計 画 〔学外実習の内容含む〕			
1.	オリエンテーション	.....教科内容全般についての講義	
2.	栄養素についての理解①	.....栄養素（タンパク質、脂質、炭水化物）についての講義	
3.	栄養素についての理解②	.....栄養素（タンパク質、脂質、炭水化物）についての講義	
4.	栄養素についての理解③	.....糖の定量（実験）	
5.	栄養素についての理解④	.....タンパク、アミノ酸の定量（実験）	
6.	栄養素についての理解⑤	.....ビタミンの定性（実験）	
7.	栄養素についての理解⑥	.....ビタミン C の定量（実験）	
8.	消化吸収についての理解①	.....消化についての講義	
9.	消化吸収についての理解②	.....デンプンの人工消化（実験）	
10.	消化吸収についての理解③	.....タンパクの人工消化（実験）	
11.	消化吸収についての理解④	.....脂質の人工消化（実験）	
12.	酵素の働きについての理解①	.....酵素についての講義	
13.	酵素の働きについての理解②	.....酵素の最適 pH（実験）	
14.	酵素の働きについての理解③	.....酵素の最適温度（実験）	
15.	まとめ		
準備学習・事後学習等についての補足説明			
・授業が始まる 10 分前には、実験室に集合し、準備リストを参考に、各班、実験準備を完了しておく。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
定期試験	レポート		
60%	40%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない			

<b>参考書又は参考資料等</b>	
○「解剖生理学テキスト」(文光堂)	
<b>その他 [実習に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験書は教科担当が準備します。</li> <li>・実験を始める前に、実験の目的、方法を説明します。</li> <li>・実験終了後は実験結果と考察についてまとめます。</li> </ul>	
<b>担当教員の連絡先等</b>	
<b>担当教員 E-mail</b>	<b>その他</b>
nakaoka@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	運動生理学		
担 当 者 名	倉崎 信子	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300020	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	現代生活は、機械化・省力化による運動不足が生活習慣の一因であることが明らかである。健康を維持・増進するためには適切な栄養とともに生活の中に運動習慣を取り入れる必要がある。本講義では身体運動によって体にどのような変化が生ずるか、その現象としくみについて学び、身体運動と食の関わりについて理解を深める。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体活動が身体に及ぼす影響としくみについて理解する。</li> <li>・身体運動と食事の関わりについて理解する。</li> </ul>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション： 講義の目的・内容・学習方法の説明	事前：テキスト2章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、で復習する（90分）	
2.	環境への適応（1）内部環境とホメオスタシス	事前：1章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題で復習する（90分）	
3.	環境への適応（2）ストレス学説、ストレスと中枢神経系、内分泌系、免疫系	事前：1章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題で復習する（90分）	
4.	運動と筋、骨系(1) 骨の構造と機能	事前：4章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）	
5.	運動と筋、骨系(2) 骨格筋の構造と機能	事前：4章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）	
6.	運動・スポーツとエネルギー(1) エネルギー供給系	事前：3章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）	
7.	運動・スポーツとエネルギー(2) 運動と酸素摂取	事前：3章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）	
8.	運動・スポーツとエネルギー(3) エネルギー代謝、エネルギー消費量	事前：3章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）	
9.	運動と循環器系(1) 運動の心臓・脈管系に対する影響、血管調節機構	事前：5章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）	
10.	運動と循環器系(2) 運動に伴う循環系の反応、運動負荷と最大酸素摂取量	事前：5章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）	
11.	運動と呼吸器系(1) 呼吸器系のしくみ、呼吸運動の調節	事前：6章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）	
12.	運動と呼吸器系(2) 高地滞在による生理学的変化	事前：6章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題で復習する（90分）	
13.	運動と神経系(1) 運動制御における運動信号の出力、入力経路	事前：7章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題、配布資料で復習する（90分）	
14.	運動と神経系(2) 反射、伸張反射、相反抑制、自原抑制、屈曲反射	事前：7章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問、配布資料で復習する（90分）	

15.	運動中の栄養摂取	事前：10.7章を通読しておくこと（90分） 事後：章末予想問題で復習する（90分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<p>予想問題については電子データにてノートを作成し、「誤っているもの」を正文化する。 第15回終了後に電子データより出力のうえ提出してください。</p>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	授業への取組み態度	ノートの完成度
80%	10%	10%
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
エキスパート 管理栄養士養成シリーズ 運動生理学	山本順一郎 編	化学同人
<b>参考書又は参考資料等</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中に適宜、資料を配布する。</li> </ul>		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の予想問題の解答解説は、教科書名より検索できます。 予想問題の正文化したノートも成績評価に加味します。</li> </ul>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
krsk-non@knwu.ac.jp		



授 業 科 目 名	食品学総論		
担 当 者 名	安保 康治	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300057	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修 フードスペシャリスト必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	健康の保持、増進、疾病の予防には、食生活を見直し生活の質を向上させる必要がある。そのために、食品、食物、栄養成分およびその化学変化などについて学ぶ。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 食品に含まれる栄養成分が、どのようなものであるか説明できるようになる。 2) 食品に含まれる栄養成分が、調理、加工、貯蔵中にどのように変化するかが理解できる。 3) 食品に含まれる有害成分に対する理解が深まる。		
授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間	
1.	オリエンテーション(講義の概要) ・食品の主要成分(水)	事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (180分)	
2.	食品の主要成分 (タンパク質①：アミノ酸を中心に)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
3.	食品の主要成分 (タンパク質②：タンパク質を中心に)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
4.	食品の主要成分(糖質)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
5.	食品の主要成分(脂質)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
6.	食品の主要成分(無機質)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
7.	食品の主要成分(ビタミン)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	
8.	前半(食品の主要成分)のまとめと練習問題	事後：練習問題を再度実施し理解を深めること (180分)	
9.	食品の嗜好成分	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)	

10.	食品の有害成分	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること（90分）
11.	食品の栄養価	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること（90分）
12.	食品成分の化学変化 (油脂の酸化、タンパク質の変化)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること（90分）
13.	食品成分の化学変化 (糖質・ビタミンの変化)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること（90分）
14.	食品成分の化学変化 (褐変、酵素による成分変化)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと（90分） 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること（90分）
15.	後半(嗜好有害成分、栄養価、化学変化)のまとめと練習問題	事後：練習問題を再度実施し理解を深めること（180分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・事前学習として、テキストの授業計画範囲を通読し、わかりづらい箇所についてまとめて講義に臨むこと。
- ・事後学習として、講義で指示した重要ポイントをノートにまとめることで理解を深めること。

**成績評価の方法【評価項目と割合】**

定期試験	授業への取組み	
80%	20%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
新 食品・栄養科学シリーズ 食品学総論 食べ物と健康① [第3版]	森田潤司、成田宏史	化学同人

**参考書又は参考資料等**

適宜プリントを配布する。

**その他【受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて】**

まとめとして授業内で実施する練習問題は、解答と解説でフィードバックする。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他

授 業 科 目 名	食品学実験		
担 当 者 名	安保 康治	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300022	授 業 形 態	実験
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修 フードスペシャリスト必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	食品学実験では、「食品学総論」と「食品学各論」で学んだ主要な事項について理解を深めることを目標としている。まず、実験の基礎知識や実験器具の使い方を習得し、中和滴定による酢酸の定量、ソモギーネルソン法による還元糖やローリー法によるアミノ酸の比色定量、色素の定性分析、また、デンプンの糊化や糖化、褐変反応、ゼラチンや寒天の凝固、油脂の乳化などの食品成分の特性と変化を理解する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全に実験を行うことができるようになる。</li> <li>2. 基本的な実験器具の使い方および各種食品成分の測定方法を習得する。</li> <li>3. 食品成分の性質や特徴を理解し、加工や食生活に応用することができるようになる。</li> </ol>		
授 業 計 画 ※準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間			
1.	オリエンテーション(実験の心構えと注意事項・実験器具の名称) ※以下準備学習については補足説明欄参照のこと		
2.	実験にあたっての基礎知識		
3.	実験器具の使い方①(秤量・測容)		
4.	実験器具の使い方②(ガスバーナー・顕微鏡)		
5.	中和滴定を用いた食酢中の酢酸濃度の測定 ※レポート作成①		
6.	食品からのデンプンの分離と糊化・糖化 ※レポート作成②		
7.	食品の褐変反応(リンゴの酵素的褐変・アミノカルボニル反応) ※レポート作成③		
8.	食品の色素成分の定性(アントシアニン・ヘム色素) ※レポート作成④		
9.	通常のコーラとダイエットコーラを用いた還元糖の定量 ※レポート作成⑤		
10.	果実プロテアーゼによるタンパク質の分解 ※レポート作成⑥		
11.	食品の加工原理①(ゼラチン溶液と寒天溶液の凝固) ※レポート作成⑦		
12.	食品の加工原理②(油脂の乳化とエマルジョン) ※レポート作成⑧		
13.	食品の加工原理③(みかんの内果皮の剥皮) ※レポート作成⑨		
14.	官能評価(基本味の識別試験・緑茶の嗜好性試験)		
15.	実験全体のまとめと模擬問題の実施・解説		
準備学習・事後学習等についての補足説明			
<p>①準備学習として、前もって配布された次回のプリントで実験に必要な知識や実験手法・手順を把握しておく(60分)。</p> <p>②事後学習として、レポートを作成する際に、関連情報を書籍やインターネット等によく調べ理解を深める(120分)。</p>			

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
定期試験	レポート	実験への取り組み	
60%	30%	10%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない（都度プリントを配布する）			
参考書又は参考資料等			
前期に使用した「食品学総論」および「食品学各論」のテキスト			
その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種器具や試薬の特性を理解し、安全には十分に留意すること。</li> <li>・提出されたレポートは添削・評価し、原則次回に返却するので、事後学習及び定期試験に活用すること。</li> </ul>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
keabo@wa2.so-net.ne.jp	講義終了後 10 分間は、実験室又は 2 号館 4 階非常勤講師室にて質問等対応可。		

授 業 科 目 名	食品衛生学		
担 当 者 名	和辻 智郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300023	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修 フードスペシャリスト必修
ナンバリング	DP2-1-B		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	人は栄養を摂取しなければ生命を維持することができないが、その一方で栄養を摂取する上でもリスクをとまなう場合がある。食品衛生学は、食の安全を守る学問であり、食が原因で起こる健康被害を未然に防ぐ方法を学ぶ。また、「化学」「微生物学」など様々な領域の知識が必要となる横断的な総合学問でもある。微生物的原因による食品の変質や食中毒のしくみを知り、それらを予防するための対策を理解して、栄養士として必要不可欠な衛生管理の知識の習得を目指す。プロジェクターを使用し、講義形式で授業を行う。
--------------------------------	--

授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 法律によって国民の健康が保護されていることを説明できるようになる。</li> <li>2) 加工食品などの袋にある表示の意味を理解し、選択的な購入や保存ができるようになる。</li> <li>3) 食品の変質について生物学的・化学的に説明できるようになる。</li> <li>4) 食品の変質や食中毒を防ぐ対策を講じることができるようになる。</li> <li>5) 微生物の存在や潜在的な危険性を意識し、食品の衛生管理に活かさせられるようになる。</li> </ol>
-------------------	---

授 業 計 画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1	食品衛生法	栄養士の業務と関係する食品衛生法の重要な部分と厚生労働大臣の権限について理解できるまで復習すること（180分）
2	食品安全基本法	BSE問題を背景に制定された食品安全基本法の特徴である食の安全を守る仕組みについて理解できるまで復習すること（180分）
3	加工食品の表示	食品表示法に定められた加工食品（特定アレルギー物質や遺伝子組換え食品を含む）の表示ルールについて理解できるまで復習すること（180分）
4	食品の変質	食品の変質の判定方法や腐敗臭の発生を引き起こす微生物代謝について理解できるまで復習すること（180分）
5	油脂の酸敗とトランス脂肪酸	フリーラジカルが油脂の自動酸化を引き起こす仕組みやトランス型とシス型脂肪酸の構造的相違を化学的に理解できまで復習すること（180分）
6	食品の変質防止	食中毒を防止するために微生物の増殖と温度や水分活性などの関係性を十分に理解できるまで復習すること（180分）
7	細菌性食中毒	細菌性食中毒における感染型と毒素型の違いや代表的な食中毒細菌の特徴を理解できるまで復習すること（180分）

8	ウイルス性食中毒と食中毒事件の統計	ノロウイルスの生物学的特徴や感染した場合の心構え、また食中毒事件が起こりやすい施設や季節的特徴について理解できるまで復習すること（180分）
9	化学的殺菌と寄生虫性食中毒	各種消毒液が対象とする微生物、寄生虫の生活環と食品の関係性について理解できるまで復習すること（180分）
10	自然毒食中毒	代表的な動物性及び植物性自然毒と食品との関わりについて理解できるまで復習すること（180分）
11	食品汚染物質と食中毒の防止	生物濃縮や重金属で汚染された食品や食中毒の防止策について理解できるように復習すること（180分）
12	食品添加物の分類と安全性	食品添加物が4つに分類されることや一日摂取許容の算出方法について理解できるまで復習すること（180分）
13	添加物の表示（1）用途名併記の添加物	食品添加物の基本的な表示ルールと用途名併記の添加物の用途と代表的なものを理解し覚えられるまで復習すること（180分）
14	添加物の表示（2）一括名表示と表示免除の添加物	一括名で表示できる添加物や表示が免除される添加物について理解し覚えられるまで復習すること（180分）
15	HACCPと一般衛生管理プログラム	食品の製造工程を管理するHACCPや一般衛生管理プログラムをセットにした衛生管理システムを理解できるまで復習すること（180分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

配布資料や授業内で解いた確認問題を復習しておくこと。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験

100%

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）		

**参考書又は参考資料等**

厚生労働省や消費者庁のHP、e-Govの法令関係、食品安全委員会が公表した資料

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

・質問等については授業中もしくはオフィスアワーの時間帯に対応するが、その限りではない。  
不在等で直接コンタクトをとれない場合はメールでの対応も可能。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡します。	

授 業 科 目 名	食品衛生学実験		
担 当 者 名	和辻 智郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300024	授 業 形 態	実験
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修 フードスペシャリスト必修
ナンバリング	DP2-2-A		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	食の安全を確保し食による健康被害を防ぐには、食品中の病原微生物、腐敗微生物、化学物質などに関する知識が不可欠である。本実験では主に微生物の適切な取り扱い方法を学び、食品中や生活環境に存在する微生物種の形態や性質を調べる。他にも飲食物の品質検査等を実施する。1 年次開講の座学（特に「微生物学」「食品衛生学」）で習得した知識をどのように実学へ繋げるのかを自ら体験することによって実践力を養い、食に関わる職業人として食品衛生の知識を身に付けることが本実験の目的である。
--------------------------------	--

授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 手指、髪、食品、空中など至る所に微生物が存在することを実感できるようになる。</li> <li>2) 安全に実験を行うことができるようになる。</li> <li>3) 食品衛生検査の手法を理解し、基礎的な手技を身に付けられるようになる。</li> <li>4) 身の回りに存在する危害要因を予測し、自ら衛生管理を実践できるようになる。</li> <li>5) 実験結果をまとめ第三者にわかりやすく伝えることができるようになる。</li> </ol>
-------------------	--

授 業 計 画		準備学習（予習・復習 等）の具体的な内容及び必要時間
1	講義：微生物の取り扱い方法と食中毒	滅菌、培地の作成、植菌などの微生物の取り扱い方や細菌性及びウイルス性食中毒について理解できるまで復習すること（30分）
2	実験：無菌操作（培地作成）	コッホによって開発された固体培地を実際に作成する際に必要となる無菌操作や微生物を生育させるための栄養源である炭素源、窒素源、ミネラル、ビタミンについて理解できるまで復習すること（30分）
3	実験：手洗い効果の検証実験（スタンプ法）	皮膚の常在菌である黄色ブドウ球菌は潜在的な危険性をもたらすこと、生肉に触れた手指にはカンピロバクター属細菌やサルモネラ属細菌の付着の可能性があることを理解できるまで復習すること（30分）
4	実験：手洗い効果の検証実験の結果と考察 納豆菌の画線植菌	手洗いやアルコール消毒によっても皮膚の常在菌を完全に除去できないこと、皮膚の常在菌である黄色ブドウ球菌は潜在的な危険性をもたらすこと、生肉に触れた手指には細菌が付着すること、食中毒を引き起こす細菌が生肉に高い確率で存在することを理解できるまで復習すること（30分）
5	実験：納豆菌を用いたグラム染色と芽胞染色	グラム陽性細菌とグラム陰性細菌の表層構造が異なること、納豆菌はグラム陽性菌で芽胞形成能があること、染色の操作手順に意味があること、脱色不良によって色の誤判定があることを理解できるように復習すること（30分）
6	実験：実技テスト（純粋培養のための一連の実験操作）	純粋培養の手順を復習し、手指や空気中の目に見えない微生物の存在を意識できるようになること（30分）
7	実験：空中落下細菌の調査実験	空中という環境に存在する微生物の特徴、コロニーや菌体の形状によって微生物を特徴付ける方法について理解できるまで復習すること（30分）
8	実験：空中落下細菌の調査実験の結果	環境によって空中落下菌の菌数が異なったことやグラム染色とコロニー及び菌体の形態観察から微生物を特徴付けたことを理解できるまで復習すること（30分）

9	実験：食品中の生菌検査実験	食品中から微生物を回収する方法、希釈率から食品中の生菌数の求め方、亜硝酸が肉を発色させる反応について理解できるまで復習すること（30分）
10	実験：食品中の生菌検査実験の結果と考察 食品添加物である発色剤の定量	発酵食品に限らず食品は無菌的ではないこと、希釈率から食品中の生菌数を求めた方法、食品添加物の分類・安全性・表示について理解できるまで復習すること（30分）
11	実験：酵母の利用可能な炭素源の検証	人工イクラを用いた検証実験から酵母は炭素源としてグルコースを利用でき、デンプンを利用できないことについて理解できるまで復習すること（30分）
12	実験：洗剤の適切な使用量と残留検査	洗剤が油汚れを落とす仕組み、陰イオン界面活性剤である通常の洗剤には殺菌効果がないこと、スポンジにはたくさんの微生物が存在すること、洗剤の残留試験の操作手順の意味について理解できるまで復習すること（30分）
13	実験：水道水の水質調査（残留塩素）	水道法に定められた水質基準の項目、水質基準によって水道水の安全が保たれていること、水道水汚染で問題となるクリプトスポリジウム、残留塩素試験の操作手順の意味について理解できるまで復習すること（30分）
14	講義：プレゼンテーションの準備	空中落下菌の調査実験の結果と考察についての発表原稿を理解し覚えらるるまで復習すること（30分）
15	講義：プレゼンテーション	相手に伝わる話し方やスライドの作り方について理解し覚えらるるまで復習すること（30分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

配布資料や授業内で解いた確認問題を復習しておくこと。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

授業への取り組み姿勢	レポート	実技テスト	プレゼンテーション
30%	30%	20%	20%

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
教科書は使用しない。授業資料として毎回プリントを配布する。		

**参考書又は参考資料等**

授業の内容に応じて適宜参考書を紹介する。

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- 1) 実験を行う上で最も大切なことは「他人を傷つけない」「自分を傷つけない」ことである。安全に実験を実施するために教員の指示は遵守すること。教員の指示を守らない場合は退出などの措置を講じ欠席扱いとする。
- 2) 質問等については授業中もしくはオフィスアワーの時間帯に対応するが、不在時はメールでの対応も可能。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡します。	



授 業 科 目 名	食品学各論		
担 当 者 名	安保 康治	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300058	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修 フードスペシャリスト必修
ナンバリング	DP2-1-A		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	健康の保持、増進、疾病の予防には、食生活を見直し生活の質を向上させる必要がある。そのために、農産、畜産、水産、微生物利用、加工食品のそれぞれの特徴を学ぶ。
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 食品がもつそれぞれの特徴を説明できるようになる。 2) 加工食品のそれぞれの加工原理が理解でき、的確な利用の仕方がわかる。

授業計画		準備学習（予習・復習 等）の具体的な内容及び必要時間
1.	オリエンテーション(講義の概要) ・農産食品(穀類)	事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (180分)
2.	農産食品(いも類、種実類、豆類)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)
3.	農産食品(野菜類、果物類)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)
4.	農産食品(きのこ類、農産食品の加工原理)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)
5.	畜産食品(食肉類)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)
6.	畜産食品(卵類)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)
7.	畜産食品(乳類、畜産食品に特徴的な加工原理)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)
8.	前半(農産、畜産食品)のまとめと練習問題	事後：練習問題を再度実施し理解を深めること (180分)
9.	水産食品 (魚介類の種類、構造と性状、歩留まり、一般成分)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)
10.	水産食品 (魚介類のエキスと特殊成分、死後変化と鮮度)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)

11.	水産食品 (魚介類の低温貯蔵と冷凍変性、加工品)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)
12.	水産食品 (藻類、水産食品に特徴的な加工原理)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)
13.	微生物利用食品 (アルコール飲料、発酵調味料、その他)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)
14.	加工食品 (製粉、油脂、嗜好、冷凍・冷蔵、缶・レトルト等)	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後：講義で指示した内容をノートにまとめること (90分)
15.	後半(水産、微生物利用、加工食品)のまとめと 練習問題	事後：練習問題を再度実施し理解を深めること (180分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・事前学習として、テキストの授業計画範囲を通読し、わかりづらい箇所についてまとめて講義に臨むこと。
- ・事後学習として、講義で指示した重要ポイントをノートにまとめることで理解を深めること。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	授業への取り組み	
80%	20%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
新 食品・栄養科学シリーズ 食品学各論 食べ物と健康② [第3版]	瀬口正晴、八田一	化学同人

**参考書又は参考資料等**

適宜プリントを配布する。

**その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕**

まとめとして授業内で実施する練習問題は、解答と解説でフィードバックする。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
keabo@wa2.so-net.ne.jp	講義終了後 10 分間は、講義室又は 2 号館 4 階非常勤講師室にて質問等対応可。

授 業 科 目 名	栄養学総論		
担 当 者 名	中岡 寛	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300026	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修 フードスペシャリスト必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	栄養士は、栄養素が人体に取り込まれ、どのように生体で機能するかを理解しておく必要があります。栄養は、不足でも過剰でも色々な健康障害を引き起こします。このことを理解するためには、栄養素そのものについての知識が必要です。この授業では、栄養の基礎を学びます。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	・栄養学の実践、すなわち栄養士として必要な栄養学の基礎知識を習得することを目的とします。		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	炭水化物の化学	事後：テキストの該当ページを再読し、重要項目をノートなどにまとめる（180分）。	
2.	炭水化物の消化と吸収	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
3.	炭水化物の代謝と栄養	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
4.	脂質の化学	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
5.	脂質の消化と吸収	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
6.	脂質の代謝と栄養	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
7.	たんぱく質とアミノ酸	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
8.	たんぱく質消化と吸収	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
9.	たんぱく質の機能と代謝	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
10.	たんぱく質の栄養	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
11.	無機質、水とその栄養	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
12.	ビタミンとその栄養、脂溶性ビタミン	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
13.	水溶性ビタミン	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
14.	エネルギー代謝	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	

15.	栄養評価・食事摂取基準	事前：テキストの該当ページ予習（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>			
・授業の終わりに、次回の講義予定のページを連絡しますので、予習をしておくこと。			
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>			
定期試験			
100%			
<b>使用テキスト</b>			
書籍名	著者	出版社	
N ブックス改訂「栄養学総論」	林淳三、高橋徹三	建帛社	
<b>参考書又は参考資料等</b>			
oエキスパート管理栄養士養成シリーズ「基礎栄養学」（化学同人）			
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>			
・「栄養学総論」は栄養素そのものを学ぶ学問です。したがって管理栄養士課程では基礎栄養学として開講されています。基礎が理解できないと栄養士専門科目が理解できませんので、よく勉強してください。			
<b>担当教員の連絡先等</b>			
担当教員 E-mail	その他		
授業開始後に改めて連絡します。			

授 業 科 目 名		栄養学各論	
担 当 者 名		中岡 寛	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2300027	授 業 形 態
学 年		1	講 義
単 位 数		2	開 講 期
ナンバリング		DP2-1-B	履 修
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		「栄養学各論」は「栄養学総論」を基礎とし、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを目的としている。	
授業の到達目標 〔学習成果〕		・将来、栄養士となる為に必要最小限の知識を身につけてもらうこと。	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	栄養管理 (栄養マネジメント) ①	事後：講義の該当ページを再読し、重要項目をノートなどにまとめる (180分)。	
2.	栄養管理 (栄養マネジメント) ②	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
3.	栄養管理 (栄養マネジメント) ③	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
4.	食事摂取基準の基礎的理解①	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
5.	食事摂取基準の基礎的理解②	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
6.	妊娠期	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
7.	授乳期	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
8.	新生児期	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
9.	乳児期	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
10.	幼児期	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
11.	学童期	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
12.	思春期	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
13.	成人期	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	
14.	高齢期	事前：テキストの講義予定部分を予習する (90分)。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる (90分)。	

15.	運動・スポーツと栄養	事前：テキストの講義予定部分を予習する（90分）。 事後：講義の重要項目をノートなどにまとめる（90分）。	
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>			
・授業の終わりに、次回の講義予定のページを連絡しますので、予習をしておくこと。			
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>			
定期試験			
100%			
<b>使用テキスト</b>			
書籍名	著者	出版社	
応用栄養学	渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美 編集	南江堂	
<b>参考書又は参考資料等</b>			
○エキスパート管理栄養士養成シリーズ「応用栄養学」（化学同人）			
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>			
・図書館を利用して、栄養学に関連する書物及びDVDなどで多くの知識を得ること。			
<b>担当教員の連絡先等</b>			
担当教員 E-mail	その他		
授業開始後に改めて連絡します。			

授 業 科 目 名		栄養学実習	
担 当 者 名	阿部 亜希恵	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300028	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング		DP2-2-A	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「栄養学実習」では健康づくりに視点をおき、各ライフステージに沿った生理的現象や特徴、生活活動を理解し、栄養の特性をとらえて実習により具現化していく。それは、栄養学的理論にかなうものだけではなく、食品を活かしてどのように調理し、どのような器に盛り、それを食する人々がおいしいと感じ、満足と喜びが得られるかが大切である。医療現場における栄養士としての実務経験により、安全を念頭に置いたうえで、生活習慣病予防・疾病の重症化予防の食事提供を行った体験を活かし授業を進めていく。指定献立を中心に、学生作成献立を交え、実習を行う。さらに、起こりやすい疾病や栄養障害等についても理解する。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフステージ別に栄養の特性を理解する。</li> <li>2. 乳児の調乳や離乳食を実習により学ぶ。</li> <li>3. 献立作成技術を理解し、生活習慣病予防の献立を作成する。</li> <li>4. ライフステージで起こりやすい疾病等を理解し、対応できる食事作りを学ぶ。</li> </ol>		
授 業 計 画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間	
1.	講義：教科のガイダンス 栄養学実習の概念 課題献立の説明	事後：献立作成（提出日は後日連絡）（90分）	
2.	講義：成長期の栄養 1) 乳児期・離乳期・幼児期の栄養とその特性	事後：重要語句について復習すること（90分）	
3.	実習：乳児の食事（調乳、離乳食）	事前：第2回配布資料および献立内容を確認しておく（45分） 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること（45分）	
4.	実習：幼児期の食事	事前：第2回配布資料および献立内容を確認しておく（45分） 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること（45分）	
5.	講義：成長期の栄養 2) 学童期・思春期の栄養とその特性	事後：重要語句について復習すること（90分）	
6.	実習：学童期の食事	事前：第5回配布資料および献立内容を確認しておく（45分） 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること（45分）	
7.	実習：思春期の食事	事前：第5回配布資料および献立内容を確認しておく（45分） 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること（45分）	
8.	講義：成人期・高齢期の栄養とその特性	事後：重要語句について復習すること（90分）	
9.	実習：成人期の食事	事前：第8回配布資料および献立内容を確認しておく（45分） 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること（45分）	

10.	実習：高齢期の食事	事前：第8回配布資料および献立内容を確認しておく (45分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(45分)
11.	実習：咀嚼嚥下困難時の食事	事前：第8回配布資料および献立内容を確認しておく (45分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(45分)
12.	講義：妊産婦・スポーツ栄養とその特性	事後：重要語句について復習すること (90分)
13.	実習：妊産婦の食事	事前：第12回配布資料および献立内容を確認しておく (45分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること (45分)
14.	実習：成人期の食事（学生献立）	事前：第12回配布資料および献立内容を確認しておく (45分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(45分)
15	実習：実技テスト（ホワイトソース作成） 講義：栄養学実習のまとめ	事前：実技試験に向けた練習をしておく（45分） 事後：適宜配布した資料を活用し定期試験に向け復習する（45分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・成人期の献立を作成する。
- ・実習後のレポート作成は、講義内容を踏まえて作成して提出する。（提出日厳守）
- ・1年時受講する栄養学各論の知識が基本となるためしっかり復習しておく。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	献立作成	レポート提出・実習への取り組み	実技テスト
40%	20%	20%	20%

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
ライフステージ 実習栄養学 [第7版]	城田知子 他	医歯薬出版

**参考書又は参考資料等**

「日本食品成分表」  
講義中に適宜資料を配布する。

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ・成績評価については、定期試験・献立作成・レポート提出と実習への取り組み・実技テストの全てで評価する。
- ・献立作成については、コメントし返却する。（必要に応じ再提出を求める）
- ・レポート・提出物については、コメントし返却する。
- ・実習時には運営当番、材料当番は材料分配を行う。
- ・授業及び実習を欠席するときは必ず連絡をすること。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
a.abe@hcc.ac.jp	



授 業 科 目 名	臨床栄養学 I		
担 当 者 名	近藤 順子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300029	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨床栄養学とは傷病者の栄養管理を行うことである。各疾病の成因、病態、症状について学び、予防や治療のための栄養・食事療法の基礎知識を習得する。医療現場における栄養士としての実務経験を活かし、実症例や Nutrition Support Team における栄養士の役割など、情報を交えながら授業を進めていく。また、様々な栄養補給法および医療における尊厳を把握した上で、栄養摂取をテーマにディベートを行い栄養士としての役割を考察する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.臨床栄養学の概念を理解し、各疾病の成立ちと栄養のかかわりを修得する 2.各々の疾病に対して栄養管理の流れや食事療法について理解し、説明できる 3.生活習慣病の予防、食生活の改善項目について説明できる		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション：臨床栄養学の概念	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく（90分） 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく（90分）	
2.	医療制度と介護制度	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく（90分） 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく（90分）	
3.	栄養補給法について ※ディベート実施方法について説明	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく（90分） 事後：ディベート準備 テーマについて情報を収集する（90分）	
4.	ディベート：テーマ「栄養摂取とは」	事前：ディベートに向け得た情報を整理しておく（90分） 事後：ディベートで得た知識について考察をまとめる（90分）	
5.	栄養評価について	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく（90分） 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく（90分）	
6.	消化器系疾患①：食道・胃・腸の疾患	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく（90分） 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく（90分）	
7.	消化器系疾患②：肝・胆・膵の疾患	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく（90分） 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく（90分）	
8.	代謝性疾患①：糖尿病	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく（90分） 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく（90分）	
9.	代謝性疾患②：脂質異常症 ※前半の復習テストおよび振り返り	事前：復習テストに向け、前半の重要ポイントを整理しておく（90分） 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく（90分）	

10.	循環器系疾患①：高血圧症・心不全	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
11.	腎疾患：腎臓病	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
12.	呼吸器系疾患：肺炎・慢性閉塞性肺疾患	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
13.	乳幼児・小児疾患	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
14.	老年症候群 ※後半の復習テストおよび振り返り	事前：復習テストに向け、後半の重要ポイントを整理しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
15.	疾病発症メカニズムのポイントと総まとめ	事前：疾病発症メカニズムの図解を復習しておく(90分) 事後：配布資料を活用し定期試験に向け復習しておく(90分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

第4回のディベートについては、栄養摂取と生命の関わりについて調べ、自分の考えをまとめておく

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	復習テスト	授業への取組み姿勢	
70%	20%	10%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
栄養科学シリーズ NEXT 新・臨床栄養学	竹谷豊 その他	講談社

**参考書又は参考資料等**

- ・「病院等栄養管理の基本と実際」（福岡県栄養士会）
- ・「糖尿病食事療法のための食品交換表」（文光堂）
- ・講義中に資料を配布する

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ・ヒトにとって栄養とはどのような役割をしているか「しくみ」を理解し、自らの食生活を見直すことで疾病予防に関心をもってもらう
- ・講義中に資料を配布するので、重要ポイントを整理しておき定期試験に向け活用して下さい
- ・講義中に授業に関係ない作業や携帯を使用している場合は没収することがあります

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
junkondo@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	臨床栄養学Ⅱ		
担 当 者 名	近藤 順子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300030	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	この授業では「臨床栄養学Ⅰ」で学んだ知識を基に、各疾病と栄養との「しくみ」を理解し、疾病に対する臨床栄養学的アプローチを実践するために必要な基礎知識を修得する。医療現場における栄養士としての実務経験を活かし、エビデンスに基づいた必要栄養量の求め方など実情を交えながら授業を進めていく。また、日本人の食事摂取基準と治療食のガイドラインから傷病者の必要栄養量の設定方法、食品構成表の作成、治療食の献立展開までの流れを学修し、エビデンスに基づいた対応について知識を深める。更に、課題解決型学習としてケーススタディを取り入れながら理解度を高めていく。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.栄養管理のプロセスと記録方法について修得する 2.エビデンスに基づいた栄養療法と日本人の食事摂取基準を理解する 3.個々人における必要栄養量の算出および食品構成の組立や献立展開ができる		
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	オリエンテーション：医療・福祉 ・介護と臨床栄養	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
2.	ケーススタディ：傷病者の栄養管理のプロセス	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：ケーススタディで得た知識や手順を整理しておく(90分)	
3.	栄養管理の記録と POS	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
4.	治療食の食事摂取基準①：2020年版の概要	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
5.	治療食の食事摂取基準②：2020年版の応用	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
6.	治療食の食事摂取基準③：傷病者の必要栄養量 算出	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
7.	治療食の食品構成と献立展開	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
8.	ケーススタディ：必要栄養量の設定と食品構成の 立案	事前：ケーススタディに向け前回までの復習をしておく(90分) 事後：解説内容を確認し、改善ポイントを修正する(90分)	

9.	糖尿病①：運動療法・薬物療法	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
10.	糖尿病②：食事療法の進め方	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
11.	心因性摂食障害	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
12.	免疫とアレルギー	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
13.	血液の病気と悪性腫瘍	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
14.	食事と医薬品の相互作用	事前：テキスト指定範囲（掲示又は口頭にて通知）を通読しておく(90分) 事後：配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
15.	発症メカニズムのポイントと総まとめ	事前：発症メカニズムの図解を復習しておく(90分) 事後：配布資料を活用し定期試験に向けて復習する(90分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・解剖生理学や生化学と密接な関係があるので、これらの科目と照らしあわせて理解すること。
- ・栄養学各論で学んだ「日本人の食事摂取基準」の基礎を復習しておく
- ・第8回のケーススタディについては、第4回～7回までを復習し手順を理解しておく

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	ケーススタディの完成度	授業への取組み姿勢	
70%	20%	10%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
栄養科学シリーズ NEXT 新・臨床栄養学（1年次購入）	竹谷豊 その他	講談社

**参考書又は参考資料等**

- ・「病院等栄養管理の基本と実際」（福岡県栄養士会）
- ・「糖尿病食事療法のための食品交換表」（文光堂）
- ・講義中に資料を配布する

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ・疾病の成因および身体徴候や検査値が異常になるメカニズムを理解し、栄養管理を適切に実践する能力を養ってください
- ・講義中に資料を配布するので、重要ポイントを整理しておき定期試験に向け活用して下さい
- ・講義中に携帯の使用および授業に関係ない作業をしている場合は没収することがあります

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
junkondo@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名		臨床栄養学実習 I	
担 当 者 名		近藤 順子	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2300031	〇
学 年		1	授 業 形 態
単 位 数		1	実 習
ナンバリング		DP2-1-B	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		臨床栄養学実習 I では、病態生理や栄養代謝などの理論に基づいた疾病別の病状・治療を正しく理解した上で、食事療法の実際を学ぶ。病院における食事は治療の一環として提供されていることを習得するとともに、喫食する側の状況に応じた対応や衛生管理について、実習により専門的な知識と技術を修得することが必要である。医療現場における安全で尚且つ喫食率を向上させるためのエビデンスに基づいた治療食の提供を行ってきた実務経験を活かしながら授業を進めていく。この授業では指定献立を中心に実習を行う。更に、病院で提供される食事のイメージが、入学時と授業を受けた後ではどのように変化し、何を学ぶことが出来たのかプレゼンテーション形式で、各学生の理解度を確認していく。	
授業の到達目標 〔学習成果〕		1.病院給食の概要を理解し、治療食の一環であることを修得する 2.疾病別の治療食食事療法や献立内容について理解できる 3.実習により、治療食としての調理技術や衛生管理を修得する	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	講義：臨床栄養学実習の概念	事後：テーマ内容の重要語句について復習しておく (45分)	
2.	講義：治療食の基礎および衛生管理について	事前：前回の配布資料を通読しておく(20分) 事後：テーマ内容の重要語句について復習しておく (25分)	
3.	講義：糖尿病・高血圧症の理論	事前：臨床栄養学 I で学んだ治療食の食事療法を調べておく(20分) 事後：テーマ内容の重要語句について復習しておく (25分)	
4.	実習：糖尿病の治療食調理	事前：第3回配布資料および献立内容を確認しておく (20分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25分)	
5.	実習：高血圧症の治療食調理	事前：第3回配布資料および献立内容を確認しておく (20分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25分)	
6.	講義：肝臓疾患・消化器疾患の理論	事前：臨床栄養学 I で学んだ治療食の食事療法を調べておく(20分) 事後：テーマ内容の重要語句について復習しておく (25分)	
7.	実習：慢性肝炎の治療食調理	事前：第6回配布資料および献立内容を確認しておく (20分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25分)	
8.	実習：潰瘍性大腸炎の治療食調理	事前：第6回配布資料および献立内容を確認しておく (20分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25分)	
9.	講義：脂質異常症・膵臓疾患の理論	事前：臨床栄養学 I で学んだ治療食の食事療法を調べておく(20分) 事後：テーマ内容の重要語句について復習しておく (25分)	

10.	実習：脂質異常症(高 LDL)の治療食調理	事前：第 9 回配布資料および献立内容を確認しておく (20 分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25 分)
11.	実習：慢性膵炎の治療食調理	事前：第 9 回配布資料および献立内容を確認しておく (20 分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25 分)
12.	講義：鉄欠乏性貧血・骨粗鬆症の理論 ※プレゼンテーションの課題を説明	事前：臨床栄養学 I で学んだ治療食の食事療法を調べて おく(20 分) 事後：プレゼンテーションの課題に関する情報収集 (25 分)
13.	実習：鉄欠乏性貧血の治療食調理	事前：第 12 回配布資料および献立内容を確認しておく (20 分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25 分)
14.	実習：骨粗鬆症の治療食調理	事前：第 12 回配布資料および献立内容を確認しておく (20 分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること、プレゼ ン準備(25 分)
15.	実習：プレゼンテーション ・治療食のデザート調理	事前：プレゼンテーションの準備 (45 分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・実習後のレポート作成については、事前に学んだ疾病の理論を踏まえて作成し、指定された日時を守り提出すること
- ・第 15 回のプレゼンテーションについては、臨床栄養学 I の内容も含めて重要ポイントを整理しておく

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

レポート	プレゼンテーション完成度	授業への取組み姿勢	
40%	30%	30%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
「臨床栄養学実習 medical nutrition diet manual」	岩井達、嵐雅子	みらい
「糖尿病食事療法のための食品交換表」	日本糖尿病学会	文光堂

**参考書又は参考資料等**

- ・「病院等栄養管理の基本と実際」(福岡県栄養士会)
- ・「日本食品成分表」(医歯薬出版)
- ・講義中に資料を配布する

**その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕**

- ・運営当番、材料当番は決められた時間に集合し材料分配を行うこと
- ・実習中は落ち着いて、教員の指示が聞こえる態勢をとり、衛生管理の徹底に努めること
- ・実習授業の欠席については、必ず前もって連絡すること

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
junkondo@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	臨床栄養学実習Ⅱ		
担 当 者 名	近藤 順子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300032	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「臨床栄養学実習Ⅰ」で修得した基礎部分をベースに、各栄養成分別コントロール食の理論について具体的に示す。また、昨今増加傾向にある摂食・嚥下障害や食物アレルギーの対応食についても発症メカニズムを理解した上で調理実習を行う。実践的な場面で役立つように、常食から治療食への献立展開の方法を理解し、食事計画から献立立案までの流れを修得する。喫食率を向上させ治療効果を高めるために、安全で美味しく工夫された治療食の実際を学ぶ。</p> <p>また、校外実習に臨むための準備も含め、病院における衛生管理や経腸栄養剤の取り扱いなど専門的な知識と技術を修得する。医療現場における栄養士としての実務経験および濃厚流動食や嚥下食の製品開発にも携わった経験を活かしながら授業を進めていく。治療食の基本となる「糖尿病食事療養のための食品交換表」の活用術や、栄養士として必要な食品目視重量の技術を実際の食品を用いたクイズ形式授業で到達度を確認していく。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養成分別コントロール食を理解する</li> <li>2. 食品交換表の使い方をマスターし、治療食(糖尿病・腎臓病)の献立立案ができる</li> <li>3. 病院給食で必要な衛生管理や治療食特殊食品の取り扱いを学ぶ</li> <li>4. 美味しい治療食への応用を学ぶ</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	講義：治療食の栄養管理と食事計画	事後：テーマ内容の重要語句について復習しておく (45分)	
2.	講義：病院における HACCP の対応方法	事後：テーマ内容の重要語句について復習しておく (45分)	
3.	講義：エネルギーおよび脂質コントロール食の理論	事前：臨床栄養学Ⅰで学んだ治療食の食事療法を調べておく(20分) 事後：テーマ内容の重要語句について復習しておく (25分)	
4.	実習：エネルギーコントロール食の調理	事前：第3回配布資料および献立内容を確認しておく (20分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25分)	
5.	実習：脂質コントロール食の調理	事前：第3回配布資料および献立内容を確認しておく (20分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25分)	
6.	講義：たんぱく質コントロール食 ・アレルギー対応食の理論	事前：臨床栄養学Ⅰで学んだ治療食の食事療法を調べておく(20分) 事後：テーマ内容の重要語句について復習しておく (25分)	
7.	実習：たんぱく質コントロール食の調理	事前：第6回配布資料および献立内容を確認しておく (20分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25分)	
8.	実習：アレルギー対応食の調理	事前：第6回配布資料および献立内容を確認しておく (20分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25分)	

9.	演習：常食から腎臓病食への献立展開	事前：臨床栄養学 I で学んだ治療食の食事療法を調べておく(20分) 事後：治療食献立を作成して提出する(25分)
10.	演習：常食から糖尿病食への献立展開	事前：臨床栄養学 I で学んだ治療食の食事療法を調べておく(20分) 事後：治療食献立を作成して提出する(25分)
11.	演習：濃厚流動食 ・嚥下障害者用特殊食品について	事前：臨床栄養学 I で学んだ治療食の食事療法を調べておく(20分) 事後：テーマ内容の重要語句について復習しておく(25分)
12.	実習：摂食・嚥下障害対応食の調理	事前：第 11 回配布資料および献立内容を確認しておく(20分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25分)
13.	実習：学生献立による腎臓病食の調理	事前：第 9 回配布資料および献立内容を確認しておく(20分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25分)
14.	実習：学生献立による糖尿病食の調理	事前：第 10 回配布資料および献立内容を確認しておく(20分) 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること(25分)
15.	実習：目視重量クイズ形式授業 ・治療食のデザート調理	事前：目視重量クイズに向けて予習をしておく(45分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・実習後のレポート作成については、事前に学んだ疾病の理論を踏まえて作成し、指定された日時を守り提出すること
- ・第 15 回の目視重量クイズについては、実際の食品重量について「糖尿病食品交換表」を用いて予習をしておく

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

レポート	目視重量技術の達成度	課題（献立作成）	授業への取組み姿勢
30%	20%	30%	20%

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
腎臓病食品交換表 治療食の基準	黒川清 編	医歯薬出版
「臨床栄養学実習 medical nutrition diet manual」 (1 年次購入)	岩井達、嵐雅子	みらい

**参考書又は参考資料等**

- ・「病院等栄養管理の基本と実際」（福岡県栄養士会）
- ・「糖尿病食事療養のための食品交換表」（文光堂）
- ・「日本食品成分表」（医歯薬出版）
- ・講義中に資料を配布する

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ・運営当番、材料当番は決められた時間に集合し材料分配を行うこと
- ・実習中は落ち着いて、教員の指示が聞こえる態勢をとり、衛生管理の徹底に努めること
- ・実習授業の欠席については、必ず前もって連絡すること

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
junkondo@hcc.ac.jp	



授 業 科 目 名	栄養指導論 I		
担 当 者 名	阿部 亜希恵	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300059	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>栄養指導の目的は、個人及び集団の人々に対し健康の保持・増進及び疾病の予防や回復などに対応する食生活が習慣化するように導くことであり、そのためには適正な改善方法をみつけ、実践の手段を示さなければならない。医療現場における栄養士としての実務経験を活かし、栄養指導の実践例を交えながら授業を進めていく。実践のための知識として「食事摂取基準」を理解し、栄養指導実施までの方法や指導案・媒体さらに評価方法について学ぶ。講義で得たことを実践へつなげられるよう、実態把握から指導計画までをグループで考えをまとめ発表を行う。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養指導を行う目的や必要性について理解する。</li> <li>2. 現代の食生活に関する問題点の理解と栄養士の役割を知る。</li> <li>3. 食事摂取基準や食品成分表活用について理解する。</li> <li>4. 栄養マネジメントを理解し栄養指導の実践に活かす</li> <li>5. 栄養指導実施までの実態把握から指導計画までを考えの作成し、発表する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1.	教科のガイダンス カリキュラムの概要とその取り組みについて	事後：テキスト該当範囲を通読し、重要語句について 復習すること (180分)	
2.	栄養指導の概念① 栄養指導の目的とその必要性	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分)	事後：重要語句について復習すること (90分)
3.	栄養指導の概念② 現代における食生活の問題点	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分)	事後：重要語句について復習すること (90分)
4.	栄養指導の歴史、食生活の変遷	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分)	事後：重要語句について復習すること (90分)
5.	栄養士に関する法規 栄養士法、健康増進法など	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分)	事後：重要語句について復習すること (90分)
6.	栄養士業務の基礎知識① 日本人のための食事摂取基準	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分)	事後：重要語句について復習すること (90分)
7.	栄養士業務の基礎知識② 推定エネルギー必要量の算定 食事調査の方法	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分)	事後：重要語句について復習すること (90分)
8.	栄養士業務の基礎知識③ 食品成分表について 活用法と栄養価算定方法	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分)	事後：重要語句について復習すること (90分)
9.	栄養指導の方法① 一般原則及び栄養指導の進め方	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分)	事後：重要語句について復習すること (90分)
10.	栄養指導の方法② 実態把握の方法	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分)	事後：重要語句について復習すること (90分)
11.	栄養指導の方法③ 問題点の抽出、指導目標の設定、指導後の評価	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分)	事後：重要語句について復習すること (90分)

12.	栄養指導の方法④ 指導方法 個別栄養指導と集団栄養指導	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)
13.	栄養指導の方法⑤ 栄養指導の実際	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)
14.	栄養指導の実践① 実態把握から指導計画までのグループワーク	事前：グループワークに向けた情報を収集しておく (90分) 事後：グループワーク完成度を高める (90分)
15.	栄養指導の実践② グループワークの発表 栄養指導論 I のポイントと総まとめ	事前：グループワーク発表準備 (90分) 事後：定期試験に向け復習すること (90分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・授業最後に次回講義範囲を連絡するので、テキストを通読しておく。
- ・重要語句について整理する。
- ・授業時に配布する資料をファイリングする。(適宜確認する)
- ・食や健康にまつわる事柄に興味を持ち、日ごろからそれらの情報収集を心がける。
- ・予習、復習をすること。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	授業への取組み姿勢	
80%	20%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
三訂 栄養指導論	相川りゑ子 他	建帛社
改訂 栄養教育・指導実習	関口紀子 他	建帛社
日本食品成分表 2021(八訂)		医歯薬出版

**参考書又は参考資料等**

- ・講義中に適宜、資料を配布する。

**その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕**

- ・課題は必ず提出し、期限を守ること。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
a.abe@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名		栄養指導論Ⅱ	
担 当 者 名		阿部 亜希恵	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2300060	授 業 形 態
学 年		1	講 義
単 位 数		2	開 講 期
ナンバリング		DP2-1-B	後期
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		<p>「栄養指導論Ⅱ」では栄養指導実施に関して指標となる各種の「健康づくりのための指針」を把握し、ライフステージ別、ライフスタイル別、病院・学校・児童福祉施設等の給食施設における食生活上の問題点と栄養指導の必要性及びその指導方法を具体的に学ぶ。医療現場における栄養士としての実務経験を活かし、栄養指導の実践例を交えながら授業を進めていく。さらに、栄養指導論Ⅰで学んだ指導計画を実践し発表する。</p>	
授業の到達目標 〔学習成果〕		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食生活指針や食事バランスガイドを理解する。</li> <li>2. ライフステージ別、ライフスタイル別における食生活上の問題と指導の要点を理解する。</li> <li>3. 病院における入院・外来患者に対する指導の要点を理解する。</li> <li>4. 学校・児童福祉施設など給食施設における栄養指導の必要性と指導方法を理解する。</li> <li>5. 栄養指導の実践として計画案をもとにロールプレイを行う。</li> </ol>	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	健康づくりのための指針① 食生活指針、健康日本 21(第2次)	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	
2.	健康づくりのための指針② 食事バランスガイド、身体活動基準	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	
3.	ライフステージ別栄養指導① 妊産婦期：食の理解と指導の要点	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	
4.	ライフステージ別栄養指導② 乳児期：母乳栄養や離乳の必要性	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	
5.	ライフステージ別栄養指導③ 幼児期：食の問題点と指導の要点	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	
6.	ライフステージ別栄養指導④ 学童期：食の問題点と指導の要点	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	
7.	ライフステージ別栄養指導⑤ 思春期：食の問題点と指導の要点	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	
8.	ライフステージ別栄養指導⑥ 成人期：食の問題点と指導の要点	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	
9.	ライフステージ別栄養指導⑦ 高齢期：食の問題点と指導の要点	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	
10.	ライフスタイル別栄養指導 単身生活者・スポーツ栄養への指導の要点	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	
11.	傷病者・障害者の栄養指導 入院・外来患者への指導の要点	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	
12.	給食における栄養指導 学校、児童福祉施設等での指導の要点	事前：テキスト該当範囲を通読しておく (90分) 事後：重要語句について復習すること (90分)	

13.	栄養指導の実践①栄養指導 I のグループワーク内容のロールプレイを行う	事前：ロールプレイング準備 (180分)
14.	栄養指導の実践②栄養指導 I のグループワーク内容のロールプレイを行う	事後：ロールプレイングの感想をまとめる (180分)
15.	栄養指導論 II のポイントと総まとめ 実力認定試験の対策	事後：定期試験に向け復習すること (180分)

#### 準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・授業最後に次回講義範囲を連絡するので、テキストを通読しておく。
- ・重要語句について整理する。
- ・授業時に配布する資料をファイリングする。(適宜確認する)
- ・食や健康にまつわる事柄に興味を持ち、日ごろからそれらの情報収集を心がける。
- ・予習、復習をすること。

#### 成績評価の方法〔評価項目と割合〕

定期試験	授業への取組み姿勢	
80%	20%	

#### 使用テキスト

書籍名	著者	出版社
三訂 栄養指導論	相川りゑ子 他	建帛社
改訂 栄養教育・指導実習	関口紀子 他	建帛社
日本食品成分表 2021(八訂)		医歯薬出版

#### 参考書又は参考資料等

- ・講義中に適宜、資料を配布する。

#### その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

- ・テキストは「栄養指導論 I」と同じものを使用する。
- ・課題は必ず提出し、期限を守ること。

#### 担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他
a.abe@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	栄養指導実習 I		
担 当 者 名	阿部 亜希恵	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300061	授 業 形 態	実習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	実践的な栄養士養成をめざすため、栄養士としての基礎知識を理解し、献立作成（栄養管理）、購入計画（発注業務）、安全・衛生面に配慮した調理作業を学ぶ。さらに栄養指導・食育指導へと展開していくことが重要である。現場における栄養士としての実務経験を活かし、実践に即した献立作成から発注に至る流れ、および人を対象としたプレゼンテーション技術を身に付けていくよう授業を進める。この教科では2年次の学外実習を踏まえた授業内容さらに食育指導の技術習得を図る。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養士必須の基礎知識を理解する。</li> <li>2. 成長期である幼児期・学童期の食生活上の問題と食育の重要性を理解する。</li> <li>3. 献立作成技術、材料購入計画、安全(食中毒)・衛生面への配慮の習得。</li> <li>4. 実習により成長期の食事を具体的に学び理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	教科のガイダンス カリキュラムの概要とその取り組みについて	事後：重要語句について復習すること	(45分)
2.	栄養指導の基礎知識 1) 食事摂取基準決定	事後：計算方法を復習すること	(45分)
3.	栄養指導の基礎知識 2) 食品構成と栄養価算定	事後：食品構成表を作成し指定日に提出すること	(45分)
4.	栄養指導の基礎知識 3) 献立作成方法及び発注方法	事後：発注量表を作成し指定日に提出すること	(45分)
5.	幼児期・学童期の食育指導 1) 保育園給食献立作成	事後：献立を作成し指定日に提出すること	(45分)
6.	幼児期・学童期の食育指導 2) 学童期の食生活について	事後：重要語句について復習すること	(45分)
7.	幼児期・学童期の食育指導 3) 学童期献立作成	事後：献立を作成し指定日に提出すること	(45分)
8.	幼児期・学童期の食育指導 4) 学童期食育指導案（媒体）作成	事後：指導媒体作成	(45分)
9.	演習：学童期食育集団指導① （プレゼンテーションと評価）	事後：演習後レポートを作成	(45分)
10.	演習：学童期食育集団指導② （プレゼンテーションと評価）	事後：演習後レポートを作成	(45分)
11.	演習：学童期食育集団指導③ （プレゼンテーションと評価）	事後：演習後レポートを作成 （レポートと指導媒体を指定日に提出）	(45分)
12.	実習：保育園給食（学生献立）	事前：献立内容を確認しておく 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること	(45分) (45分)

13.	実習：学童期の食事（学生献立）	事前：献立内容を確認しておく 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること	(45分) (45分)
14.	実習：思春期の食事（お弁当）	事前：献立内容を確認しておく 事後：実習レポートを作成し翌日提出すること	(45分) (45分)
15.	実習：実技テスト（フルーツのカット） 講義：栄養指導のポイントと総まとめ	事前：実技試験の練習をしておく 事後：適宜配布した資料を活用し復習する	(45分) (45分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・ 幼児期・学童期の献立を作成する。
- ・ 指定課題の学習をする。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

献立作成	プレゼンテーションの完成度	レポート・提出物	実技テスト
30%	30%	30%	10%

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
六訂 大量調理施設衛生管理のポイント		中央法規出版

**参考書又は参考資料等**

- 「日本食品成分表」
- 「栄養教育・栄養指導実習」

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ・ 成績評価については、献立作成、プレゼンテーション、レポート・提出物、実技テストの全てで評価する。
- ・ 献立、課題は必ず提出し、期限を守ること。
- ・ 献立作成については、コメントし返却する。（必要に応じ再提出を求める）
- ・ レポート・提出物については、コメントし返却する。
- ・ 授業および実習を欠席するときは必ず連絡をすること。
- ・ 実習時には運営当番、材料当番は材料分配を行う。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
a.abe@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	栄養指導実習Ⅱ		
担 当 者 名	土谷 政代	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300062	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>本実習は、1年次に修得した給食管理での理論を踏まえて、集団給食における献立作成、発注、検収、調理作業、配食計画、原価管理等の知識をさらに深め、特定給食施設の栄養士の実際を想定した実習を行う。</p> <p>この実習では、栄養教諭として学校給食の給食管理や栄養指導等の職務経験をもち、県教育委員会の指導主事として文部科学省の衛生管理マニュアル執筆等に携わるなど、行政においても指導的立場の経験をもつ教員が集団給食における栄養管理や衛生管理の必要性やポイントについて、グループ討議や発表、研究授業方式による衛生管理ポイントの理解等の手法を用いて、学生に分かりやすく指導を行うことにより、集団給食における栄養士の実務への理解が深まる。また、献立計画に基づいた栄養指導の演習（喫食者に配慮した「ひとくちメモ」や栄養指導媒体等の教材・教具の工夫・作成等）を行い、栄養士としての実践力を養う。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集団給食における大型機器を使って、衛生管理に配慮した給食の献立作成、衛生管理、在庫管理、原価管理を踏まえて、効率の良い業務の打ち合わせと能率化を図ることができる。</li> <li>2. 大量調理施設衛生管理マニュアル等を考慮しながら、衛生管理に配慮した調理を行うことができる。</li> <li>3. 喫食者に配慮した指導媒体の工夫を行い、効果的な教材及び資料を作成することができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション：カリキュラムの概要 (演習：課題提出、実習献立決定)	産業給食 2 定食の献立作成を行い、試作を行っておくこと	
2.	演習：献立計画（実習献立修正、献立内容決定、実習ノート等資料配布）	グループごとに決定した献立について試作を行い、分量等の確認をしておくこと	
3.	演習：献立・発注計画（発注計画書等作成）	1年次で履修した給食管理の帳簿等の振り返りを行っておくこと	
4.	演習：献立・発注計画（作業計画表、発注（出庫）伝票等作成）	グループ討議を受けて、作成した役割分担や帳簿等を確認し、通読しておくこと	
5.	演習：実習に係る作業工程表、発注書等確認、一口メモ等作成、購入計画、実習打合せ等	グループ討議を受けて、作成した役割分担や帳簿等を確認し、通読しておくこと	
6.	大量調理における衛生管理の基礎（衛生管理手順等について）	「大量調理施設衛生管理マニュアル」を熟読しておくこと	
7.	実習：1回目（1班の作成献立について実習を行う）	事後学習として、調理手順やアンケートの集計、会計簿の記入を行い、帳簿を作成すること	
8.	実習：2回目（2班の作成献立について実習を行う）	事後学習として、調理手順やアンケートの集計、会計簿の記入を行い、帳簿を作成すること	

9.	演習：実習発表会及び帳簿作成（献立内容、調理作業、衛生管理、作業管理）	グループ討議やグループ発表に向けて、各個人が帳簿等の資料の準備をしておくこと
10.	実習：3回目（3班 作成献立）	事後学習として、調理手順やアンケートの集計、会計簿の記入を行い、帳簿を作成すること
11.	実習：4回目（4班 作成献立）	事後学習として、調理手順やアンケートの集計、会計簿の記入を行い、帳簿を作成すること
12.	演習：実習発表会及び帳簿作成（献立内容、調理作業、衛生管理、作業管理）および評価	グループ討議やグループ発表に向けて、各個人が帳簿等の資料の準備をしておくこと
13.	演習：実習に関する帳簿の作成（献立・調理・衛生管理・原価管理等帳簿作成）、実習ノート提出	実習ノートの作成に向けて、実習の際に使用した帳簿や書類等のまとめをしておくこと
14.	演習：栄養指導の演習（給食の時間）における指導案作成	栄養指導における指導案作成に向けて、食生活学習教材等の資料を通読しておくこと
15.	集団給食の大量調理や衛生管理のポイント、栄養指導の目的や指導のポイント等についてのまとめ	集団給食における栄養管理や衛生管理、調理管理、物資管理等について復習をしておくこと

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

・各回の講義にて、事後学習等について連絡をします。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

実技テスト	提出物「実習ノート（栄養管理・衛生管理・給食管理における資料及び帳簿作成）・レポート等」	授業への取組み姿勢
40%	40%	20%

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
女子栄養大学の毎日のおかず	小川久恵 監修	女子栄養大学出版部

**参考書又は参考資料等**

- 「食生活学習教材」（文部科学省）
- 「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」 文部科学省（学建書院）

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ・「実習ノート」を使用します。また、適宜資料も配布します。
- ・現在の食生活の現状や問題点を理解するとともに、地場産物や郷土料理、地域の食文化についても知識を深めてください。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
tsuchiya-m@hcc.ac.jp（土谷）	



授 業 科 目 名		公衆栄養学	
担 当 者 名		渡辺 響子	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2300035	〇
学 年		2	授 業 形 態
単 位 数		2	講 義
ナンバリング		DP2-2-A	開 講 期
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		後期	
授業の到達目標 〔学習成果〕		履 修	
授 業 計 画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間	
1.	オリエンテーション： この講義の目的と講義内容の紹介。 学習方法の説明。北九州市の栄養行政	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	
2.	公衆栄養学の概念	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	
3.	公衆栄養活動の歴史	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	
4.	わが国の健康・栄養問題の現状と課題 健康状態の変化	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	
5.	わが国の健康・栄養問題の現状と課題 食事の変化	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	
6.	わが国の健康・栄養問題の現状と課題 食環境の変化、ナッジ	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	
7.	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	
8.	わが国の公衆栄養活動と関係法規 地域保健法・健康増進法	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	
9.	わが国の公衆栄養活動と関係法規 食品表示法・食育基本法・栄養士法	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	
10.	国民健康・栄養調査	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	
11.	特定健康診査・特定保健指導	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	
12.	公衆栄養活動の指針、ツール 食生活指針	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。（90分） 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。（90分）	

13.	公衆栄養活動の指針、ツール 食事バランスガイド	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
14.	国の健康増進基本方針と地方計画 健康日本21	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
15.	食育推進基本計画・全体のまとめ	事前：テキストの指定範囲を通読しておくこと。(90分) 事後：指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
・授業中に提示した予習・復習を、家庭学習してくるようにする。		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	ミニテスト	授業への取り組み姿勢
70%	20%	10%
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学〔改定第7版〕	吉池信男 他	南江堂
<b>参考書又は参考資料等</b>		
厚生労働省のホームページからのプリントアウト 等		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕</b>		
・授業態度や、ミニテストを含めて、成績を評価します。 ・講義中の私語は厳禁とします。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
k.watanabe@knwu.ac.jp		

授 業 科 目 名	調理学		
担 当 者 名	梅林 千恵子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300036	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修 フードスペシャリスト必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「調理」を科学的に解明した理論を学ぶ学問である調理学では、調理操作によって調理過程中に起こる食品の栄養や物性の変化および調理機能について、体系的に学ぶ。また、合理的な調理ができるように、調理操作の種類や特性、調理機器の特徴について学ぶ。更に、おいしさが成立する要素についても科学的に学ぶ。授業は、グループ討議や発表を取り入れ、調理の理論や特性の具体例を考察する。始めに、復習を兼ねたミニテストを行い、知識や理論の定着を図り、調理学実習と連動させて進めていく。この講義では、行政の管理栄養士として料理教室・調理経験等の実務経験を有する教員が、衛生的で安全においしく食べるためにはどのように調理すべきかの理論や知識を総合的に理解できるよう、教科書をベースにワークシートを用いて授業を行う。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1) 食品の調理機能について理解し、調理学実習などの実際の調理と関連付けて活用ができるようになる。 2) 調理操作について理解し、調理学実習などの調理実習で合理的に正しい調理操作ができるようになる。 3) おいしさが成立する要素が相互作用によって成り立つことを理解し、評価の方法を修得する。</p>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	調理学とは、調理の意義・目的 調理と調理学、食事の種類と様式、 食事計画の基礎知識	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分を復習（90分）	
2.	おいしさが成立する要素Ⅰ 【おいしさを感じるしくみ、化学的要素】 ライフステージとおいしさ、味と香り 味の相互作用	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を 復習（90分）	
3.	おいしさが成立する要素Ⅱ 【物理的要素、その他の要素、おいしさの評価】 食べ物の状態と食べる側の状態 おいしさの評価	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を 復習（90分）	
4.	植物性食品の調理機能Ⅰ 【穀類①こめ】 米・米粉の種類と調理特性、炊飯の原理	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト解答部分を 復習（90分）	
5.	植物性食品の調理機能Ⅱ 【穀類②小麦、雑穀類】 小麦粉の分類と成分の調理特性、 雑穀の種類と成分特性、調理特性	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を 復習（90分）	
6.	植物性食品の調理機能Ⅲ 【いも類、豆類、種実類】 種類と栄養特性、嗜好特性、調理特性	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を 復習（90分）	
7.	植物性食品の調理機能Ⅳ 【野菜類】 栄養特性と貯蔵、嗜好特性、調理特性 ※ 野菜の色素についてレポート提出を課す	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を 復習（90分）	
8.	植物性食品の調理機能Ⅴ 【果物類、きのこ類、海藻類】 種類と栄養特性、嗜好特性、調理特性	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を 復習（90分）	

9.	動物性食品の調理機能Ⅰ 【食肉類】 組織の特徴と栄養特性、嗜好特性、調理特性	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を復習（90分）
10.	動物性食品の調理機能Ⅱ 【魚介類】 組織の特徴と栄養特性、嗜好特性、調理特性	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を復習（90分）
11.	動物性食品の調理機能Ⅲ 【卵類、乳製品】 卵類の栄養特性と鮮度、調理特性 乳製品の種類と栄養特性、調理特性	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を復習（90分）
12.	抽出食品素材の調理機能 【でん粉、油脂類、ゲル化素材】 種類と特徴、添加物の影響、調理特性 ※ ゲル化材の種類による違いや、添加物の影響をグループ討議し、グループ別に発表する	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を復習（90分）
13.	調味料・香辛料の調理機能 種類と特徴、調理特性と利用例	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を復習（90分）
14.	調理操作、調理機器 非加熱調理の分類と目的、調理器具の特徴 加熱調理の種類と加熱調理機器の種類 鍋の種類と材質	事前：教科書の該当部分を通読しておく（90分） 事後：授業で扱った部分およびミニテスト誤解答部分を復習（90分）
15.	知識や理論の定着へのフォローアップ ミニテストのまとめ及び補足解説	事前：作成したワークシートの整理とミニテストの整理（90分） 事後：講義全体の振り返りとミニテストの復習、作成ファイルの活用（90分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

・毎回、前回の授業の復習テストがあるので自宅で事後学習をして理解を深めておくこと。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

ミニテスト	定期試験	授業への取り組み姿勢	
30%	60%	10%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
Nブックス 新版 調理学	鈴野弘子、真部真里子	建帛社

**参考書又は参考資料等**

「NEW 調理と理論」（同文書院）

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

調理学はこれから2年間、さまざまな調理実習を行う上で理論の基本となる科目です。単に語句を暗記するのではなく、実際の調理操作と関連付け、生きた知識になるよう調理学実習に活かしてください。また、作成したワークシートは、調理学実習において、課題や試験に向けて活用するので、ファイリングしておいてください。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
umebayashi@hcc.ac.jp	講義の前後 10 分間およびオフィスアワーは、研究室（3-205）にて質疑応答可能です。

授 業 科 目 名	調理学実習 I		
担 当 者 名	梅林 千恵子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300063	授 業 形 態	実習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修 フードスペシャリスト必修
ナンバリング	DP2-1-A		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「調理学実習 I」は、調理学で学んだ理論を実習や実験と連動させ、科学的裏付けに基づく調理を学ぶとともに、基本的な調理技術を習得する。また、日本料理・西洋料理・中国料理の特徴を把握し、日常的な献立を実習する中で、調理機器・器具を用いての調理操作や、調味操作、盛りつけの基本を学ぶ。計量値をワークシートに記録することで、食材の目安量や規格、食材の廃棄量、重量変化、出来上がり重量等を体得していく。更に、調味料の g 換算や乾物の戻し率、配膳方法についても学習する。基本的な切り方や加熱方法・味付け等、適切な調理ができる力を養うため、デモンストレーションおよび班ごとの実習形式を通して習得する。</p> <p>調理前は、献立の説明を受け、ポイント抑えた作業工程を各班でグループ討議後、コミュニケーションをとりながら実習を行う。</p> <p>調理後は、正しい配膳を行い、各班で試食をしながら、理想的な仕上がりであったかどうか、問題点・反省点や感想等をディスカッションし、発表する。改善すべき点は以降の実習に活かしていく。また、実習ノートを作成し、実習内容と連動する課題と共に提出する。</p> <p>本実習は、行政の管理栄養士として料理教室・調理経験等の実務経験を有する教員が、衛生的で安全に楽しく食べるためにはどのように調理すべきかの理論や知識を実際の調理と連動させ、総合的に理解できるよう、経験を活かした知識や技術を踏まえ指導する。</p>
--------------------------------	--

授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 調理の基本操作（調理操作、調味操作）を習得し、安全かつ衛生的に調理を進めることができるようになる。</li> <li>2) 調理機器・器具の使用方法を理解し、正しく使うことができるようになる。</li> <li>3) 日本料理、西洋料理、中国料理の調理法や配膳方法の違いを理解し、各様式の特徴が簡単に説明できるようになる。</li> </ol>
-------------------	--

授 業 計 画		準備学習（予習・復習 等）の具体的な内容及び必要時間
1.	オリエンテーション : 実習内容、調理学実習の心得、食中毒の予防、他	事前：実習室の入室に相応しい服装で臨む準備を行う。(15分) 事後：実習室の使用方法について確認しておく。「調理実習マニュアル」を通読しておく。(30分)
2.	調理の基礎 I : 計量の仕方、調味料の g 換算、乾物の戻し率、配膳方法	事前：家庭においての計量機器を調べておく。(15分) 事後：家庭において正しい配膳習慣をつける。また、正しく計量をする。(30分)
3.	調理の基礎 II : 献立作成の手順、栄養価計算、発注計算	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。(15分) 事後：ワークシートの見直し及び、成分表を日常から目を通しておく。(30分)
4.	調理の基礎 III : 基本の切り方、包丁について	事前：家庭において包丁に慣れ親しんでおく。(15分) 事後：家庭において基本の切り方を復習しておく。(30分)
5.	調理学実験 I : 卵の調理性に関する実験	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。(15分) 事後：実験テーマに関する参考文献を調べ、結果や考察を踏まえて実験レポートを作成する。(30分)

6.	日本料理の基本献立①：炊飯、だし汁のとり方、焼き物、あえ物	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）
7.	日本料理の基本献立②：煮物、酢の物	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）
8.	日本料理の基本献立③：炒め物、蒸し物	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）
9.	調理学実験Ⅱ：小麦粉の調理性に関する実験	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実験テーマに関する参考文献を調べ、結果や考察を踏まえて実験レポートを作成する。（30分）
10.	西洋料理の基本献立①：パンを使った料理	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）
11.	西洋料理の基本献立②：香辛料を使った料理	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）
12.	調理技術のテスト：一定時間内にきゅうりの輪切りを切り終える	事前：家庭において日常から包丁を用いた調理をしておく。（15分） 事後：包丁の持ち方や添え手の形や位置を再度確認し、家庭において、きゅうりの輪切りの練習をしておく。（30分）
13.	中国料理の基本献立①：ビーフンを使った料理	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）
14.	中国料理の基本献立②：あんかけ料理	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）

15.	日本料理、西洋料理、中国料理の調理法や配膳方法の違いについてのまとめ ※調理学実習 I を通して、各様式の違いを班でグループ討議し、発表する。	事前：日本料理、西洋料理、中国料理の調理法や配膳方法の違いについて各自まとめておく。(15分) 事後：日本料理、西洋料理、中国料理の特色が簡単に説明できるようになる。(30分)
-----	--	---

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・授業に関連した課題を指示し、レポートと共に提出する。
- ・適宜実技テストを行うので、各自で日常的に調理する機会を増やし、調理技術の向上に努めること。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

レポート	定期試験	授業姿勢及び実習姿勢（分配や身だしなみも含む）
30%	60%	10%

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
・使用しない（都度資料を配布）。		

**参考書又は参考資料等**

- 適宜資料を配布する
- 「N ブックス 新版 調理学」(建帛社)
- 「日本食品成分表 2021」(医歯薬出版)
- 「日本人の食事摂取基準 (2020 年版)」(第一出版)
- 「調理のためのベーシックデータ [第 5 版]」(女子栄養大学出版部)

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ・実習に際しては献立を配布する。
- ・運営当番と材料当番並びに衛生当番は必ず実習前に材料分配を行う。
- ・欠席時は必ず当日の朝までに連絡すること。
- ・実習レポート及び課題は必ず提出すること。(期限厳守)  
 レポートのフィードバック資料として、調理学の教科書やワークシートの指定箇所を復習すること。
- ・班での共同作業を行うため、遅刻や欠席がないように体調管理等に留意すること。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
umebayashi@hcc.ac.jp	実習の前後 10 分間およびオフィスアワーは、研究室 (3-205) にて質疑応答可能です。

授 業 科 目 名	調理学実習Ⅱ		
担 当 者 名	梅林 千恵子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300064	授 業 形 態	実習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修 フードスペシャリスト必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「調理学実習Ⅰ」で学んだ基礎的な知識と調理技術をさらに発展させる。代表的な行事食も献立構成に取り入れ、季節の多様な食材を使った品数の献立を、作業工程を考え、時間内に調理することを、実践を通して習得する。調味料や食材の計量を行うことで、味を再現し、食品の目安重量や戻し倍率の把握をする。更に、調理器具（計量匙・計量カップ）で表記されている献立を重量gに換算を行い、基本の汁や飯の調味%はワークシートを使い修得する。また、調理技術の向上を発展させるため、色々な飾り切りを習得する。</p> <p>「調理学実習Ⅰ」同様に、デモンストレーションおよび班ごとの実習形式を通して習得する。</p> <p>調理前は、献立の説明を受け、ポイント抑えた作業工程を各班でグループ討議後、コミュニケーションをとりながら実習を行う。</p> <p>調理後は、正しい配膳を行い、各班で試食をしながら、理想的な仕上がりであったかどうか、問題点・反省点や感想等をディスカッションし、発表する。改善すべき点は以降の実習に活かしていく。また、実習ノートを作成し、実習内容と連動する課題と共に提出する。</p> <p>本実習は、行政の管理栄養士として料理教室・調理経験等の実務経験を有する教員が、衛生的で安全に美味しく食べるためにはどのように調理すべきかの理論や知識を実際の調理と連動させ、総合的に理解できるよう、経験を活かした知識や技術を踏まえ指導する。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 調理技術がさらに発展できる。</li> <li>2) 実習全体の流れを把握し、作業工程を考えて調理が出来るようになる。</li> <li>3) 季節の食材や行事食などの献立構成を習得する。</li> <li>4) 食品の目安重量や戻し倍率の把握及び、基本の汁や飯の調味%が計算できるようになる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション：前期実習の振り返りと ※グループ討議と発表 後期実習の心得	事前：調理室の使用方法・調理室マニュアルを再読しておく。（15分） 事後：前期を振り返り、改善点をノートにまとめ書く。（30分）	
2.	西洋料理の献立①：ピラフの調理操作、 ひき肉の結着性	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）	
3.	調味の基本：調味料のg換算と 調味%の基礎演習	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：課題を調べ、ワークシートを完成させノートに貼る。（30分）	
4.	日本料理の献立①：雑穀米、白身魚の加熱凝固	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）	



5.	西洋料理の献立② : 小麦粉の調理、ゼラチンの特性	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）
6.	調理技術 I ・保存食：果物の飾り切り、ペクチンのゲル化、バター	事前：色々な果物の飾り切りについて調べておく。（15分） 事後：ペクチンのゲル化について参考文献を調べ、レポートを作成する。（30分）
7.	日本料理の献立② : 希釈卵液の加熱、乾物の戻し倍率	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）
8.	中国料理の献立① : もち米の調理	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）
9.	行事食① : クリスマス料理	事前：クリスマス料理について調べておく。（15分） 事後：家庭において、クリスマス料理献立の中から、再現する。（30分）
10.	調理技術 II : 野菜の飾り切り（蛇腹きゅうり、ねじり梅）、麴	事前：色々な野菜の飾り切りについて調べておく。（15分） 事後：家庭において、飾り切りの練習をする。（30分）
11.	行事食② : おせち料理、多様な飾り切り	事前：おせち料理について調べておく。（15分） 事後：家庭において、おせち料理献立の中から再現する。（30分）
12.	献立作成 : 1食献立を立てる（私たちの1食分の献立）	事前：日本人の食事摂取基準 2020 を通読しておく。（15分） 事後：私たちの1食分の献立を完成させる。（30分）
13.	中国料理の献立② : 粥料理	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）
14.	西洋料理の献立③ : 牛肉の加熱凝固	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。（15分） 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。（30分）
15.	年間の行事食について ※行事食について班でグループワーク	事前：行事食について調べておく。（15分） 事後：課題を調べ、ワークシートを完成させノートに貼る。（30分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・授業に関連した課題を指示し、レポートと共に提出する。
- ・適宜実技テストを行うので、各自で日常的に調理する機会を増やし、調理技術の向上に努めること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
包丁の実技テスト	レポート	定期試験	授業及び実習への取組み（分配や身だしなみも含む）
10%	20%	60%	10%
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・使用しない（都度資料を配布）。			
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 適宜資料を配布する</li> <li>○ 「N ブックス 新版 調理学」（建帛社）</li> <li>○ 「日本食品成分表 2021」（医歯薬出版）</li> <li>○ 「日本人の食事摂取基準（2020 年版）」（第一出版）</li> <li>○ 「調理のためのベーシックデータ [第 5 版]」（女子栄養大学出版部）</li> </ul>			
その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に際しては献立を配布する。</li> <li>・運営当番と材料当番並びに衛生当番は必ず実習前に材料分配を行う。</li> <li>・欠席時は必ず当日の朝までに連絡すること。</li> <li>・実習レポートは必ず提出すること。（期限厳守）</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">レポートのフィードバック資料として、調理学の教科書やワークシートの指定個所を復習すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班での共同作業を行うため、遅刻や欠席がないように体調管理等に留意すること。</li> </ul>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
umebayashi@hcc.ac.jp	実習の前後 10 分間およびオフィスアワーは、研究室（3・205）にて質疑応答可能です。		

授 業 科 目 名	調理学実習Ⅲ		
担 当 者 名	梅林 千恵子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300065	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修 フードスペシャリスト必修
ナンバリング	DP2-2-B		

授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ調理操作を基本に幅広い実習を行い、調理技術の向上を図ると共に食卓作法を学ぶ。郷土料理・精進料理・おもてなし料理の実習を通し、日本の食文化についても理解を深め、応用力の習得を目指す。また、実験を通して代表的な食材の調理特性を理解し、活用できるようになる。献立作成において調味%の活用ができるよう習得する。</p> <p>「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」同様に、デモンストレーションおよび班ごとの実習形式を通して習得する。</p> <p>調理前は、献立の説明を受け、ポイント抑えた作業工程を各班でグループ討議後、コミュニケーションをとりながら実習を行う。</p> <p>調理後は、正しい配膳を行い、各班で試食をしながら、理想的な仕上がりであったかどうか、問題点・反省点や感想等をディスカッションし、発表する。改善すべき点は以降の実習に活かしていく。また、実習ノートを作成し、実習内容と連動する課題と共に提出する。</p> <p>本実習は、行政の管理栄養士として料理教室・調理経験等の実務経験を有する教員が、衛生的で安全においしく食べるためにはどのように調理すべきかの理論や知識を実際の実習と連動させ、総合的に理解できるよう、経験を活かした知識や技術を踏まえ指導する。</p>
--------------------------------	--

授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1) 様式に応じた食卓作法及び応用力を習得する。</p> <p>2) 標準の味を再現できる調味%を献立作成に活用できるようになる。</p> <p>3) 日本の食文化の理解を深め関心を持ち、継承できるようになる。</p>
-------------------	--

授 業 計 画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1.	オリエンテーション：カリキュラムの説明、 調理学実習の振り返り ※グループ討議と発表	事前：調理室の使用方法・調理室マニュアルを再読しておく。(15分) 事後：調理学実習を振り返り、改善点をノートにまとめ書く。(30分)
2.	調理学実験Ⅰ：ゲル化素材の調理性に関する実験	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。(15分) 事後：実験テーマに関する参考文献を調べ、結果や考察を踏まえて実験レポートを作成する。(30分)
3.	西洋料理の献立①：煮込み料理	事前：調理学の教科書の該当部分（前実習で告知）を読んでおく。(15分) 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。(30分)
4.	日本料理の献立①：精進料理	事前：精進料理について調べておく。(15分) 事後：実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。(30分)

5.	中国料理の献立① : 点心料理	事前: 点心料理について調べておく。(15分) 事後: 実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。(30分)
6.	調味の基本 : 調味料のg換算と調味%の活用	事前: 調味料のg換算表を日常から使用する。(15分) 事後: 献立の調味%が算出できるようになる。(30分)
7.	日本料理の献立② : 郷土料理	事前: 郷土料理について調べておく。(15分) 事後: 実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。(30分)
8.	献立作成 : 調味%を使った献立演習	事前: 作った献立の調味%が算出できるようになる。(15分) 事後: 献立を立てる際、調味%を活用できるようになる。(30分)
9.	調理技術 : 切り方総合の実技テスト	事前・事後: 日常より家庭において包丁を使った調理を行う。(45分)
10.	日本料理の献立③ : おもてなし料理	事前: おもてなし料理について調べておく。(15分) 事後: 実習の要点をまとめ、調理の理論と連動した調理操作を考察し、レポートを作成する。また、計量のワークシートは、廃棄量や重量変化等を計算し、完成させる。更に、献立にポイントを記入し、課題を調べ、理論の定着を図る。(30分)
11.	食卓作法 : 日本料理、西洋料理、中国料理	事後: 食卓作法について様式別にノートにまとめて提出する。(45分)
12.	調理学実験Ⅱ : 砂糖の調理性に関する実験	事前: 調理学の教科書の該当部分(前実習で告知)を読んでおく。(15分) 事後: 実験テーマに関する参考文献を調べ、結果や考察を踏まえて実験レポートを作成する。(30分)
13.	食を楽しむ : 和・洋・中によるバイキング料理	事前: バイキング料理について調べておく。(15分) 事後: 各献立が同時に提供できたかどうか、作業効率良かったか等、反省点・改善点をノートにまとめる。(30分)
14.	調理技術 : きゅうりの輪切り実技試験	事前・事後: 日常より家庭において包丁を使った調理を行う。(45分)
15.	総合的な振り返り: 調理学実習で習得したこと ※2年間の調理学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して 習得したことを班でまとめ、発表する。	事前: 調理学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのノート整理(15分) 事後: 献立のインデックスを作成し、ノートに貼り、総合的な反省・感想を書き、提出する。(30分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・授業に関連した課題を指示し、レポートと共に提出する。
- ・適宜実技テストを行うので、各自で日常的に調理する機会を増やし、調理技術の向上に努めること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

包丁の実技テスト	レポート	授業及び実習への取組み(分配や身だしなみも含む)
20%	70%	10%

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
・使用しない(都度資料を配布)。		

参考書又は参考資料等

- 適宜資料を配布する

<ul style="list-style-type: none"> <li>○「N ブックス 新版 調理学」(建帛社)</li> <li>○「日本食品成分表 2021」(医歯薬出版)</li> <li>○「日本人の食事摂取基準 (2020 年版)」(第一出版)</li> <li>○「調理のためのベーシックデータ [第 5 版]」(女子栄養大学出版部)</li> </ul>	
<p><b>その他 [受講に際しての注意点、課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて]</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に際しては献立を配布する。</li> <li>・運営当番と材料当番並びに衛生当番は必ず実習前に材料分配を行う。</li> <li>・欠席時は必ず当日の朝までに連絡すること。</li> <li>・実習レポートは必ず提出すること。(期限厳守)  <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートのフィードバック資料として、調理学の教科書やワークシートの指定箇所を復習すること。</li> </ul> </li> <li>・班での共同作業を行うため、遅刻や欠席がないように体調管理等に留意すること。</li> </ul>	
<p><b>担当教員の連絡先等</b></p>	
<p>担当教員 E-mail</p>	<p>その他</p>
<p>umebayashi@hcc.ac.jp</p>	<p>実習の前後 10 分間およびオフィスアワーは、研究室 (3-205) にて質疑応答可能です。</p>

授 業 科 目 名	給食管理		
担 当 者 名	土谷 政代	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300039	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>特定給食施設を運営するためには、相互に関連した給食管理業務の知識・技術、栄養士としての高度な専門性が求められる。</p> <p>給食運営を行うために必要な栄養・食事管理、調理管理、原価管理、衛生管理等の一連の管理業務について栄養士養成過程のコアカリキュラムに沿って授業を進める。</p> <p>この講義では、栄養教諭として学校給食の栄養管理や給食管理の実務経験をもち、文部科学省の衛生管理マニュアル執筆等に携わるなど、県教育委員会の指導主事として、行政においても指導的・導的立場の経験をもつ教員が特定給食施設の集団給食における栄養管理や衛生管理、帳簿管理等の必要性やポイントについて、グループ討議や演習等の手立てを用いて、学生に分かりやすく指導を行うことにより、集団給食における栄養士の実務への理解が深まる。</p> <p>講義の序盤では、特定給食施設における給食の意義や栄養管理の必要性、関係法令、給食施設における給与栄養目標量算出方法、荷重平均栄養成分表算出方法等、特定給食施設における栄養士の給食管理の基礎を学習する。</p> <p>講義の中盤では、調理管理、食材管理の他、栄養士として集団給食の調理を行う上で最優先される衛生管理について、HACCP に基づき、大量調理施設衛生管理マニュアルや学校給食衛生管理マニュアル等、大量調理の特性を踏まえた衛生管理を学習する。</p> <p>講義の終盤では、給食施設の栄養士として必要な給食の事務管理（栄養・調理・会計等に関する帳簿）について演習を行いながら学習を進める。15回の最終回には、全体の総まとめとして、ノートを活用しながらグループ討議や意見交換を行い、講義全体の復習を行う。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養士として特定給食施設を運営するための知識と技術を身につけることができる。</li> <li>2. 健康増進法、栄養士法、学校給食法等の関係法規を理解する。</li> <li>3. 特定給食施設の栄養食事摂取基準の算定を理解し、施設に応じた食事計画を立案できる。</li> <li>4. 計数管理（栄養事務、原価管理、帳簿の記入方法等）について理解する。</li> <li>5. 給食の安全・衛生管理について理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習 等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	イントロダクション 給食の意義と役割 栄養士の役割	<p>事前：テキスト「給食の運営」（給食の概念、給食の目的）を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：「給食の意義と役割」についてまとめ、キーワードノートを作成する（90分）</p>	
2.	給食関係法令 （健康増進法、栄養士法、学校給食法等）	<p>事前：テキスト「給食の運営」（給食関係法令と行政指導）を通読しておくこと（90分）</p> <p>事後：給食関係法令についてまとめ、キーワードノートを作成する（90分）</p>	

3.	<p>栄養・食事管理 食事摂取基準の活用 給与栄養目標量の設定 (給与栄養目標量算出の演習を含む)</p>	<p>事前：テキスト「給食の運営」(栄養・食事管理、食事摂取基準の活用)を通読しておくこと(90分)                  事後：栄養・食事管理、給与栄養目標量の算定についてまとめ、キーワードノートを作成し、理解を深める(90分)</p>
4.	<p>栄養・食事管理 荷重平均食品成分表の作成 (荷重平均食品成分値の算出演習を含む)</p>	<p>事前：テキスト「給食の運営」(栄養・食事管理、荷重平均食品成分表)を通読しておくこと(90分)                  事後：栄養・食事管理、荷重平均食品成分表の算出についてまとめ、キーワードノートを作成し理解を深める(90分)</p>
5.	<p>献立計画 献立作成の条件と方法 献立の種類 献立方式</p>	<p>事前：テキスト「給食の運営」(献立計画、栄養・食事管理の評価)を通読しておくこと(90分)                  事後：献立計画等についてまとめ、キーワードノートを作成する(90分)</p>
6.	<p>栄養・食事管理の評価</p>	<p>事前：テキスト「給食の運営」(栄養・食事管理の評価)を通読しておくこと(90分)                  事後：栄養・食事管理の評価についてまとめ、キーワードノートを作成する(90分)</p>
7.	<p>給食の調理管理 大量調理の品質管理 大量調理の調理機器</p>	<p>事前：テキスト「給食の運営」(給食の調理管理、大量調理の品質管理・調理機器)について通読しておくこと(90分)                  事後：大量調理の品質管理、調理機器についてまとめ、キーワードノートを作成する(90分)</p>
8.	<p>給食の調理管理 給食材料管理</p>	<p>事前：テキスト「給食の運営」(給食の調理管理、給食材料管理)を通読しておくこと(90分)                  事後：給食の調理管理、給食材料管理についてまとめ、キーワードノートを作成する(90分)</p>
9.	<p>給食の調理管理 安全・衛生管理の目的 大量調理施設衛生管理マニュアル</p>	<p>事前：テキスト「給食の調理管理、安全・衛生管理の法規」を通読しておくこと(90分)                  事後：参考資料「大量調理施設衛生管理マニュアル」「HACCP」についても関連項目の要点をまとめ、キーワードノートを作成する(90分)</p>
10.	<p>給食の調理管理 衛生事故の予防と対策</p>	<p>事前：テキスト「給食の運営」(衛生事故の予防と対策)を通読しておくこと(90分)                  事後：テキスト「調理場における衛生管理&amp;調理技術マニュアル」の関連項目の要点をまとめ、キーワードノートを作成する(90分)</p>
11.	<p>給食の施設・設備管理</p>	<p>事前：テキスト「給食の運営」(給食の施設・設備管理)を通読しておくこと(90分)                  事後：テキスト「調理場における衛生管理&amp;調理技術マニュアル」の関連項目の要点をまとめ、キーワードノートを作成する(90分)</p>

12.	給食における経営管理 (給食の会計・原価管理の演習を含む)	事前：テキスト指定範囲（給食における経営管理、原価管理）を通読しておくこと（90分） 事後：給食の原価管理（演習）について理解を深める（90分）
13.	給食の事務管理 事務管理の目的・実際 (帳票の種類・・帳簿作成演習を含む)	事前：テキスト「給食の運営」（給食の事務管理）を通読しておくこと（90分） 事後：給食の事務管理について要点をまとめ、キーワードノートを作成する（90分）
14.	給食施設について (栄養出納表等、帳簿作成演習を含む)	事前：テキスト「給食の運営」（給食施設）を通読しておくこと（90分） 事後：給食で使用する帳簿について理解を深める（90分）
15.	特定給食施設の意義や集団給食の特性等、特定給食施設における栄養士に求められる役割や職務について（グループ討議）	事前：初回～14回の内容についてノートを活用し復習する（90分） 事後：特定給食施設における栄養士の役割についてノートを活用し、講義全体を復習する（90分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・給食運営管理の理解を深めるため、特定給食施設の種類や特徴について情報を収集することが大切です。
- ・「キーワードノート」については、紙ベースで作成すること。
- ・「キーワードノート」は第14回の講義後に提出を求めます。（第15回の講義時に返却します）

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	課題に対する提出物の評価	
80%	20%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
給食の運営-計画と実務-	芦川修貳 編著	同文書院
調理場における衛生管理&調理技術マニュアル	文部科学省	学研書院
病院等栄養管理の基本と実際	公益社団法人 福岡県栄養士会	公益社団法人 福岡県栄養士会

**参考書又は参考資料等**

- 「大量調理—品質管理と調理の実際」 殿塚婦美子 編集（学健書院）
- ・大量調理施設衛生管理マニュアル
- ・学校給食実施基準
- ・学校給食衛生管理基準

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ・集団給食における献立や調理、衛生について関心をもち、積極的に学んでください。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
tsuchiya-m@hcc.ac.jp（土谷）	



授 業 科 目 名	給食管理実習 I		
担 当 者 名	近藤 順子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300040	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>本実習は栄養士免許取得のための校外実習として位置付けられている。学内での調理学、臨床栄養学、栄養指導等に関する講義や実習で学んだ知識・技術内容を基に、これらの実践の場である学外の特定給食施設において、給食運営・給食管理・衛生管理体制の実際を体験し体得する。更に、栄養士の職務について深く理解し、職業倫理や守秘義務について学ぶ。</p> <p>事前指導の内容は、特定給食施設において学外実習生の受け入れ指導を行ってきた実務経験を有する教員が、その経験を活かし、給食運営について重要管理点等を講ずる。</p> <p>実習期間は、8月第3週目の6日間とする。実習施設は病院、事業所、福祉施設（高齢者福祉施設・保育所等の児童福祉施設等）の特定給食施設のうち、将来の就職希望や適正を考慮して1施設を選択する。</p> <p>※履修上の条件等</p> <p>原則として、2年次前期までに開講される栄養士必修科目を全て修得していることが、本科目の履修条件となる（再履修含む）。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定給食施設における実践の場に臨んで、体験を通して実践力を身につける。</li> <li>2. HACCPに基づく衛生管理をベースに、調理から食事提供までのプロセスを理解する。</li> <li>3. 学内で修得した給食運営に関する知識や技術を実習施設で適用できる</li> <li>4. 栄養士としての自覚をもち職業倫理や守秘義務について把握する</li> </ol>		
授 業 計 画 〔学外実習の内容含む〕			
<p>【実習の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養・給食部門業務の概要</li> <li>2. 献立作成から調理・配膳に至る一連の実務</li> <li>3. フードサービスとしての工夫や配慮の対応方法</li> <li>4. 適時・適温のための作業工程と施設・設備の活用方法</li> <li>5. 感染症や食中毒などを予防するための衛生管理対応</li> <li>6. 専門職に携わるという自覚および職業倫理と守秘義務の修得</li> </ol>			
準備学習・事後学習等についての補足説明			
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 校外実習における心構えについて十分理解をしておく</li> <li>② 大量調理施設衛生管理マニュアルの熟読</li> <li>③ 実習施設から出される課題の準備対応</li> </ol>			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
実習施設からの評価	実習ノートの完成度	取組み姿勢	
50%	20%	30%	

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
使用しない		
参考書又は参考資料等		
「病院等栄養管理の基本と実際」(公益社団法人 福岡県栄養士会)、その他講義中に資料を配布する		
その他 [実習に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて]		
<p>【実習期間前に事前指導を実施】</p> <p>①オリエンテーションを含む事前指導への出席は必須とする</p> <p>②特別講義では病院・事業所・福祉施設等の栄養士を迎え実際の業務内容について学ぶ</p> <p>③校外実習の実施には、1年次の実習科目(調理学実習ⅠⅡ、臨床栄養学実習Ⅰ、栄養指導実習Ⅰ)の成績を考慮し実習先を検討する</p> <p>※実習施設からの評価が合格点に達していない場合は、再実習を行うことがある</p>		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
junkondo@hcc.ac.jp		

授 業 科 目 名	給食管理実習Ⅱ		
担 当 者 名	土谷 政代 ・ 阿部 亜希恵	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300041	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修	選択必修 栄養士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員につ いての特記事項含 む〕	<p>本実習では、これまでの給食管理や栄養指導実習等の教科で学習したことを実践する場である。</p> <p>学校給食における集団給食の運営(栄養管理、衛生管理、物資管理等)の在り方について理解を深めるとともに、給食の時間における食に関する指導も併せて行うことにより、学校における栄養士の職務についても理解を深める。</p> <p>事前指導においては、小中学校の栄養教諭や県教育委員会の指導主事として、また文部科学省の衛生管理におけるワーキング委員として、調理場における衛生管理マニュアル執筆に携わった教員が、その経験を生かして、栄養管理・衛生管理・物資管理・帳簿作成等、ポイントを押さえながら分かりやすく指導を行う。そのことにより、学生にとって、学校給食の実務における理解が深まるとともに、学外実習をスムーズに行うことができるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>給食管理実習Ⅱ（給食の運営）学外実習・学校給食実習 必修1単位 北九州市や下関市、その他の地域の小学校において、集団給食の栄養管理や衛生管理、調理、物資管理等の給食管理業務を体験する。</li> <li>期間：令和3年10月18日(月)～22日(金) 5日間 ※ 「実習事前特別講義」及び「事前指導Ⅰ・Ⅱ」の受講が必須である。</li> <li>指導資料を作成し、給食の時間における食に関する指導を行う。</li> </ol> <p>【履修上の条件等】 ※原則として、2年次後期までに開講される栄養士必修科目を全て修得していることが、本科目の履修条件となる（再履修含む）。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校給食に関する実務および集団給食（大量調理）の調理技術について体験実習をする。</li> <li>学校栄養職員の職務が単なる給食の管理にとどまることなく、児童生徒の成長や発育段階に応じた食に関する指導に関与している事への理解を深める。</li> </ol>		
授 業 計 画	〔学外実習の内容含む〕		
【特別講義】の実施	<p>学外実習の受け入れ先である北九州市教育委員会学校保健課より、学校給食の目的や概要、実習における留意点等について講義を行う。</p>		
【事前指導】の実施	<p>学外実習をスムーズかつ効果的に行うために、2回の事前指導を行う。</p>		

**【実習の内容】**

- ①学校給食の概要、給食施設の特質、給食の目的、目標などを学習する。
- ②献立作成および大量調理（盛り付け、配膳を含む）、衛生管理などの給食実務について体験実習を行う。
- ③給食の時間に、学校給食を活用した食に関する指導を行う。
  - ・指導内容や流れが分かる指導案（略案）を作成する。  
（テーマ、対象、目的、内容を具体的に記入し事前に提出する）
  - ・実習先の指導をもとに、教材及び資料を作成し、児童への指導を行う。

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- ・学校給食の目的や目標、「学校給食実施基準」、「学校給食衛生管理基準」について、理解をしておくこと。
- ・2年前期の栄養指導実習Ⅱで学んだ集団給食の調理の特徴や衛生管理について復習し、実習に備えること。
- ・給食の時間における食に関する指導の資料作成について、実習校への事前打ち合わせまでに、各自調査と準備を整えておくこと。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

※その他欄参照

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
固定のテキストは使用せず、事前指導等において資料の配布を行う。		

**参考書又は参考資料等**

- 食生活学習教材「食生活を考えよう」（文部科学省）
- 私たちの家庭科「学習指導書」上・下（開隆堂）
- 「学校給食衛生管理基準」

**その他〔実習に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ※成績評価については、「実習評価票」（実習先実習態度等成績）に基づき、実習ノートを考慮して行う。
- ・目的意識をもって給食管理実習に積極的にに関わり、給食調理業務はもちろんのこと、給食の時間における指導に参画し、学校における給食業務理解を深めてください。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
tsuchiya-m@hcc.ac.jp（土谷） a.abe@hcc.ac.jp（阿部）	

授 業 科 目 名		微生物学	
担 当 者 名		和辻 智郎	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2300042	授 業 形 態
学 年		1	開 講 期
単 位 数		2	履 修
ナンバリング		DP2-1-A	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		ヒトの生活環境には多くの微生物が存在し、我々の生活に深く関わっている。医療や食品の分野で利用されている有益な微生物がいる一方で、感染症や食中毒を引き起こす原因となる微生物も存在する。本授業では有益な微生物が我々の生活にどのように役立っているのかや、食中毒の原因となる微生物の特徴などについて学んでいく。また、本授業の内容は、『食品衛生学』の授業内容とも関連しており、『生物学』や『生化学』をより深く理解するためにも有用である。プロジェクターを使用し、講義形式で授業を行う。	
授業の到達目標 〔学習成果〕		1) 生物の分類と微生物の位置づけについて説明できるようになる。 2) 微生物の増殖抑制や殺菌の方法について説明できるようになる。 3) 発酵食品と微生物の関係性について説明できるようになる。 4) 食中毒と微生物の関係性について説明できるようになる。 5) 目に見えない微生物を意識する力を身に付ける。	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	微生物学の歴史	微生物という目に見えない生物が存在し、病気を引き起こすことがあるという事実を見出してきた歴史について理解できるまで復習すること (180分)	
2.	生物の分類と微生物の位置づけ	生物は細菌、アーキア、真核生物の3つに分類されることを理解できるまで復習すること (180分)	
3.	微生物の構造、栄養と増殖	細菌の表層構造、真核生物の細胞小器官の機能、対数増殖の危険性について理解できるまで復習すること (180分)	
4.	微生物の代謝 (発酵経路、呼吸)	発酵によってアルコールや乳酸が作られることや酸素呼吸の生理学的意義について理解できるまで復習すること (180分)	
5.	微生物の遺伝	微生物に限らず生物は共通した仕組みであるセントラルドグマによって生命現象が支えられていることを理解できるまで復習すること (180分)	
6.	微生物の増殖と殺菌	食中毒を防止するために微生物の増殖と温度や水分活性などの関係性を十分に理解できるまで復習すること (180分)	
7.	醸造食品 (1) 酒類	穀物や芋類を原料とする酒は、糖化後にアルコール発酵の必要性があることを理解できるまで復習すること (180分)	
8.	醸造食品 (2) 発酵調味料	味付けに欠かせない醤油や味噌が微生物の働きで造られることや醤油と味噌の違いを理解できるまで復習すること (180分)	

9.	醸造食品 (3) 畜産発酵食品	チーズやヨーグルトの造り方や微生物との関わりについて理解できるまで復習すること (180分)
10.	醸造食品 (4) 水産発酵食品	かつお節や魚醤の製造において乾燥や高塩濃度を利用した微生物の制御技術が関わることを理解できるまで復習すること (180分)
11.	腸内細菌と健康	腸内環境を整える方法や健康との関わりを理解できるまで復習すること (180分)
12.	細菌性食中毒	細菌性食中毒における感染型と毒素型の違いなどを理解できるまで復習すること (180分)
13.	ウイルス性食中毒と化学的殺菌	ノロウイルスが食品中で増殖しないこと、ヒトを介した感染もあること、感染拡大を防ぐ方法などを理解できるまで復習すること (180分)
14.	寄生虫性食中毒	寄生虫の生活環、宿主と食品の関係性、冷凍にも殺虫効果があることなど理解できるまで復習すること (180分)
15.	食中毒の発生傾向と防止策	食中毒事件が起こりやすい施設や季節的特徴、また食中毒の防止策を理解できるまで復習すること (180分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

授業内で小テストを行う。配布資料や授業内で解いた確認問題を復習しておくこと。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	小テスト	
70%	30%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
-----	----	-----

使用しない (都度資料を配布)

**参考書又は参考資料等**

食品微生物学 (著者: 村田容常、渋井達郎 編) 東京化学同人

**その他〔受講に際しての注意点、課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて〕**

・質問等については授業中もしくはオフィスアワーの時間帯に対応するが、その限りではない。  
不在等で直接コンタクトをとれない場合はメールでの対応も可能。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡します。	

授 業 科 目 名	基礎化学		
担 当 者 名	和辻 智郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300043	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	身の回りの自然現象や生命活動のために不可欠な栄養成分は、全て化学物質である。そして、生体内や食品内でおこる現象の多くを化学によって説明することも可能である。また、化学は「栄養士規定科目」「専門教育科目」「資格取得に関する科目」の基礎でもあり、化学的視点や考え方はそれら科目の理解に極めて重要である。本授業では、身近な食生活に関わる物質や現象を取り上げ、将来専門科目を学ぶ上で必要な化学の知識を身につけることを目的とする。高校で化学を履修していない初学者でも理解できるように出来る限り配慮する。プロジェクターを使用し、講義形式で授業を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 塩と糖の化学結合の違いについて説明できるようになる。</li> <li>2) 塩と糖の溶解の違いを化学結合の違いや水和から説明できるようになる。</li> <li>3) 水の三態（氷、水、蒸気）について水素結合の観点から説明できるようになる。</li> <li>4) 水と油の違いを極性の違いから説明できるようになる。</li> <li>5) 油脂の酸敗や自動酸化を不対電子の観点から説明できるようになる。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	原子の構造（原子核、陽子、中性子、電子）	あらゆる物質が原子の組み合わせでできていること、数ある原子が3つの要素（陽子、中性子、電子）でできていること、陽子と原子番号の関係性などを理解できるまで復習すること（180分）	
2.	原子の電子配置	原子の電子がK殻、L殻などに配置される法則を理解し、原子番号20までの原子の電子配置を示せるように復習すること（180分）	
3.	元素の周期律とイオン	電子配置から希ガスが安定していることや第1族元素などがイオン化しやすいことを理解し、それぞれの族に属した元素を具体的に示せるように復習すること（180分）	
4.	イオン結合とイオン結晶	最外殻電子が化学結合に重要であることやイオン結合がクーロン力の働きで成立していることを理解できるまで復習すること（180分）	
5.	共有結合（不対電子、電子対）	共有結合はお互いの不対電子を出し合って共有していることを理解し、H <sub>2</sub> などの分子について電子式が描けるように復習すること（180分）	
6.	分子からなる物質と配位結合	共有結合には単結合、二重結合、三重結合、配位結合の違いを理解し、それぞれの具体例について電子式や構造式が描けるように復習すること（180分）	
7.	化学結合と結晶のまとめ	イオン結合と共有結合を比較し、その違いを理解できるまで復習すること（180分）	
8.	物質の三態（固体・液体・気体）	物質の三態と分子間力の関係性を理解できるまで復習すること（180分）	

9.	物質の溶解（イオン・極性・水和）	物質と水分子の結合や塩と糖の溶解の違いについて理解できるまで復習すること（180分）
10.	酸と塩基（中和反応・塩）	酸と塩基から水素イオンと水酸化物イオンが、中和反応で塩が生じることを理解できるまで復習すること（180分）
11.	酸化還元（酸化数・反応式）	酸化や還元を電子の授受で理解できるまで復習すること（180分）
12.	炭化水素（アルカン・アルケン・アルキン）	有機物の基本となる炭化水素の構造や性質を理解できるまで復習すること（180分）
13.	脂肪酸と油脂・油脂の酸敗	これまでに習った化学の知識を活かすことで油脂の酸敗を理解することができる。そのため、過去の講義を含めて総合的な復習すること（180分）
14.	石けん・単糖・二糖	石けんや糖の構造を疎水性と親水性の面から理解できるまで復習すること（180分）
15.	多糖・デンプンの老化	親水基であるヒドロキシ基とデンプンの構造を理解してデンプンの老化について復習すること（180分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

- 1) 毎回の授業で小テストを行う。前回までの学習内容や授業内で解いた確認問題を復習しておくこと。
- 2) 基本的な四則計算と分数の計算を確実にできるようになっておくこと。  
計算問題に不安がある学生に対しては補講を行うので受講すること。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	復習小テスト	
60%	40%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
-----	----	-----

使用しない（都度資料を配布）

**参考書又は参考資料等**

学習内容は高校の化学基礎をベースとしているため、高校で使用した教科書は参考書として有用である。

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

・質問等については授業中もしくはオフィスアワーの時間帯に対応するが、その限りではない。  
不在等で直接コンタクトをとれない場合はメールでの対応も可能。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡します。	



授 業 科 目 名		臨床検査データ解析	
担 当 者 名		大久保 孔平	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2300044	〇
授 業 形 態		講義	
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	栄養士必修 医療秘書必修
ナンバリング		DP2-2-A	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		長年、病院で臨床検査にあたる教員が、実務経験を活かし、実際の患者のデータを使用し、各項目における異常値を解析し、患者の病態を解析する。	
授業の到達目標 〔学習成果〕		教科書は特に設けず、栄養士として臨床検査データから患者の疾病原因および進行状況が分かるようにする。	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	人体の構造と機能 1	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
2.	人体の構造と機能 2ーまとめ	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
3.	消化器系 1 ー生化学検査の基準値と異常値を学ぶ	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
4.	消化器系 2 ー生化学検査の結果から体の異常を学ぶ	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
5.	消化器系 3 ー各臓器の検査項目と検査値	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
6.	消化器系 4 ー各臓器の検査結果から疾病を知る	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
7.	呼吸器系 ー肺疾患の検査値の判断	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
8.	泌尿器系 1 ー尿の生成のメカニズムと検査値の判断	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
9.	泌尿器系 2 ー泌尿器系の病態を学ぶ	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
10.	泌尿器系 3 ー検査結果から泌尿器系の病態を学ぶ	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
11.	血液検査 1 ー血液生成のメカニズムと検査値判断	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
12.	血液検査 2 ー貧血検査から貧血の種類を学ぶ	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
13.	循環器系 ー心臓と血液について	事前：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分) 事後：解剖学の教科書で本科目の授業内容の臓器を予習 (90分)	
14.	実際の患者データで授業 1～13 までの講義の知識で判断	事前：配布した資料の指定範囲を通読 (90分) 事後：講義で指示した内容をまとめる (90分)	
15.	寄生虫について ー調理上遭遇するであろう寄生虫について学ぶ	事前：配布した資料の指定範囲を通読 (90分) 事後：講義で指示した内容をまとめる (90分)	

<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験		
100%		
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
使用しない		
<b>参考書又は参考資料等</b>		
特になし		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中の私語は厳禁とする。</li> <li>・講義中は原則として退室厳禁とする。</li> </ul>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
nk8ua9@bma.biglobe.ne.jp	講義終了後の質問等対応可。	

授 業 科 目 名	コンピュータリテラシー		
担 当 者 名	萩原 勇人	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300045	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修	栄養士必修 医療秘書必修
ナンバリング	DP5-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>栄養士および医療秘書実務士として現場で働くうえで、情報機器の活用能力は必須条件である。本授業では、社会現場においてデファクトスタンダードとして定着している「MS-Excel」を用いて表計算ソフトウェアの使い方について学習する。四則演算や合計・平均を求めるといった比較的簡単な関数からデータ参照や条件分岐などよく利用される関数の使用方法などとともに各種グラフの作成方法を学ぶ。総合演習では、実務現場を想定した指示内容に従って、表やグラフを交えた分析・統計資料等の帳票を作成する。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1) 表計算ソフトウェアの基本操作から関数の使用方法ならびにグラフの作成方法を修得する。</p> <p>2) 表やグラフを交えた表現力豊かで説得力のあるビジネス文書を作成できる能力を身につける。</p>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法、PC教室の利用方法など	事前：シラバスの内容を事前に確認する（15分） 事後：演習課題の保存方法等の操作を確認する（30分）	
2.	表計算 1：MS-Excel の基本操作 1 （データ入力、書式設定、合計、平均など）	事前：Windows の基本操作を確認する（15分） 事後：Excel の演習課題の内容を復習する（30分）	
3.	表計算 2：MS-Excel の基本操作 2 （並べ替え、グラフなど）	事前：Excel の基本操作を確認する（15分） 事後：Excel の演習課題の内容を復習する（30分）	
4.	表計算 3：MS-Excel の基本操作 3 （相対参照と絶対参照）	事後：Excel の演習課題の内容を復習する（45分）	
5.	表計算 4：MS-Excel の基本操作 4（非表示、印刷）	事後：Excel の演習課題の内容を復習する（45分）	
6.	表計算 5：MS-Excel の基礎演習 1 （ROUND 関数、Word への貼り付けなど）	事後：Excel の演習課題の内容を復習する（45分）	
7.	表計算 6：MS-Excel の基礎演習 2 （SUMIF 関数、個別絶対参照）	事後：Excel の演習課題の内容を復習する（45分）	
8.	表計算 7：MS-Excel の基礎演習 3 （IF 関数、ROUNDDOWN 関数）	事後：Excel の演習課題の内容を復習する（45分）	
9.	表計算 8：MS-Excel の総合演習 1 （出席管理、成績処理）	事前：Excel の総合演習に向けて今までの授業内容を復習する（30分） 事後：Excel の総合演習の内容を復習する（15分）	
10.	表計算 9：MS-Excel の総合演習 2（売上管理）	事後：Excel の総合演習の内容を復習する（45分）	
11.	表計算 10：MS-Excel の総合演習 3（在庫管理）	事後：Excel の総合演習の内容を復習する（45分）	
12.	表計算 11：MS-Excel の総合演習 4（顧客管理）	事後：Excel の総合演習の内容を復習する（45分）	
13.	表計算 12：MS-Excel の総合演習 5（統計処理）	事後：Excel の総合演習の内容を復習する（45分）	

14.	表計算 13 : MS-Excel の総合演習 6 (様々なアプリケーションへの適用)	事後 : Excel の総合演習の内容を復習する (45 分)
15.	総合演習のまとめ : 実技課題および解説	事前 : Excel の実技課題に向けて今までの授業内容を復習する (45 分)
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作が不慣れな学生は、空き時間等を利用して繰り返し練習し、操作テクニックの向上を心がけること。</li> <li>・欠席時の演習については、空き時間等を利用して課題解決に取り組むこと。</li> </ul>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
演習達成度	実技課題	
40%	60%	
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
使用しない		
<b>参考書又は参考資料等</b>		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ごとにプリント (A4 版) を配布する。(プリントを整理するクリアファイル等を準備すること)</li> <li>・14 回目の授業時に、すべての演習データが正しく保存されているかをチェックする。</li> </ul>		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
hagiwara@hcc.ac.jp		

授 業 科 目 名	情報処理学演習 I		
担 当 者 名	富山 禎信	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300046	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	栄養士必修 医療秘書必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての 特記事項含む〕	大学のレポートや報告書のみならず、職業人となった後のオフィスワークでも、各種文書は Microsoft Word を使用して作成されるのが一般的です。高校（商業科）教師としての職務経験を有する教員として、ビジネス文書の作成や PC 操作の基本を身につけられるように指導します。ビジネス文書とは、企業等で使用される報告書や通信文書のような文書です。これらの作成を通じて、定型的な文書を自力で完成ができるような課題解決型の学習を展開していきます。下記の授業計画を履行すれば、Word の操作を通じて、各種のビジネス文書を自由自在に加工したり、作成できる能力を身に付けられる演習内容に設定しています。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC の各種設定や情報セキュリティに関する基本的な操作ができる。</li> <li>・ Word を使用してビジネス文書の編集し、課題解決ができる。</li> <li>・ キーボードを使用して 400 字／10 分の文字入力ができる。</li> <li>・ 日商 PC 検定（文書作成）3 級に合格できる力がある。</li> </ul>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習 等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	パーソナルコンピュータの基本操作	事前：教科書の第 1 章を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを完成させる。（45 分）	
2.	キーボードの入力	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを完成させる。（45 分）	
3.	Microsoft Word の基本操作	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを完成させる。（45 分）	
4.	ビジネス文書の作成	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを WORD で完成させる。（45 分）	
5.	ビジネス文書の作成とファイル管理	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを WORD で完成させる。（45 分）	
6.	ビジネス文書におけるマナーと日本語表現	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを WORD で完成させる。（45 分）	
7.	電子メールに関する知識と特徴	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを完成させる。（45 分）	
8.	デジタルデータの取り扱いに関する知識	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを完成させる。（45 分）	
9.	ハードウェア、ソフトウェア、 ネットワークに関する知識	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを完成させる。（45 分）	
10.	情報セキュリティ、 コンプライアンスに関する知識	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを完成させる。（45 分）	
11.	ホームページ、SNS に関する知識	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを完成させる。（45 分）	
12.	日商 PC 検定 3 級受験のための例題と解説（1） 対策	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを WORD で完成させる。（45 分）	
13.	日商 PC 検定 3 級受験のための例題と解説（2） 対策	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを WORD で完成させる。（45 分）	
14.	日商 PC 検定 3 級受験のための例題と解説（3） 対策	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。（45 分） 事後：教科書の内容及び配布プリントを WORD で完成させる。（45 分）	

15.	日商 PC 検定 3 級受験の模擬テスト	事前：教科書の指定部分を通読しておくこと。(45 分) 事後：教科書の内容及び配布プリントを WORD で完成させる。(45 分)	
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>			
<p>上記の授業計画内容の他に、10 分間のタイピング練習を毎回行います。</p> <p>演習時間内だけでなく時間外のタイピング練習を繰り返すことで、飛躍的にタイピング文字数が向上します。</p> <p>継続的に、自発的に繰り返し練習をしてください。</p> <p>また、使用テキストには付属 CD があり、家庭の PC で事前・事後学習が可能です。</p>			
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>			
定期試験	意欲・関心・態度	思考・判断・表現	
40%	30%	30%	
<b>使用テキスト</b>			
書籍名	著者	出版社	
日商 PC 検定試験 3 級完全マスター 文書作成	富士通エフ・オー・エム	FOM 出版	
<b>参考書又は参考資料等</b>			
適時、プリントを配布します。			
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な授業態度を求めます。授業中の私語、携帯電話の利用等により、他学生に負の影響を及ぼすと判断されるときには退室を申し渡すこともあります。「タイピング速度記録表」と「課題到達成果のプリント」は、朱を入れて毎回フィードバックし、当該学生の知識・技能の弱い箇所を指摘していきます。それが「思考・判断・表現」の評価対象になります。</li> <li>・情報処理機器の操作を得意とする学生は、そうでない学生の指導役を担ってもらいます。相互学習によって自他ともに切磋琢磨し、互いに高めあうのが目的です。また、自分のもっている知識や技能を他の受講生と分かち合う喜びを知ってほしいと願っています。</li> <li>他の学生に対する指導の姿勢や、反対に指導を受けようとする側の積極的姿勢は、「意欲・関心・態度」の評価対象になります。</li> </ul>			
<b>担当教員の連絡先等</b>			
担当教員 E-mail	その他		
演習開始後に改めて連絡をします。	適時、質問対応可。		

授 業 科 目 名		情報処理学演習Ⅱ	
担 当 者 名		萩原 勇人	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2300047	授 業 形 態
学 年		2	開 講 期
単 位 数		1	履 修
ナンバリング		DP5-2-A	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		医療事務専用ソフトウェアを利用して、診療報酬請求事務と窓口会計処理の電算システムの実務演習を行う。「診療報酬請求事務Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を生かし、実務現場で利用されている電算処理のシミュレーションを行い、操作の流れを理解する。	
授業の到達目標 〔学習成果〕		医事コンピュータソフトウェアを用いた窓口会計処理およびレセプト作成処理の操作方法を身につける。	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	オリエンテーション：授業の進め方、および評価の方法などについて	事前：シラバスの内容を事前に確認する（15分） 事後：演習課題の保存方法等の操作を確認する（30分）	
2.	医事ソフトの基本操作 1：患者登録、病名入力	事前：医事ソフトの基本操作を確認する（15分） 事後：医事ソフトの演習課題の内容を復習する（30分）	
3.	医事ソフトの基本操作 2：診療内容の入力（診察料）	事前：医事ソフトの基本操作を確認する（15分） 事後：医事ソフトの演習課題の内容を復習する（30分）	
4.	医事ソフトの基本操作 3：診療内容の入力（投薬料）	事後：医事ソフトの演習課題の内容を復習する（45分）	
5.	医事ソフトの基本操作 4：診療内容の入力（注射料）	事後：医事ソフトの演習課題の内容を復習する（45分）	
6.	医事ソフトの基本操作 5：診療内容の入力（処置料、手術・輸血、麻酔料）	事後：医事ソフトの演習課題の内容を復習する（45分）	
7.	医事ソフトの基本操作 6：診療内容の入力（検査料、画像診断料、その他）	事後：医事ソフトの演習課題の内容を復習する（45分）	
8.	医事ソフトの活用 1：外来サンプルカルテ演習（内科、小児科系の 2 例）	事前：サンプルカルテ演習に向けて今までの授業内容を復習する（30分） 事後：サンプルカルテ演習の内容を復習する（15分）	
9.	医事ソフトの活用 2：外来サンプルカルテ演習（耳鼻咽喉科、眼科系の 2 例）	事後：サンプルカルテ演習の内容を復習する（45分）	
10.	医事ソフトの活用 3：外来サンプルカルテ演習（外科、整形外科系の 2 例）	事後：サンプルカルテ演習の内容を復習する（45分）	
11.	医事ソフトの活用 4：外来サンプルカルテ演習（皮膚泌尿器科、精神科系の 2 例）	事後：サンプルカルテ演習の内容を復習する（45分）	
12.	医事ソフトの活用 5：入院サンプルカルテ演習（急性期病院の 2 例）	事後：サンプルカルテ演習の内容を復習する（45分）	
13.	医事ソフト 総合演習 1：外来サンプルカルテの総合演習	事後：サンプルカルテ演習の内容を復習する（45分）	
14.	医事ソフト 総合演習 2：入院サンプルカルテの総合演習	事後：サンプルカルテ演習の内容を復習する（45分）	
15.	実技課題（外来 1 問、入院 1 問）および解説	事前：実技課題に向けて今までの授業内容を復習する（45分）	

準備学習・事後学習等についての補足説明		
欠席時の演習については、空き時間等を利用して課題解決に取り組むこと。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕		
演習達成度	実技課題	
40%	60%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
医事 Navi-Ⅲ操作テキスト		ケアアンドコミュニケーション
レセプト作成テキストブック令和3年4月版		社会保険研究所
参考書又は参考資料等		
その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕		
14回目の授業時に、すべての演習データが正しく保存されているかをチェックする。		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
hagiwara@hcc.ac.jp		



授 業 科 目 名		薬理学	
担 当 者 名		柳原 延章	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2300048	授 業 形 態
学 年		1	開 講 期
単 位 数		2	履 修
ナンバリング		DP5-1-B	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		医療事務系の資格取得において、医薬品に関する基礎的な知識を習得することは、薬物治療などに使用される医薬品の把握を容易にし、診療報酬などの医療系事務能力の向上に繋がる。本講義では、医薬品名、関連法規および主な医薬品の生体内における薬理作用および副作用などの基礎的な知識を学び、グループディスカッションやディベートを取り入れながら学習する。	
授業の到達目標 〔学習成果〕		1. 医薬品の種別、分類および医薬品の関連法規を習得し、説明できる。 2. 主な疾病の薬物治療とそれに使用されている主な医薬品名、薬理作用及び副作用などを習得し、説明できる。	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	薬理学総論：医薬品の種別、分類、処方箋、関係法規など	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
2.	薬理学総論：薬の歴史、薬物受容体、吸収・代謝など	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
3.	自律神経の概説と交感神経作用薬および遮断薬など	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
4.	食品の栄養と薬の体内動態違いについて	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
5.	薬の体内動態に及ぼす食品の影響①	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
6.	薬の体内動態に及ぼす食品の影響②	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
7.	自律神経に効く薬と食品との関係	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
8.	生活習慣病と薬物治療① 糖尿病について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
9.	生活習慣病と薬物治療② 高脂血症について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
10.	生活習慣病と薬物治療③ 高血圧症について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
11.	生活習慣病と薬物治療④ 高尿酸血症について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
12.	生活習慣病と薬物治療⑤ 骨粗しょう症について	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	
13.	パーキンソン病などの 神経変性疾患治療薬など	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）	

14.	抗生物質、抗ウイルス、 ニューキノロン剤、抗がん薬など	事前：テキスト指定範囲を通読しておくこと（90分） 後：指定した用語の意味の解釈を加えたノート作成（90分）
15.	まとめ	事前：ディベートに向け、初回～14回の内容について ノートを活用し復習する（90分） 事後：レポートへのフィードバック及びノートを活用し、 講義全体を復習する（90分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
1)授業で実施したまとめ小テストは、必ず復習して理解するように努めて下さい。 2)試験学習のための復習をする。		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験（筆記試験）		授業姿勢評価（出席、小テスト、レポート等）
80%		20%
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
栄養薬理学	田中芳明・中村 強編	建帛社
<b>参考書又は参考資料等</b>		
1)講義毎に資料を配布する。 2)系統看護学講座 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進 3 吉岡 充弘 編 医学書院		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
1)授業内容に理解できない箇所がある場合は質問するか、オフィスアワー時に、質問に来てください。 2)まとめホームワークは、必ず理解するようにして下さい。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
yanagin@knwu.ac.jp	質問等のある場合は、火・木曜日 16時30～17時30分の時間帯でオフィスアワーの時間で 2-708 室にて対応。	

授 業 科 目 名	保育学		
担 当 者 名	花田 栄子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300049	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	必修
ナンバリング	DP1-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	2005年「食育基本法」が成立し、その前文において「子どもが豊かな人間性を育み、生きる力を身につけて行くためには、何よりも食が重要である」と明記され、乳幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期である。幼児の福祉施設での職務経験を有する教員が、次の時代を担う乳幼児を育てる側として、乳幼児の発達の過程や行動の意味を講義する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の心身の発育・発達を理解する。</li> <li>2. 子育ての大切さ、大変さ、楽しさについて理解する。</li> <li>3. 子どもや家族を取り巻く環境について理解する。</li> <li>4. 玩具、絵本等遊びの変化や意義について理解する。</li> <li>5. 発達障害について理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション 講義の目的と講義内容の説明 乳児・幼児の定義（児童福祉）	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストで復習する（90分）	
2.	保育とは何か。 児童の権利に関する条約。自分の今までを振り返りながら、今の自分を考える。	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストとノートの記述で復習する（90分）	
3.	乳児期の心身の発育・発達。 赤ちゃんの不思議な行動	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストと資料で復習する（90分）	
4.	幼児期の心身の発育・発達	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容を配布資料とノートの記述で復習する（90分）	
5.	乳幼児の精神発達 睡眠・視覚・聴覚・原始反射	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストとノートの記述で復習する（90分）	
6.	夜泣き イヤイヤ期	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストとノートの記述で復習する（90分）	
7.	運動の発達 言語の発達	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストとノートの記述で復習する（90分）	
8.	信頼感の形成 アタッチメント	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストとノートの記述で復習する（90分）	

9.	ワークライフバランス、子育てのストレス、ワンオペ育児、不適切なかかわり	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストとノートの記述で復習する（90分）
10.	子どもの育つ環境の整備	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストとノートの記述で復習する（90分）
11.	遊びの意義	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストとノートの記述で復習する（90分）
12.	おもちゃ 伝承遊び 伝承あそびの種類、発達との関係を検討	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストとノートの記述で復習する（90分）
13.	絵本（読み聞かせの意味） 課題絵本を提示し、絵本に込められた作者の意図を検討する	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容をテキストとノートの記述で復習する（90分）
14.	発達障害	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：講義の内容を資料で復習する（90分）
15.	まとめ 地域の子育て支援	事前：テキストの範囲を読んでおく（90分） 事後：後期講義・ノート・資料等で復習する（90分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

周りの子どもに目を向け、子どもと遊んだり話しをしたりする機会をたくさん作って下さい。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	課題提出（自分の考えが表現できているか）	授業への取り組み姿勢
70%	25%	5%

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
新保育学 改訂5版	岡野雅子、松橋有子、熊澤幸子、武田京子、吉川はる奈著	南山堂

**参考書又は参考資料等**

講義中に適宜資料を配布し、適宜参考図書を紹介します。

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

課題に対しては、指示した意図を読み取り、自分自身の考えを書いて下さい。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
非公開とする。	講義終了後 10 分間は、非常勤講師室にて質問対応可。

授 業 科 目 名	フーズスペシャリスト論		
担 当 者 名	和辻 智郎・阿部 亜希恵	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300050	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	フーズスペシャリスト必修
ナンバリング	DP6-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	フーズスペシャリストは、流通から販売、消費分野まで期待される専門職である。フーズスペシャリストの概念や資格・専門性・活躍の分野を理解すると共に資格認定取得を目指し、関連教科科目の総括として講義する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フーズスペシャリストの責務や資格・専門性を理解できるようになる。</li> <li>2. フーズシステムと食品産業や食品の品質規格や表示に関わる法律を理解できるようになる。</li> <li>3. 資格認定取得に対する実力を身に付けられるようになる。</li> </ol>		
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	オリエンテーション (フーズスペシャリストの概念)	事後：授業のテキスト該当箇所を通読し、 授業で学んだキーワード、配布資料について内容を整理すること (180分)	
2.	フーズスペシャリストの活躍分野	事前：テキストの該当箇所 (前回授業で提示) を通読する (90分) 事後：授業で学んだキーワード、配布資料について内容を整理すること (90分)	
3.	人類と食物	事前：テキストの該当箇所 (前回授業で提示) を通読する (90分) 事後：授業で学んだキーワード、配布資料について内容を整理すること (90分)	
4.	世界の食	事前：テキストの該当箇所 (前回授業で提示) を通読する (90分) 事後：授業で学んだキーワード、配布資料について内容を整理すること (90分)	
5.	日本の食	事前：テキストの該当箇所 (前回授業で提示) を通読する (90分) 事後：授業で学んだキーワード、配布資料について内容を整理すること (90分)	
6.	現代日本の食生活① (戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活)	事前：テキストの該当箇所 (前回授業で提示) を通読する (90分) 事後：授業で学んだキーワード、配布資料について内容を整理すること (90分)	
7.	現代日本の食生活② (食生活の変化と食産業、食料の供給と食料自給率、環境と食)	事前：テキストの該当箇所 (前回授業で提示) を通読する (90分) 事後：授業で学んだキーワード、配布資料について内容を整理すること (90分)	

8.	食品産業の役割① (フードシステムと食品産業、食品製造業の規模と動向、食品製造業の目的と特徴)	食品産業が食品製造業、食品流通業、外食産業の3つから構成されること、1割産業である食品製造業の規模と動向、食品製造業の目的と特徴を理解できるまで復習すること (180分)
9.	食品産業の役割② (食品卸売業、食品小売業、外食産業)	食品卸売業から食品小売業への食品流通、食品卸売業における集荷と価格付けの機能、スーパーマーケットとコンビニの規模と動向、中食産業の盛況、外食産業の需要の鈍化について理解できるまで復習すること (180分)
10.	食品の品質規格と表示① (食品の品質規格・表示にかかわる法律、JAS法による規格、食品表示法による表示)	JAS法に基づくJASマークの表示や食品表示法に基づく食品表示について理解できるように復習すること (180分)
11.	食品の品質規格と表示② (健康や栄養に関する表示制度、その他の法律による表示、Codex規格)	特別用途食品、保健機能食品、米と牛のトレーサビリティ法、食品表示の国際規格であるCodex規格について理解できるように復習すること (180分)
12.	食情報と消費者保護	事前：テキストの該当箇所(前回授業で提示)を通読する (90分) 事後：授業で学んだキーワード、配布資料について内容を整理すること (90分)
13.	フードスペシャリスト資格認定試験直前対策①	過去問を解答し、過去問の傾向把握と頻出問題の正答ができるようになるまで復習すること (180分)
14.	フードスペシャリスト資格認定試験直前対策②	過去問を解答し、過去問の傾向把握と頻出問題の正答ができるようになるまで復習すること (180分)
15.	フードスペシャリスト論で出題された問題の解説	受験の際に出題されたフードスペシャリスト論の問題において自身が間違えた箇所を重点的に復習し、正解できるようになるまで復習すること (180分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

配布資料や授業内で解いた確認問題を復習しておくこと。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

レポート	授業への取り組み姿勢	
60%	40%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
四訂 フードスペシャリスト論	日本フードスペシャリスト協会	建帛社

**参考書又は参考資料等**

「フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集」(建帛社)

**その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕**

- ・資格認定試験合格に向けて真剣に授業に取り組み、自習にもしっかり取り組むこと。
- ・成績については、フードスペシャリスト試験の結果を加味することもある。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡します。	

授 業 科 目 名		食品流通論	
担 当 者 名		高森 俊明	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2300051	〇
授 業 形 態		講義	
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	フードスペシャリスト必修
ナンバリング		DP6-2-B	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		<p>食は、私たちが営む経済活動によって支えられているが、中国武漢市で発生した新型コロナウイルスの世界中感染拡大によって、私たちの生活に不可欠な食を支える食品の流通システムは、パラダイムシフト的変革を余儀なくされている。</p> <p>今回のコロナ禍は、私たちに改めて食品流通のグローバル化を実感させるとともに、食品流通を含めた現代の社会システム自体を危機的状況に陥れている。</p> <p>この講義では、地方自治体および独立行政法人で、静脈流通（廃棄物対策）、一次産品（水産物）による地域経済振興などの職務経験を有する教員が、私たちの命の糧となる食料の生産者と消費者とを繋ぐ重要な使命を有する流通について、コロナ後の変化も踏まえて、その仕組みと役割を最新の食品流通事情を紹介しながら考察し、理解を深めていく。</p>	
授業の到達目標 〔学習成果〕		<p>1) 食品流通の仕組みについて理解し、その概要を説明できるようになる。</p> <p>2) 食品流通の果たす役割について理解し、客観的に説明できるようになる。</p> <p>3) 食品流通の変化とその背景について理解し、データを引用して説明できるようになる。</p> <p>4) フードスペシャリスト資格認定試験（専門分野）合格レベルの知識習得を目指す。</p>	
授 業 計 画		準 備 学 習（予 習・復 習 等）の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	オリエンテーション：この講義の目的と講義内容の紹介。学習方法、受講上の注意、成績評価方法、公欠に関する取扱い、授業ノート・キーワードノートの作成方法についての説明。	事前：なし 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（180分）	
2.	フードマーケットと食品産業	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する。過去問の自習（90分）	
3.	食生活の変化とその要因	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する。過去問の自習（90分）	
4.	消費者の食糧消費の変化	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する。過去問の自習（90分）	
5.	食品の価格決定メカニズム	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する。過去問の自習（90分）	
6.	食品流通の役割	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する。過去問の自習（90分）	
7.	卸売市場の仕組みと役割	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する。過去問の自習（90分）	
8.	食品流通の情報システム	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する。過去問の自習（90分）	

9.	食品の小売流通	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する。過去問の自習（90分）
10.	主要食品の流通	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する。過去問の自習（90分）
11.	フードマーケティング	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する。過去問の自習（90分）
12.	食品の物流システム	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
13.	食糧消費と環境問題	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
14.	食品産業のマーチャンダイジング	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）
15.	食糧消費を取り巻く課題	事前：授業ノートの復習、自分で調べた内容を授業ノートへ追記する（90分） 事後：指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する（90分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

・「授業ノート」及び「キーワードノート」については、対面講義かリモート講義かによってスタイルを決定するので講義開始後に別途指示する。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

定期試験	キーワードノートの完成度	授業への取組み姿勢	
40%	20%	40%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
四訂 食品の消費と流通	(社)日本フードスペシャリスト協会	建帛社

**参考書又は参考資料等**

- ・フードスペシャリスト資格認定試験（専門分野）合格を目指す受講生は、問題集を購入して、講義の進捗状況に拘わらず自習すること（未履修範囲の質問も歓迎する）。  
推奨問題集：『フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集（2021年版）』  
著者：（社）日本フードスペシャリスト協会 出版社：建帛社
- ・講義の進捗に応じて適宜参考資料等を紹介する。講義時に参考資料等を配布する場合がある。

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

- ・講義中の私語やスマホ使用は、グループディスカッション等で認めた場合を除き、厳禁とし、減点対象とする。注意しても改善されない場合は、他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合がある（対面講義のみ）。
- ・授業中の居眠りや著しく意欲に欠ける受講態度は減点対象とする（対面講義のみ）。
- ・公欠事由に該当する場合を除き、30分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする（対面・リモート共通）。
- ・対面講義の場合は定期試験を実施するがリモート講義の場合は課題レポートを定期試験の代替とする。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
fukufukuluffy@yahoo.ne.jp（課題・レポート提出用）	講義の前後および講義中は教室又は非常勤講師室にて随時質問対応可。（リモート講義の場合はチャットによる質問で代替）



授 業 科 目 名	フードコーディネート論		
担 当 者 名	神谷 禎恵	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	2300052	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修	フードスペシャリスト必修
ナンバリング	DP6-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本講義では、食品会社でフードアドバイザーを務めるほか、食に関する様々な商品開発や企画に携わる講師により、食のあり方が多様化し、ビジネス化するなかで食べることにかかわる様々な場においての基本的理念の構築と専門性の修得を目指す。又、食物の旬やおいしさを育んだ風土の歴史、文化、礼節を伝え、コミュニケーション能力のより高いフードプランニングスペシャリストを育成、前衛的な店舗経営などにも至れるよう講義する。また、授業に併せて過去問題集も進めていく。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食の知識や技術に加えて人の心に内在する食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面の教養や感性を養う。</li> <li>2. 即戦力、実践力にむすびつく心の技をみがく。</li> <li>3. フードスペシャリスト資格試験の100%合格。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション：フードコーディネートとは（概要と食器展示）	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
2.	フードコーディネートの基本理念：おいしさの本質とフードコーディネート（実物食味テスト）	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
3.	食の文化：日本の食事の歴史と文化、旬を知る、世界の食	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
4.	食卓のコーディネート：日本料理、中国料理、西洋料理の食事コーディネート	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
5.	食卓のサービスとマナーⅠ：サービスとマナーの基本、日本料理のサービスとマナー（食器）	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
6.	食卓のサービスとマナーⅡ：中国料理、西洋料理のサービスとマナー（食器と実演）	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
7.	食卓のサービスとマナーⅢ：パーティ、マナーとルール、プロトコル	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
8.	メニュープランニング：料理様式とメニュー開発	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
9.	食空間のコーディネート：業務用食空間とキッチン、衛生、色彩	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
10.	フードコーディネート：キッチンコーディネート 実習、練習	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
11.	フードコーディネート：食事空間コーディネート 演習、実践	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	
12.	フードサービス：フードサービスの動向と特性、マネジメントの基本	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）	

13.	フードサービスマネジメント：フードサービスの動向と特性、マネジメントの基本	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）
14.	食企画の実践コーディネート：食企画に必要な基礎スキル、食企画の実践現場	事前：シラバス、教科書該当箇所の確認（90分） 事後：授業内容の復習（90分）
15.	まとめ	事後：半期全体のふりかえり（180分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格試験の合格に向けて自らの自習が大きく影響する。授業と共に真剣な取り組みをして頂きたい。</li> <li>・自宅キッチンを自分の理想通りにコーディネートしてみること。</li> <li>・和食の食卓の基本について（1汁3菜など）理解を深めること。</li> </ul>		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	レポート	授業への取り組み
70%	20%	10%
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
フードコーディネート論	(社)日本フードスペシャリスト協会	建帛社
フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集(2018年版)	(社)日本フードスペシャリスト協会	建帛社
<b>参考書又は参考資料等</b>		
特になし		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
・資格試験合格に向けて真剣に授業に取り組み、自らも自習して頂きたい。		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	

授 業 科 目 名		食品の官能評価・鑑別演習	
担 当 者 名		和辻 智郎	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2300053	授 業 形 態
学 年		2	開 講 期
単 位 数		2	履 修
ナンバリング		DP6-2-B	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		一般的な食品の官能評価・鑑別は、古くは見立てとして誰でも身につけていた。その当初の目的は、主に変質に起因する有害食品の排除であった。そして、人類はそれを更に発展させて、より美味しい物を見つけたり、つくったりするために使用するようになっていく。また、加工食品は、そのものを見ても提供形態が次々と変化し、様々なものと混合され、原型を留めないものも多くある。そのため、原料を含めその性質を具体的に評価することは、非常に困難であるといえる。本演習ではこれらを踏まえ、食品の性質を評価するために行われる様々な方法について学ぶ。プロジェクターを使用し、講義形式で授業を行う。	
授業の到達目標 〔学習成果〕		1.官能評価の手法を身に付けられるようになる。 2.官能評価の必要性を説明できるようになる。 3.各食品群の特徴を説明できるようになる。 4.各食品群の鑑別方法を説明できるようになる。	
授 業 計 画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間	
1.	・官能検査・鑑別の目的 ・穀類とその加工品	事後：テキストの指定箇所を再読し、重要項目をノートなどにまとめる（90分）	
2.	・官能検査の構成要員 ・イモ類、豆類、種実類とその加工品	事前：前回内容の復習、テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：確認テストの復習と重要項目のチェック（45分）。	
3.	・官能検査の実施方法：嗜好型試験 ・野菜類、果実類とその加工品	事前：前回内容の復習、テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：確認テストの復習と重要項目のチェック（45分）。	
4.	・官能検査の実施方法：分析型試験 ・海藻類、魚介類とその加工品	事前：前回内容の復習、テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：確認テストの復習と重要項目のチェック（45分）。	
5.	・官能検査に影響する要因とその対策 ・肉類、卵とその加工品	事前：前回内容の復習、テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：確認テストの復習と重要項目のチェック（45分）。	
6.	・食品成分と品質評価 ・乳と乳製品、油脂	事前：前回内容の復習、テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：確認テストの復習と重要項目のチェック（45分）。	
7.	・化学的評価法 ・菓子類、酒類	事前：前回内容の復習、テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：確認テストの復習と重要項目のチェック（45分）。	
8.	・レオロジー評価 ・茶類、コーヒー、ココア、清涼飲料	事前：前回内容の復習、テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：確認テストの復習と重要項目のチェック（45分）。	
9.	・テクスチャー評価 ・醸造食品、調味料	事前：前回内容の復習、テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：確認テストの復習と重要項目のチェック（45分）。	
10.	・特殊検査・鑑別法：非破壊検査 ・冷凍食品、弁当	事前：前回内容の復習、テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：確認テストの復習と重要項目のチェック（45分）。	
11.	・分子生物学的・免疫学的鑑別法 ・機能性食品	事前：前回内容の復習、テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：確認テストの復習と重要項目のチェック（45分）。	
12.	フードスペシャリスト資格認定試験直前対策	事前事後：試験に向け指示する内容の予習・復習（90分）。	

13.	演習：官能検査・品質評価	事前：テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：授業での重要項目チェック（45分）。	
14.	演習：各種食品の鑑別法	事前：テキストの該当箇所予習（45分）。 事後：確認テストの復習、重要項目チェック（45分）。	
15.	まとめ	事前：これまでの確認テストの総復習（45分）。 事後：これまでの重要項目を再度確認する（45分）。	
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>			
・毎回確認テストを行うので、前回の授業内容について復習しておくこと。			
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>			
レポート	授業への取組み姿勢		
60%	40%		
<b>使用テキスト</b>			
書籍名	著者	出版社	
三訂 食品の官能評価・鑑別演習	(社)日本フードスペシャリスト協会	建帛社	
<b>参考書又は参考資料等</b>			
授業の内容に応じて適宜参考書を紹介する。			
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>			
・成績については、フードスペシャリスト試験の結果を加味することもある。 ・質問等については授業中もしくはオフィスアワーの時間帯に対応するが、不在の場合はメールでの対応も可能。			
<b>担当教員の連絡先等</b>			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に改めて連絡します。			

授 業 科 目 名	初年次教育・キャリアアップ演習 I		
担 当 者 名	学科教員	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300054	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	栄養士として実社会に身を置いた際、栄養士養成施設で学んだ内容だけでは十分とは言い難く、多くは授業だけでは補いきれない事象が発生する。その場において適切に判断する能力を養い、食事に携わるプロとして社会に貢献できる人材を育成する。また、学生の理解をより深めるために、教科授業に対する補講の位置づけとして行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養士としての基礎学力を修得する。</li> <li>2. 広く社会に目を向け、社会貢献の意義が理解できるようになる。</li> <li>3. 教科書で学びきれないマナーやルールを修得する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション、学校行事の意義 レクスポ大会競技説明	事前：学生便覧の行事予定表を通読しておく（30分） 事後：レクスポ大会に向けて競技練習する（30分）	
2.	学生生活の注意点 栄養士に必要な基礎数学テスト	事後：不正解の問題を再度解き、理解する（45分）	
3.	入学前の課題説明①栄養士のための基礎知識	事後：不正解の問題を再度解き、理解する（45分）	
4.	入学前の課題説明②栄養数学・栄養化学	事後：不正解の問題を再度解き、理解する（45分）	
5.	感染症予防について 出席停止の場合の対応方法	事後：学んだ内容の対応方法を理解し実践に繋げる（45分）	
6.	性犯罪被害防止教育 ～性犯罪から身を守ろう～	事後：受講後の感想レポートを作成し提出する（45分）	
7.	食育 ～「食べること」について考える～	事後：受講後の感想レポートを作成し提出する（45分）	
8.	栄養士実力認定試験 練習問題	事後：不正解の問題を再度解く（45分）	
9.	栄養士実力認定試験 解説	事後：解説を聞いて、教科書等で該当部分を通読し理解を深める（45分）	
10.	給食管理実習 I について（事前指導）	事後：事前指導の調査内容について準備対応を行う（45分）	
11.	身だしなみ講座	事後：受講後の感想レポートを作成し提出する（45分）	
12.	デート DV 予防講座	事後：受講後の感想レポートを作成し提出する（45分）	
13.	定期試験に向けての取り組み 学生心得再確認	事後：学生便覧の定期試験についての心得を通読し理解する（45分）	
14.	就職活動について 卒業生の講話（先輩からのアドバイス）	事後：受講後の感想レポートを作成し提出する（45分）	
15.	給食管理実習 II について（事前指導） キャリアアップ演習 I のまとめ	事後：事前指導の内容について理解を深めておく（45分）	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士に必要な基礎知識を普段から身につけておく。</li> <li>・開催日時の変更については、事前に連絡します。</li> </ul>			

成績評価の方法〔評価項目と割合〕		
授業への取り組み姿勢	レポート	
20%	80%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）。		
参考書又は参考資料等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生便覧</li> <li>・オリジナルテキスト</li> </ul>		
その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の内容について理解を深めるとともに、社会に関心を持ち、自分自身が今やるべきこと、できることを考えてください。</li> </ul>		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
講義開始後に改めて連絡をします。		

授 業 科 目 名	キャリアアップ演習Ⅱ		
担 当 者 名	学科教員	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2300055	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修	必修
ナンバリング	DP1-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>栄養士として実社会に身を置いた際、栄養士養成施設で学んだ内容だけでは十分とは言い難く、多くは授業だけでは補いきれない事象が発生する。その場において適切に判断する能力を養い、食に携わるプロとして社会に貢献できる人材を育成する。また、栄養士として実社会で活躍している先輩方を迎え、業務内容や専門職としての心構えなどを学ぶ。</p> <p>この演習授業は栄養士専門教科について理解を深めるために、教科授業に対する補講の位置付けとして行う。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養士の職務を深く理解する。</li> <li>2. 栄養士としての知識、技術の向上を図る。</li> <li>3. 栄養士として実社会に出る心構えを修得し、スキルアップを図る。</li> <li>4. 一人の人間として広く社会に目を向け、社会貢献の意義を理解する。</li> <li>5. 社会人としてのマナーや、社会生活において必要な知識と教養を修得する。</li> </ol>		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	オリエンテーション：授業目的と内容の説明 栄養士実力認定模擬試験	事後：模擬試験の不正解箇所について復習しておく（45分）	
2.	補講：給食管理論	事後：重要ポイントについて復習しておく（45分）	
3.	補講：栄養指導論	事後：重要ポイントについて復習しておく（45分）	
4.	補講：食品学各論・総論、食品衛生学	事後：重要ポイントについて復習しておく（45分）	
5.	補講：栄養学各論・総論	事後：重要ポイントについて復習しておく（45分）	
6.	補講：調理学	事後：重要ポイントについて復習しておく（45分）	
7.	補講：臨床栄養学概論	事後：重要ポイントについて復習しておく（45分）	
8.	補講：生化学	事後：重要ポイントについて復習しておく（45分）	
9.	専門職としての意識付け：先輩からのアドバイス	事後：受講後の感想レポートを作成し提出する（45分）	
10.	社会人としてのマナー①：社会人としての心構え	事後：受講後の感想レポートを作成し提出する（45分）	
11.	社会人としてのマナー②：接遇とビジネスマナー	事後：受講後の感想レポートを作成し提出する（45分）	
12.	消費生活・カードローンについて	事後：受講後の感想レポートを作成し提出する（45分）	
13.	年金の制度や仕組み	事後：受講後の感想レポートを作成し提出する（45分）	
14.	社会貢献：もがるかプロジェクト	事後：受講後の感想レポートを作成し提出する（45分）	
15.	社会人としてのマナー③：テーブルマナー	事後：配布資料に基づき講義全体を復習する（45分）	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日時の変更については事前に連絡します</li> <li>・栄養士に必要な基礎知識を普段から身につけておく</li> </ul>			

成績評価の方法〔評価項目と割合〕		
レポート	授業への取組み姿勢	
80%	20%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
使用しない		
参考書又は参考資料等		
オリジナルテキストを使用する		
その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・補講授業では教科書やオリジナルテキストを使用する</li> <li>・世の中の出来事に感心を持ち、社会人としてのマナーを身につけましょう</li> </ul>		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	



授 業 科 目 名	病院管理学		
担 当 者 名	中野 洋七	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2400009	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修	医療秘書必修
ナンバリング	DP5-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	病院管理の手法を通じ、国外の事例及び我国の過去から現在までの社会情勢を踏まえた上での医療・介護政策の把握。及び現状の医療機関の実態と問題点を職種による分析、病院機能評価の解析により理解していく事を目標とする。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	医療事務・医療秘書業務に不可欠な医療機関の基礎を学び、国（厚生労働省）の施策を理解する。		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	医療の歴史と医療経営	事前：テキスト指定範囲（掲示又は UNIPA にて通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
2.	日本の医療関連法規	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
3.	日本の医療政策①医療保険制度の仕組み	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
4.	日本の医療政策②医療提供体制の仕組み	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
5.	日本の医療政策③最近の医療政策と今後	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
6.	厚生労働白書から見た現在の医療・介護	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
7.	福岡県保健医療計画による医療・介護現場	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
8.	病院の組織	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
9.	職種による病院の把握① 医師・看護師・薬剤師	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
10.	職種による病院の把握② 放射線技師・臨床検査技師等	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
11.	職種による病院の把握③ 管理栄養士・社会福祉士等	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
12.	病院機能評価からみた医療① 患者中心の医療の推進	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	
13.	病院機能評価からみた医療② 良質な医療の実践	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）	

14.	病院機能評価からみた医療③ 理念達成に向けた組織運営	事前：テキスト指定範囲（前授業の中で通知）を通読のこと（90分） 事後：授業中使用した用語等の反復学習（90分）
15.	まとめ・小テスト	事前：1～14回の内容についてテキスト等において学習のこと（90分） 事後：小テスト（時間内にて返却）、及び講義全体をテキスト等で復習のこと（90分）
<b>準備学習・事後学習等についての補足説明</b>		
わかりにくい用語等は事前に学習し、疑問点は必ず質問すること		
<b>成績評価の方法〔評価項目と割合〕</b>		
定期試験	授業への取り組み姿勢	
60%	40%	
<b>使用テキスト</b>		
書籍名	著者	出版社
自製資料をテキストとして使用		
<b>参考書又は参考資料等</b>		
厚生労働白書・福岡県保健医療計画を使用（web公開資料）		
<b>その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕</b>		
第15回講義で実施する小テストは即日返却します。定期試験の資料として活用してください		
<b>担当教員の連絡先等</b>		
担当教員 E-mail	その他	
sch01310001@yahoo.co.jp		

授 業 科 目 名		医療事務概論	
担 当 者 名		萩原 勇人	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2400002	授 業 形 態
学 年		1	開 講 期
単 位 数		2	履 修
ナンバリング		DP5-1-A	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		医療事務の総合的な知識を身につけるための基礎として、医療機関での保険請求事務の基礎知識とともに、各種医療保険制度のしくみを学ぶ。また、診療報酬点数表を用いて、基本診療料の中から「初診料」と「再診料」、特掲診療料の中から「投薬料」と「注射料」のそれぞれについて、点数算定に必要な解釈を学ぶ。	
授業の到達目標 〔学習成果〕		1) 医療保険制度の概要について保険請求事務の流れから各種医療保険制度のしくみを理解する。 2) 診療行為別の点数算定方法とその解釈のうち、初診料、再診料、投薬料、注射料の各区分を理解し、点数計算ができるようになる。	
授 業 計 画		準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 等 ) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1.	オリエンテーション：授業の進め方、および評価の方法などについて	事前：シラバスの内容を事前に確認し、医療保険制度のあらましについて予習する（90分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（90分）	
2.	医療保険制度の概要 1： 医保・国保・後期高齢者医療制度	事前：医療保険制度に関する教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（90分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（90分）	
3.	医療保険制度の概要 2： 保険請求事務と窓口会計のしくみと流れ	事前：保険請求事務と窓口会計に関する教科書の当該ページを読み、しくみと流れについて確認しておく（90分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（90分）	
4.	医療保険制度の概要 3： 公費負担医療制度、療養担当規則、医療関係法規	事前：各種法規に関する教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（90分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（90分）	
5.	ミニテスト①：診療報酬請求事務 学科問題	事前：今までの授業内容を復習し、ミニテストに備える（90分） 事後：ミニテストの結果を確認し、間違った部分を復習し、訂正する（90分）	
6.	診療報酬点数表の解釈 1：初診料	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（90分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（90分）	
7.	診療報酬点数表の解釈 2：再診料	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（90分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（90分）	
8.	ミニテスト②：初診料・再診料 点数算定問題	事前：今までの授業内容を復習し、ミニテストに備える（90分） 事後：ミニテストの結果を確認し、間違った部分を復習し、訂正する（90分）	
9.	診療報酬点数表の解釈 3： 投薬料 I（薬剤の区分とカルテ上の見分け方）	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（90分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（90分）	

10.	診療報酬点数表の解釈 4 : 投薬料Ⅱ (薬剤料の計算単位と薬価計算)	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく (90分) 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する (90分)
11.	診療報酬点数表の解釈 5 : 投薬料Ⅲ (処方料、調剤料等の技術料)	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく (90分) 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する (90分)
12.	ミニテスト③：投薬料 点数算定問題	事前：今までの授業内容を復習し、ミニテストに備える (90分) 事後：ミニテストの結果を確認し、間違った部分を復習し、訂正する (90分)
13.	診療報酬点数表の解釈 6：注射料	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく (90分) 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する (90分)
14.	ミニテスト④：注射料 点数算定問題	事前：今までの授業内容を復習し、ミニテストに備える (90分) 事後：ミニテストの結果を確認し、間違った部分を復習し、訂正する (90分)
15.	まとめ： 授業内容の総括と定期試験範囲について (傾向と対策)	事前：今までの授業内容を総復習し、授業時に疑問点について質問できるように備える (90分) 事後：ミニテストの結果を確認・復習し、定期試験に向けて学習する (90分)

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

授業後に復習として、教科書に記載されている例題を解くこと。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

ミニテスト	定期試験	
40%	60%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
レセプト作成テキストブック 令和3年4月版		社会保険研究所

**参考書又は参考資料等**

**その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕**

授業、定期試験ともに電卓必携。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
hagiwara@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	診療報酬請求事務 I		
担 当 者 名	萩原 勇人	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2400005	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修	医療秘書必修
ナンバリング	DP5-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	「医療事務概論」に引き続き、診療報酬の点数計算に必要な診療行為別の算定方法と解釈について詳しく学ぶ。具体的には、診療報酬点数表を用いて、特掲診療料の中から「処置」「手術・輸血、麻酔」「検査・病理診断」「画像診断」「医学管理」「在宅医療」のそれぞれについて、点数算定に必要な解釈を学ぶ。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	診療行為別の点数算定方法とその解釈のうち、処置、手術・輸血、麻酔、検査・病理診断、画像診断、医学管理、在宅医療の各区分を理解し、点数計算ができるようになる。		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	診療報酬点数表の解釈 1：処置料	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
2.	診療報酬点数表の解釈 2：手術料	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
3.	診療報酬点数表の解釈 3：輸血・麻酔料	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
4.	ミニテスト①： 処置、手術、輸血、麻酔料の点数算定問題	事前：今までの授業内容を復習し、ミニテストに備える（30分） 事後：ミニテストの結果を確認し、間違った部分を復習し、訂正する（15分）	
5.	診療報酬点数表の解釈 4： 検査料 I（検査料全般の基本的な解釈）	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
6.	診療報酬点数表の解釈 5： 検査料 II（検体検査）	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
7.	診療報酬点数表の解釈 6： 検査料 III（生体検査、病理診断）	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
8.	診療報酬点数表の解釈 7：画像診断 I（単純撮影）	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
9.	診療報酬点数表の解釈 8： 画像診断 II（特殊撮影、造影剤使用撮影）	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	

10.	診療報酬点数表の解釈 9： 画像診断Ⅲ（コンピュータ断層撮影）	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）
11.	ミニテスト②：検査、画像診断料の点数算定問題	事前：今までの授業内容を復習し、ミニテストに備える（30分） 事後：ミニテストの結果を確認し、間違った部分を復習し、訂正する（15分）
12.	診療報酬点数表の解釈 10：医学管理料	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）
13.	診療報酬点数表の解釈 11：在宅医療	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）
14.	ミニテスト③： 医学管理、在宅医療の点数算定問題	事前：今までの授業内容を復習し、ミニテストに備える（30分） 事後：ミニテストの結果を確認し、間違った部分を復習し、訂正する（15分）
15.	まとめ：授業内容の総括と定期試験範囲について（傾向と対策）	事前：今までの授業内容を総復習し、授業時に疑問点について質問できるように備える（15分） 事後：ミニテストの結果を確認・復習し、定期試験に向けて学習する（30分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

授業後に復習として、教科書に記載されている例題を解くこと。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

ミニテスト	定期試験	
40%	60%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
レセプト作成テキストブック 令和3年4月版		社会保険研究所

**参考書又は参考資料等**

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

授業、定期試験ともに電卓必携。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
hagiwara@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	診療報酬請求事務Ⅱ		
担 当 者 名	萩原 勇人	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2400006	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	医療秘書必修
ナンバリング	DP5-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	「医療事務概論」と「診療報酬請求事務Ⅰ」で学んだ診療行為別の診療報酬の解釈と算定方法を基に、レセプト作成の実技演習を行い、診療報酬請求事務の総合的な内容について詳しく学ぶ。具体的には、診療科別のサンプル診療録（カルテ）を用いて、1 カ月間の診療内容に基づく診療報酬を算定し、レセプトを作成する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 診療報酬請求事務の総合的な力を身につける。 2) 様々な診療科のカルテから手書きでレセプトが作成できるようになる。		
授 業 計 画	準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間		
1.	レセプト作成演習 1： サンプルカルテ 1（内科系 投薬、注射料中心）	事後：作成したレセプトの内容を確認・訂正しながら復習する（45分）	
2.	レセプト作成演習 2： サンプルカルテ 2（内科系 検査中心）	事後：作成したレセプトの内容を確認・訂正しながら復習する（45分）	
3.	ミニテスト①： 点数算定の解釈（基本診療料）	事前：今までの授業内容を復習し、ミニテストに備える（30分） 事後：ミニテストの結果を確認し、間違った部分を復習し、訂正する（15分）	
4.	レセプト作成演習 3：サンプルカルテ 3 （内科系 検査、画像診断中心）	事後：作成したレセプトの内容を確認・訂正しながら復習する（45分）	
5.	レセプト作成演習 4：サンプルカルテ 4 （外科系 処置、手術、画像診断中心）	事後：作成したレセプトの内容を確認・訂正しながら復習する（45分）	
6.	ミニテスト②： 点数算定の解釈（特掲診療料）	事前：今までの授業内容を復習し、ミニテストに備える（30分） 事後：ミニテストの結果を確認し、間違った部分を復習し、訂正する（15分）	
7.	レセプト作成演習 5： サンプルカルテ 5（眼科系 生体検査中心）	事後：作成したレセプトの内容を確認・訂正しながら復習する（45分）	
8.	レセプト作成演習 6： サンプルカルテ 6（耳鼻系 処置、検査中心）	事後：作成したレセプトの内容を確認・訂正しながら復習する（45分）	
9.	ミニテスト③： 点数算定の解釈（医療関係法規）	事前：今までの授業内容を復習し、ミニテストに備える（30分） 事後：ミニテストの結果を確認し、間違った部分を復習し、訂正する（15分）	
10.	レセプト作成演習 7： サンプルカルテ 7（診療所 診療行為全般）	事後：作成したレセプトの内容を確認・訂正しながら復習する（45分）	
11.	レセプト作成演習 8： サンプルカルテ 8（病院 診療行為全般）	事後：作成したレセプトの内容を確認・訂正しながら復習する（45分）	

12.	ミニテスト④： 点数算定の解釈（療養担当規則）	事前：今までの授業内容を復習し、ミニテストに備える（30分） 事後：ミニテストの結果を確認し、間違った部分を復習し、訂正する（15分）
13.	レシピ点検演習 1:間違いのある作成済みレシピを点検・訂正する（診療所）	事後：点検・訂正したレシピの内容を確認しながら復習する（45分）
14.	レシピ点検演習 2:間違いのある作成済みレシピを点検・訂正する（病院）	事後：点検・訂正したレシピの内容を確認しながら復習する（45分）
15.	まとめ：授業内容の総括と定期試験範囲について（傾向と対策）	事前：今までの授業内容を総復習し、授業時に疑問点について質問できるように備える（15分） 事後：ミニテストの結果を確認・復習し、定期試験に向けて学習する（30分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

授業後に、作成したレシピの間違い箇所を再度確認し、訂正すること。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

ミニテスト	定期試験	
40%	60%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
レシピ作成テキストブック 令和3年4月版		社会保険研究所

**参考書又は参考資料等**

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

授業、定期試験ともに電卓必携。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
hagiwara@hcc.ac.jp	



授 業 科 目 名		医療秘書実務	
担 当 者 名		萩原 勇人	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		2400010	授 業 形 態
学 年		1	開 講 期
単 位 数		1	履 修
ナンバリング		DP5-1-B	
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		患者に親しまれ、医療従事者からは信頼される心ある医療従事者になるためのコミュニケーション能力を育む。また、実務面においては、医療の現場で即戦力として役立つスキルを学ぶ。授業の後半では、4～5人程度のグループに分かれ、グループごとにテーマを掲げ、医療秘書としてのロールプレイングを実施する。	
授業の到達目標 〔学習成果〕		1) 窓口会計処理の実務内容を身につける。 2) 医療機関における患者接遇（身だしなみ、マナー、適正な言葉遣いなど）を身につける。 3) 医療秘書の仕事内容を理解し、患者対応能力を身につける。	
授 業 計 画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション： 授業の進め方、および評価の方法などについて	事前：シラバスの内容を事前に確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
2	医療秘書とは： 医療秘書の仕事内容と役割について	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
3	医療機関の組織と管理： 病院管理業務について	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
4	医療秘書の実務： 具体的な仕事内容について （受付、病棟クラーク業務等）	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
5	窓口会計処理の実務： 外来窓口における医療秘書としての実務演習	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
6	医療秘書の接遇と交際：身だしなみ、マナー、敬語表現と適正な言葉遣い	事前：教科書の当該ページを読み、専門的用語について確認しておく（15分） 事後：授業内容についてノートをもとめて復習する（30分）	
7	ロールプレイング準備 A1：グループ編成、課題 テーマ説明、ストーリー展開	事後：チームごとに役割分担を決め、発表の原稿作成等の 詳細な打ち合わせを行う（45分）	
8	ロールプレイング準備 A2： リハーサル、問題点の修正等	事後：チームごとに具体的な発表内容について詳細な打ち 合わせを行う（45分）	
9	ロールプレイング実演 A1：前半グループ発表 （発表5分、質疑応答5分）	事前：チームごとに発表練習を行う（30分） 事後：各自指摘された反省点をまとめ、2回目の発表に備え て改善すべき内容を把握する（15分）	
10	ロールプレイング実演 A2：後半グループ発表 （発表5分、質疑応答5分）	事前：チームごとに発表練習を行う（30分） 事後：各自指摘された反省点をまとめ、2回目の発表に備え て改善すべき内容を把握する（15分）	

11	ロールプレイング準備 B1 : オリジナルテーマ設定、ストーリー展開	事後：チームごとに役割分担を決め、発表の原稿作成等の 詳細な打ち合わせを行う（45分）
12	ロールプレイング準備 B2 : リハーサル、問題点の修正等	事後：チームごとに具体的な発表内容について詳細な打ち合 わせを行う（45分）
13	ロールプレイング実演 B1：前半グループ発表 (発表 5分、質疑応答 5分)	事前：チームごとに発表練習を行う（30分） 事後：各自指摘された反省点をまとめ、2回目の発表に備え て改善すべき内容を把握する（15分）
14	ロールプレイング実演 B2：後半グループ発表 (発表 5分、質疑応答 5分)	事前：チームごとに発表練習を行う（30分） 事後：各自指摘された反省点をまとめ、2回目の発表に備え て改善すべき内容を把握する（15分）
15	まとめ：授業内容の総括と定期試験範囲に ついて（傾向と対策）	事後：今までの授業内容を総復習し、定期試験に向けて学習 する（45分）

**準備学習・事後学習等についての補足説明**

ロールプレイングに向けて、チームごとに役割分担を決め、発表の原稿作成・練習等、詳細な打ち合わせを行うこと。

**成績評価の方法〔評価項目と割合〕**

ロールプレイング	定期試験	
40%	60%	

**使用テキスト**

書籍名	著者	出版社
医療事務総論 / 医療秘書実務		建帛社

**参考書又は参考資料等**

医療事務職員のためのコミュニケーション・スキル  
-医師・上司・同僚とよい関係を築く- (西文社)

**その他〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕**

ロールプレイングでは、4～6人程度のグループワークとなるため、グループ単位で評価（グループ内メンバーは同一に評価）する。

**担当教員の連絡先等**

担当教員 E-mail	その他
hagiwara@hcc.ac.jp	

授 業 科 目 名	医療秘書実務実習		
担 当 者 名	萩原 勇人	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	2400008	授 業 形 態	実習（学外実習）
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修	医療秘書必修
ナンバリング	DP5-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	学外で実習を行う。実習先は、医院・病院・歯科医院であり、自己開拓を原則とする。実習の目的は、医療機関において医療秘書・医療事務に関する業務内容を実際に体験し、研修することにある。実習期間は、夏期休暇中の1週間（6日間）とする。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	机上では学ぶことのできない医療現場での実体験を通して、医療秘書実務士の役割とその業務内容を深く理解し、実践力を身につける。		
授 業 計 画 〔学外実習の内容含む〕			
<p>【実習内容】</p> <p>〔来院患者の対応〕</p> <p>初診患者受付、診察券の発行、カルテ作成、カルテ運搬など、 再来患者受付、再来患者カルテ用意など、 診察室への案内指示、患者の病歴聴取と医師への対応</p> <p>〔電話による患者対応〕</p> <p>診察予約、検査予約、問い合わせ全般</p> <p>〔診療の介助〕</p> <p>体温測定、身長・体重測定など、患者の衣服の脱着の介助など</p> <p>〔来客対応〕</p> <p>患者以外の来客（家族、取引先など）の対応</p> <p>〔事務作業全般〕</p> <p>医療事務、管理・運営事務などの補佐、郵便物の整理など</p> <p>〔環境整備〕</p> <p>院内の整備、清掃</p> <p>〔カルテ管理業務〕</p> <p>カルテ整理全般</p> <p>〔病棟クレーク業務〕</p> <p>病棟での事務作業全般の補佐</p>			
準備学習・事後学習等についての補足説明			
<p>1) 「医療事務概論」、「診療報酬請求事務Ⅰ」及び「診療報酬請求事務Ⅱ」、「医療秘書実務」のそれぞれで学んだことを再確認し、学外実習に向けて理解を深めておくこと。</p> <p>2) 事前指導後に、実習依頼、打ち合わせ等で実習希望先に事前訪問を行う。</p>			
成 績 評 価 の 方 法 〔評価項目と割合〕			
実習先からの評価	実習ノート	実習への取組み姿勢	
40%	40%	20%	

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
実習ノート		日本医療福祉実務教育協会
参考書又は参考資料等		
医療事務職員のためのコミュニケーション・スキル －医師・上司・同僚とよい関係を築く－（西文社）		
その他【実習に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて】		
実習先の選定方法、実習中の態度や学べき事項等など実習期間前に事前指導（2～3回）を行う。		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
hagiwara@hcc.ac.jp		